



沖縄県薬剤師会報

No.276. 2015(平成27年) 5・6月号



沖縄県薬剤師会

薬 剤 師 倫 理 規 定

平成9年10月 日本薬剤師会改訂

前 文

薬剤師は、国民の信託により、日本国憲法及び法令に基づき、医療の担い手の一員として、人権の中でもっとも基本的な個人の生命・健康の保持促進に寄与する責務を担っている。

この責務の根底には生命への畏敬に発する倫理が存在するが、さらに、調剤をはじめ、医薬品の創製から供給、適正な使用に至るまで、確固たる薬の倫理が求められる。

薬剤師が人々の信頼に応え、医療の向上及び公共の福祉の増進に貢献し、薬剤師職能を全うするため、ここに薬剤師倫理規定を制定する。

第1条（任務）

薬剤師は、個人の尊厳の保持と生命の尊重を旨とし、調剤をはじめ、医薬品の供給、その他の薬事衛生をつかさどることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって人々の健康な生活の確保に努める。

第2条（良心と自律）

薬剤師は、常に自らを律し、良心と愛情をもって職能の発揮に努める。

第3条（法令等の遵守）

薬剤師は、薬剤師法、薬事法、医療法、健康保険法、その他関連法規に精通し、これら法令等を遵守する。

第4条（生涯研鑽）

薬剤師は、生涯にわたり高い知識と技能の水準を維持するよう積極的に研鑽するとともに、先人の業績を顕彰し、後進の育成に努める。

第5条（最善尽力義務）

薬剤師は、医療の担い手として、常に同僚及び他の医療関係者等と協力し、医療及び保健、福祉の向上に努め、患者の利益のため職能の最善を尽くす。

第6条（医薬品の安全性等の確保）

薬剤師は、常に医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に努める。また、医薬品が適正に使用されるよう、調剤及び医薬品の供給に当たり患者等に十分な説明を行う。

第7条（地域医療への貢献）

薬剤師は、地域医療向上のための施策について、常に率先してその推進に努める。

第8条（職能間の協調）

薬剤師は、広範にわたる薬剤師職能間の相互協調に努めるとともに、他の関係職能をもつ人々と協力して社会に貢献する。

第9条（秘密の保持）

薬剤師は、職務上知り得た患者等の秘密を、正当な理由なく漏らさない。

第10条（品位・信用等の維持）

薬剤師は、その職務遂行にあたって、品位と信用を損なう行為、信義にもとる行為及び医薬品の誤用を招き濫用を助長する行為をしない。

目次

薬剤師倫理規定	
会務ハイライト	ハイリスク薬の薬学的管理講習会報告……………名嘉 紀勝… (2)
表彰	平成27年度 那覇市制功労者表彰 (被表彰者：西 登貴世先生)…………… (4)
行事予定	開催日が決定した平成27年度の主な行事…………… (4)
研修会	第176回 全国禁煙アドバイザー育成講習会in沖縄……………我喜屋美香… (5)
部会だより	女性薬剤師部会主催 第15回漢方講座報告……………與儀 明美… (6) 平成27年度学校薬剤師新任研修会報告……………佐次田 頌… (8) 学校薬剤師新任研修会へ参加して……………上里美也子… (9) 平成27年度日本医薬品卸勤務薬剤師会「研修会」参加報告……………城村 幹彦… (10)
地区だより	平成27年度 宮古地区薬剤師会総会報告……………前里由紀子… (12) 平成27年度 八重山地区薬剤師会総会報告……………山城 専… (13)
月例相談会	第121回 健康とおくすり相談会報告 (中部地区薬剤師会)……………石井 秀典… (14)
D I	薬事情報おきなわNo. 233……………薬事情報センター… (17)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報…………… (29)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第20回 カンダバー：サツマイモ葉……………狩俣 イソ… (30)
リレー随筆	道産子ダイバー……………吉富 弓江… (32)
投稿	第38回 沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ「ハッピーサマークラブ」に ボランティア参加してみませんか？…砂川 智子… (33)
卒煙物語	その52 気心知れた仲間……………えんこ… (34)
薬連だより	国会レポート～薬剤師の育成と薬学教育～……………藤井 基之… (35)
理事会	平成26年度第10回定例理事会議事概要…………… (36) 平成26年度第11回定例理事会議事概要…………… (43) 平成26年度第12回定例理事会議事概要…………… (53)
会務報告	平成27年4月～5月分…………… (63) 沖縄県薬剤師連盟会務報告 (平成27年4月～5月分)…………… (65)
転載記事	国際医療拠点骨太方針へ「自民沖縄調査会 西普天間跡地で議論」…………… (66) 琉大学長、新設を検討 (薬学部・獣医学部・醸造学科)…………… (66) 県薬剤師会 琉大に薬学部要請へ「創薬の研究者育成を」…………… (67) 全薬局「かかりつけ」移行 厚労省検討 医療費抑制狙う…………… (68) おきなわ津梁ネットワーク「患者の負担解消へ」…………… (68) グッドジョブ事業として薬剤師職能PR 浦西中でキャリア教育…………… (69) 沖縄タイムス「茶のみ話」掲載 「孫への読み聞かせ」……………狩俣 イソ… (69) 那覇市医師会報「生涯教育コーナー」に笠原大吾氏の 「アンチドーピングと薬物治療」が掲載される…………… (70)
会員作品	誌上ギャラリー (裏表紙) について…………… (72)
編集後記	…………… (72)
おしらせ	会報原稿募集のご案内…………… (11) 第29回 沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について……………学術大会実行委員会… (15) 会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について…………… (52) 県薬が会員に販売している印刷物等…………… (62)

・表紙

とよひらほううん
題字：豊平峰雲

「M31 アンドロメダ星雲」 photo by 西坂 順 (ふく薬局うむさ店・名護市) 撮影地：沖縄県 竹富町 波照間島

会務ハイライト

ハイリスク薬の薬学的管理講習会報告

日時：平成27年4月18日（土）19:00～20:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

< 式次第 >

○あいさつ

○講習

よりよい薬歴管理を実施するための高齢者におけるハイリスク薬の薬学的管理について
～ 腎排泄性薬剤の処方監査を徹底しよう ～

講師：東京薬科大学客員教授・東京都薬剤師会常務理事 松本 有右 先生

座長：青年薬剤師部会 名 嘉 紀 勝

○質疑応答

去る4月18日、学術研修委員会主催の「ハイリスク薬の薬学的管理講習会」が、東京都から松本有右先生を講師にお迎えし開催された。会場は112人の参加があり活気ある勉強会になった。参加の意思の質問に対して、自主参加がほとんどであったことから、このテーマに関心があるのが伺えた。松本先生は、私の研修生時の恩師であったので身の引き締まる思いで座長を務め、拝聴した。

講義には、レスポンスカード（準備された質問に回答するボタン付きのカード）が参加者に配布され、先生からの質問にその場で集計をとる方式で進められる聴講者参加型の講義で、飽きさせない、面白い講義となった。講義中に「皆さん、ハイリスク薬をどのようにとらえていますか？」「どのように注意をしていますか？」などの質問が先生から会場になげられ、参加者のレスポンスカードから発せられた回答が集計されてスクリーンにグラフ化されて映し出された。

『ハイリスク薬』とは、薬剤師の業務において、副作用や調剤過誤に特に注意が必要で、安全管理のため薬学的管理の関与が必要な医薬品である。それは安全管理を誤ると患者に被害をもたらさうる医薬品であり、それらの薬剤は用量、用法、薬物相互作用の確認、副作用や薬物依存の説明と確認、治療薬物モニタリング等が必要とされている。ご存知



医療法人以和貴会 西崎病院
名嘉 紀勝

の通り、2010年には保険調剤に特定薬剤管理指導加算が算定できるようになった。これは安全管理（服薬管理）において薬剤師の専門性が評価されたことになる。

では、ハイリスク薬管理はどのようになされていますか？

病院ならTDM等の検査ができるが、薬局では患者からの情報とモニタリングによるだけである。ここでより気を付けないといけないのは、限られた情報において、添付文書通りのチェックで済ませてはいけないこと。実際には、加齢により生体の機能が衰えていることも考慮しなくてはならない。例えば、腎排泄性の薬剤であれば、高齢者への処方



あいさつ
神村 武之 会長



司 会
渡具知 一枝氏



講師
松本 有右氏



聴講者のレスポンスカードから寄せられた回答が集計されてスクリーンにグラフ化され映し出された

は服用量の確認、算出が求められる。そのためには、従来の患者インタビューに、病態、様子の観察に身長、体重の確認だけでなく、血清クレアチニンクリアランス (Scr) による腎機能の把握も不可欠である。腎機能低下患者の投与設計ができる理由には、以下の点による。

- ①腎機能が同じならば、至適投与量の個人差が少ないこと。
- ②腎機能を表す糸球体濾過率 (GFR) は、eGFR、CLcr、またはScr値でほぼ代用できる。

血清クレアチニン値を入手できれば、腎機能に応じた患者のハイリスク薬等の腎排泄性薬剤の適正な用法・用量のチェックができる。先生が所属している八王子薬剤センターにおける簡易測定器（これは自己血糖測定 [SMBG] と同様な手技で血清クレアチニン値を測定することができる）を使用して検討した報告があり、患者の腎機能を知る手立てになり、投与量の算出までできる。先生御自身と八王子薬剤センターの取り組みを発表して下さいました。

先生より、薬剤師は検査数値の把握に更に意欲を持つようエールが送られ、閉会となった。

今回の講習会を受講して、2014年の改正薬剤師法により、第25条の2が「情報提供及び指導の義務」と変わり、薬学的知見に基づく指導が薬剤師に求められていることの重要性が知らされた。これにより、薬剤師はより一層薬物動態の知識を深め、一人一人の患者さんに適した情報の提供や指導を行うことが必要になってくる。前述した腎機能は一例で、ADME (A: 吸収、D: 分布、M: 代謝、E: 排泄) を把握し、患者さんに適切な情報提供やモニタリングをしていく技術を習得し、個々の患者さんにどのような副作用が起りやすいか、また、どのような兆候がみられたら重大な副作用に至るのか注意しなければならない。在宅医療も活発になってきている今、患者さんからの薬に対する疑問や不安の解消に薬剤師は期待されている。これからの薬剤師は、薬剤の一般的な使用法に加え、病態を踏まえた細かな調節に至るまで理解していかなければならない。



座長を務めた 名嘉 紀勝氏



多くの参加者があった

平成27年度 那覇市制功労者 表彰



西登貴世先生 おめでとうございます
那覇市制施行94周年記念式典にて表彰

期日：平成27年5月20日(水) 会場：那覇市パレット市民劇場



左から3人目が西登貴世氏

開催日が決定した平成27年度の主な行事

《 第72回 沖縄県薬剤師会 通常総会 》

会期：平成27年6月21日(日) 13:30～ 会場：県薬会館ホール
※通常総会開催前の13:00から、沖縄県薬剤師連盟評議員会が開催されます。

《 平成27年度 新任・新人薬剤師研修会 》

会期：平成27年7月5日(日) 13:00～ 会場：県薬会館ホール
※研修会開催前の12:00から隣接の県立南部医療センター・こども医療センター薬局の施設見学が予定されています。(集合：11:30に県薬会館研修室)

《 調剤報酬請求業務講習会 》

会期：平成27年8月16日(日) 会場：浦添市てだこホール

《 第2回 症例検討入門研修会 》

講師：大澤友二先生
(福岡薬物治療研究会会長、九州大学薬学部非常勤臨床教授、元昭和薬科大学教授)
会期：平成27年8月29日(土) 19:00～ 会場：県薬会館ホール

《 なごみ会主催 県民健康フェア 》

会期：平成27年8月9日(日) 会場：沖縄コンベンションセンター 展示棟

《 くすりと健康フェア 県民公開講演会 》

会期：平成27年10月22日(木) 18:30～ 会場：那覇市パレット市民劇場

《 第28回 沖縄県薬剤師会学術大会 》

会期：平成27年11月1日(日) 会場：県薬会館ホール 他

研修会

第176回 全国禁煙アドバイザー育成講習会 in 沖縄

日時：平成27年3月7日（土）17:30～21:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

主催：日本禁煙科学会、沖縄県薬剤師会、KK沖縄

後援：沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県小児科医会

沖縄県小児保健協会、沖縄県健康づくり財団

沖縄県看護協会、沖縄県保健医療部

保健福祉委員会
我喜屋 美香



毎月全国のどこかで行われている禁煙アドバイザー育成講習会、176回目はここ沖縄で行われました。毎回思うのですが、その時期の禁煙事情を学び、自分の中での禁煙支援のステータスを上げるにはかっこの研修会であると常日頃感じます。実際、今回の研修会もその目的を裏切ってはくれませんでした。

今回のスタートは夕食付イブニングセミナー by 高橋（奈良女子大学・高橋裕子先生）電子タバコも有害であることを誰がこのように語ってくれたのでしょうか？水蒸気だけと思ったら大間違い。WHOは使用しないように警告を発しています。また、タバコの本数を減らしても体に入る有害物質は減らない。ニコチン濃度は増えることもある。さらに、高橋先生からの目から鱗の新情報は続きます。

禁煙補助薬を使用しないと、うつ病になりやすい。禁煙補助薬を使用しないと体重が増えやすい。薬を使うと作業能率が落ちない。等々

また、三浦秀史先生（禁煙マラソン事務局長）からは職場の禁煙についてのレクチャーがありました。衝撃的な数字です。東京都目黒区の在職死亡者の35%がスモーカーだったと・・・禁煙という商品売りたいという気持ちから職場・地域社会での禁煙支援に奔走されています。昨今では、事業主が動き出しました。作業効率（喫煙時間）、施設効率（喫煙場所）、職場環境（不公平さ）、全てがこの企業の将来にかかってきますね。

高橋先生のラストレクチャーから・・・2点ほど紹介します。

まず1つ・・・禁煙外来担当者の先生方・・・耳が痛いです。再喫煙問題・・・再喫煙は50～90%に起こる普遍的な事象。禁煙している人は毎日氷河の上を歩いているようなもの。非喫煙者の日常と同じではない。薬が効いていたら喫煙欲求は出ないはず。処方の方が悪い！1日40本吸う人には40本に見合う薬が必要。

そして最後に、喫煙者心理に基づく簡単動機づけ声かけ法4A+Aワーク（Accept承認、Admire賞賛、Ask質問、Advice助言+Arrange今後への準備）を行い、魔法の言葉を教えてもらいました。手ごわい喫煙者への声掛け法です。このようなスキルを学ぶことはとても大事です。「人は変われます」「人は化けます」詳しくは高橋先生著「職場のたばこ対策」をご覧ください。

その他、禁煙支援に関わる盛り沢山の情報を先生から受け、更に我々の背中をおして下さいました。

いつも高橋先生は教科書に書いてないご自身の体験からしみ出たことを語り、情報を提供して下さいます。高橋先生・三浦先生本当にありがとうございました。このように毎年、何らかの形で沖縄を支援して下さい先生方に感謝し、それに応える行動を起こしていこうと思う今日この頃でした。KK沖縄の皆様、本当にありがとうございました。

部会だより

女性薬剤師部会主催 第15回漢方講座 報告

日時：平成27年1月18日（日）11：00～14：50

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

講師：佐賀県 清水医院

院長 清水 正彦 先生

<式次第>

- ツムラ漢方情報提供
 - 基礎講座(授乳と漢方)
 - 応用講座(症例検討・解説)
- テーマ「証の捉え方と対処方法」

今回は、前回（第14回漢方講座「妊娠と漢方」）の復習も兼ねた形で、「授乳と漢方」と題して講演が行われました。最初に妊婦、授乳婦に対する漢方製剤投与時の留意点として下記の7項目の提示がありました。

- 医療用エキス製剤での催奇形性の報告はない。流産、早産に関して、重篤な問題の報告は見られない。
- 医療用エキス製剤には妊娠中に禁忌の生薬は含まれていない。（しかし、エキス製剤には入っていないが、禁忌の生薬は存在する）
- 医療用エキス製剤には慎重投与のものがある。
- 妊娠4週～15週（器官形成期）。漢方エキス製剤であっても、安全性に対する検証は確立されていないので、できるだけ使用は控えることが望ましい。
- 妊娠16週以降でも、症状の改善が見られたら早急に休薬することが望ましい。
- 妊娠、胎児に対する安全性、病態に対する有効性の熟考を。
- 授乳婦に関して留意すべき生薬として、禁忌ではないが大黃、麻黄、附子などがある。

さらに、これらについての詳しい説明がありました。

妊娠中に漢方薬を使う際、流産・早産につながる①胎盤剥離の危険性、②子宮平滑筋の過剰収縮を常に念頭において考える。



ハーブ薬局とみしろ店
興儀 明美

禁忌の生薬

エキス製剤には含まれていないものの、生薬成分（煎じに使うことあり）として以下の禁忌成分があり注意を要する。

- ・瀉下作用：大横の強力版として
甘遂（かんつい）、大戟（だいきげき）、商陸（しょうりく）、げん牛子（げんごし）、巴豆（はず）
- ・破血作用：西洋薬でいえばワーファリン。血流が良くなりすぎる。
三稜（さんりょう）、水蛭（すいてつ）、しゃ虫（しゃちゅう）
- ・活血作用：切迫流産を起こす危険性
莪朮（がじゅつ）

* 牡丹皮には破血作用とまではいかないにしても血流改善作用があり、不妊治療に使われることもあるが、妊娠したらすぐにやめること。桂枝茯苓丸は牡丹皮のほか、4成分も含まれているので破血作用は緩和される。

慎重投与の生薬

禁忌生薬と同じく単独の使用には注意が必要だが、エキス製剤では他成分により緩和される。

- ・子宮収縮作用：紅花、牛膝、大黃、枳実
例：薬局で大黃甘草湯を妊娠・授乳中の方に販売する場合、病院から潤腸湯などの大黃が入っている漢方薬が処方されていることもあるので、その場合は販売しない。確認！

- ・利尿作用：厚朴（緊張を緩める）、乾姜・附子・呉茱萸（温めながら）、芒硝（Mgのこと、冷やしなから）

- ・その他前記の①、②に影響する生薬：
半夏（半夏厚朴湯をつわりに使用、半夏と生姜はペアでつかうと半夏の欠点を生姜が緩和）、桃仁、牡丹皮、酸棗仁

前記①、②以外を念頭において慎重投与すべき生薬

- ・脱水傾向への危惧：
半夏、ヨクイニン、呉茱萸、附子
- ・頻脈、血圧上昇、児の興奮やほてり：
附子、麻黄、人参

○妊娠中・授乳中の風邪について

炎症が少なからずある場合：

ベースに66番参蘇飲が良い。

加えて発汗がナシなら葛根湯、発汗アリなら桂枝湯を併用。66番3日分に1日分併用等。

炎症が強く高熱で咳、痰、食欲不振なら小紫胡湯や紫胡桂枝湯を併用。浮腫が強い時は当帰芍薬散（圧痛があり、冷えや浮腫の症状があるとき）を併用。乾咳、舌乾燥なら麦門冬湯（妊娠中の咳↑には麦門冬湯は安心だが、咳↑時には参蘇飲を併用しながらの方法もある）。

炎症がほとんどない場合：冷え・胃腸虚弱、神経質なら香蘇散3日間で対応。

※香蘇散をバージョンアップしたのが参蘇飲。

妊娠中一番安心して使えるのは参蘇飲でそれを飲みながら桂枝を追加してゆく。

※一般的に妊娠中・授乳中でも風邪を

引いた時に細菌性疾患を疑って抗生剤（ペニシリン系。セフェム系）が投与されるが、まれにEBウイルスの可能性も否定できない場合があり、上記抗生剤投与で急激な発熱症状来たらマクロライド系への変更が必要などがある。

○妊娠中・授乳中の便秘・下痢について

便秘時、カマグ：ある程度冷やす。

大黃：かなり冷やすがエキス製剤は安心。

※大黃の母乳移行は少なからずあるが、ごくわずかである。それでも乳児が下痢をしたら中止。医師に確認を。ただし、下痢が薬のせいと考える人が多いのにも注意を。食事の内容（油っこいものを食べていないか）ミルクの飲ませすぎなども考慮する。

桂枝加芍薬湯（60番）：体が弱って交感神経が緊張し、かゆみ↑、頭痛のある人でお腹が弱い人に効果的。ただし、シナモンアレルギーの人は不可。

小建中湯：下痢に関しては安心。内容はほとんど食料。

当帰建中湯：小建中湯から飴を抜いて当帰を加えたもの。これも下痢に関しては安心。

桂枝加芍薬大黃湯：大黃を少し加えているが、安心して使え、これでダメな時は体が乾いている。潤腸湯などもある。

○妊娠・授乳期の関連疾患にかかわるエキスの使用上の注意点

- ・大黃、芒硝、桃仁、牡丹皮、紅花の含有量が多いものは注意
- ・麻黄（エフェドリン）：血圧↑、脈拍↑、児興奮やほてり
- ・附子（アコニチン）：血圧↑、脈拍↑、舌のしびれ等
- ・人参：浮腫、血圧↑、体重増加、
- ・甘草：偽アルドステロン症（浮腫、血圧↑、低カリウム血症）、清涼飲料水にも注意

部会だより

平成27年度 学校薬剤師新任研修会 報告

日時：平成27年4月26日（日）10:00～12:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

浦添総合病院
佐次田 頌



去る4月26日（日）、平成27年度新任学校薬剤師研修に参加してきましたのでご報告致します。

学校薬剤師をしていた父より、「やってみないか」と言われたことをきっかけとし、今年度より学校薬剤師をさせて頂くことになりました。父がやっていたこともあり、学校薬剤師の活動に関してはある程度把握をしておりましたが、実際どうしていいのかわからず終い。そんな時に学校薬剤師新任研修があると聞き参加致しました。

参加して感じたことは、経験年数の浅い薬剤師はおらず、参加者のほとんどがベテランの先生方であったことです。沖縄県の学校薬剤師の実態として、配置されている学校数が487校に対し、学校薬剤師数は165名。1人平均約3校を担当していることとなります。通常業務への負担が大きく、若手薬剤師の積極的な参加の必要性を感じました。

さて、本題の報告内容に入りますが、以下の3つの項目に関して講義が行われました。

1. 学校薬剤師の役割について
2. 学校環境検査について 基本3検査（教室等の空気・照度、飲料水・プール水の水質の各検査）等の理論と演習、報告書の書き方
3. 薬の正しい使い方と薬物乱用防止教室のすすめ方

1. 学校薬剤師について

(1)学校薬剤師とは

大学を除く幼稚園、小学校、中学校、高等学校には、学校医、学校歯科医と共に、学校薬剤師を必ず置くことになっています。学校3師ともよばれます。扱いは、学校の非常勤職員となります。

(2)学校薬剤師の主な勤務

- ①学校保健計画・学校安全計画の立案に参加すること。
- ②学校環境衛生基準に基づいた学校の飲料水、水泳プール、照度、空気、換気、騒音などの検査をすること。
- ③学校環境衛生について指導と助言をすること。
- ④学校で使用する医薬品について指導と助言をすること。
- ⑤学校、地域社会において「薬物乱用防止の活動」、「禁煙・飲酒防止教育」、「アンチドーピング」、「医薬品の適正使用」の啓発に協力すること。
- ⑥健康相談に医師・歯科医師とともに関わること。



2. 学校環境検査について

空気、採光及び照明、水質及び施設・設備、騒音に関する測定方法、検査回数、実施項目、評価、記録の仕方についてわかりやすく教えて頂きました。

3. 薬の正しい使い方と薬物乱用防止教室のすすめ方

従来まで、高等学校で学んでいた「薬の教育」が中学校から開始されており、学年の早い段階から喫煙、飲酒、薬物

乱用防止教育を行う必要性を改めて実感しました。

今回、とても有意義な研修会に参加させて頂き有難うございました。

今後、学校薬剤師として地域社会そして青少年育成に貢献していきたいと思っておりますので、学校薬剤師の先生方、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。

< 学校薬剤師新任研修会へ参加して >

去る4月26日に、沖縄県薬剤師会館にて「学校薬剤師新任研修会」へ参加させていただきました。

講習内容として、学術研修担当の笠原大吾先生による学校薬剤師の役割や学校環境検査についての基本3検査等の理論と報告書の書き方の要点、試験監査センターの小泉宝之先生による学校環境検査の採取の方法・要点を中心に行われました。また、沖縄県の学校薬剤師は、配置されている学校数487校に対し165名と、一人平均3校を担当している状況にあることがわかりました。

まず、学校薬剤師の役割として主な職務は、
 1. 学校保健計画・学校安全計画の立案に参加する
 2. 学校環境衛生基準に基づいた学校の飲料水、水泳プール、照明、空気、換気、騒音などの検査
 3. 学校環境衛生について指導と助言を行う
 4. 学校で使用する医薬品について指導と助言を行う
 5. 学校、地域社会において「薬物乱用防止活動」、「喫煙・飲酒防止教育」、「アンチドーピング」、「医薬品の適正使用（くすり教育）」の啓発に協力する
 6. 健康相談（医師や歯科医師と共に関わる）以上、6項目が挙げられます。

その中でも2項目の学校環境衛生基準に基づいた学校の飲料水、水泳プール、照明、空気、換気、騒音などの検査は重要です。



会営薬局うへはら
上里 美矢子

基本3検査として①空気（揮発性有機化合物：VOCs、ダニ又はダニアレルゲン）②採光及び照明 ③水質（飲料水・プール水）及び施設・設備と騒音測定は、学校薬剤師執務記録簿に検査結果と評価（指導助言）を記載し、検査日から5年間の保存となっています。

上記の学校環境検査の採取の方法・要点について、検査時の時間帯や採取後の保管方法など、特に水質検査は採取後冷所保管にて当日中に提出することが望ましいなど測定機器を用いての説明がありました。

新たな学校薬剤師の役割として、平成21年度から「健康相談」に関して医師や歯科医師と共に関わることや、中学校では平成24年度から、高校では平成25年度から新学習指導要領において「医薬品の正しい使い方」、「薬物乱用防止」など Team Teaching という形で参加していく内容が増えてきています。

一新任学校薬剤師として、基本職務の徹底と「医薬品の適正使用（くすり教育）」、「アンチドーピング」等職務内容の充実を目指し、学校や地域と連携しながら努めていきたいと思っております。

部会だより

平成27年度 日本医薬品卸勤務薬剤師会「研修会」参加報告

日時：平成27年5月15日（金）13:00～16:30

会場：大手町サンケイプラザ（東京都）



(株) 琉薬
城村 幹彦

【講演①】「なぜ今、偽造医薬品なのか？」

金沢大学医薬保健研究域薬学系
国際保健薬学 木村 和子 教授

木村教授は日本では数少ない偽造医薬品研究の第一人者で、2013年よりAFHの社外取締役も兼任されている。偽造医薬品について国内ではあまり話題に取り上げられないが、世界中では国際会議が開催されるほどホットな話題となっている。内資系メーカーも海外の取引においては、例外なく被害にあっているのが実情である。国内での偽造医薬品による被害は、殆どがインターネットを介した個人輸入によるもので、痩せ薬やED治療薬などが多い。偽造医薬品の組成は、全く有効成分が含まれていない（無成分）、内容成分が異なる（誤成分）、有効成分量が極端に少ない（含量違い）など様々であるが、誤成分の場合致死的な成分の場合もあり危険度が高い。また、抗生物質で含量が少ない場合には耐性菌出現の原因となっていることが予想される。

海外の偽造医薬品製造者は犯罪組織と密接な関係にあり、偽造医薬品の売り上げが犯罪組織の資金源となっている。経済的には、偽造医薬品の流通により全世界1年で約9兆円の損害が製薬業界で発生していると報告されている。また、最近になり海外では医療用医薬品の偽造品も出回るようになり、ワクチンや抗がん剤などの偽造品で大量の死亡者が出る事故も発生している。このような事例を未然に防ぐために、欧米では罰則の強化や

インターネット取引への規制・安全策が進みつつあるが、わが国では法整備を含めた対策が遅れているために、近い将来には日本が偽造医薬品製造者の標的になる可能性が高い。

我々医薬品卸にとっても傍観している場合ではなさそうである。

【講演②】「化学物質の毒性発現機構と生体防御機構 ～PM2.5を中心に～」

東京薬科大学薬学部 公衆衛生学教室
藤原 泰之 教授

近年になり、中国を発生源とした環境汚染物質PM2.5が取り上げられ社会問題となっている。中国、中でも北京の大気汚染は凄まじく、日中でも太陽光が遮られて薄暗い様子は報道などで目にする機会も多い。大気汚染物質にはNO_x、SO_xなど様々な物質があるが、PM2.5は粒子径2.5 μm以下の固体・ガスの総称である。人工衛星からの観測では、インド内陸部と中国内陸部に発生源が集中している。最近では、発生源の中国のみならず隣国の韓国・日本でも濃度測定が行われており、インターネット上でリアルタイムの数値が公表されている。人体への影響は様々な報告があり、中国では2010年の死者の約15%に当たる120万人がPM2.5の影響で早死にしたとの結果が出ている。PM2.5は粒子径が小さいため呼吸により肺に吸い込まれた場合、肺組織の末端の肺胞まで届いてしまい、慢性閉塞性肺疾患や肺がんなどの呼吸器疾患や虚血性心疾患

などの循環器疾患を引き起こすことが分かっている。PM2.5に含まれる有害な成分としては、NO_x・SO_x以外にも発がん性物質のベンゾ[α]ピレンや活性酸素、キノン誘導体の多環芳香族などがある。国内での法整備はまだ不十分で、PM2.5は大気汚染防止法で規制されていない状況であるため、各自治体が自主的に注意報などを出している。

PM2.5はともすると工場からの排出ガスや自動車排気ガスのみが発生源と思われ

がちであるが、自然界でも火山や森林、雷雲、海面からも発生し、発生源の特定は必ずしも単純ではない。また、測定技術や研究の進歩でクロージアアップされただけで、PM2.5自体は過去からあったはずである。今のところ、決め手となる対策は無いので、健康弱者は日常の健康管理に留意すると共に、注意報発令時には外出を控える、防塵マスクを着用するなどの措置が必要である。

会報原稿募集のご案内

広報委員会

ととし
お寄せ
下さい!

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

地区だより

平成27年度 宮古地区薬剤師会総会 報告

日時：平成27年5月23日（土）18:00～19:00

会場：シモジ薬局 2階 会議室



広報委員会 宮古通信委員
前里 由紀子

＜川満正啓 宮古地区薬剤師会会長あいさつ＞

近年、医薬分業に対するバッシングが再燃しつつあります。特に昨年発覚した薬歴未記入問題は、国民の分業に対する不信感を一層煽ることになりました。また、病院内薬局の設立を望む声もあがり、このままでは、今日まで築きあげてきた医薬分業制度は将来消滅してしまう可能性もあります。このような危機的状況、また家庭内残薬500億円と言われる中で、残薬を確認することによる医療費の削減、在宅、セルフメディケーションなどに積極的に取り組み、より地域に密着した健康拠点となるべく「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」の機能を強化していきましょう。

議案第1号では、沖縄県立宮古病院のFAX送信システムを変更することにより、事務用消耗品費が安くなった（送信システムの変更費用は宮古病院移転新築準備金より充てられた）。そのため、FAX負担金は現在の90円に据え置きになる。

議案第2号では、PMDAの登録・報告の推進、自殺防止対策のゲートキーパーとしての

宮古福祉保健所との連携、残薬確認を通して医療費の削減、特定医療材料に関する勉強会の開催予定、そのほか26年度決算、27年度予算案、役員改正、担当人事の件などが承認されました。

＜神村武之 県薬会長あいさつ＞

昨年に引き続き、宮古地区の総会に出席することができ、宮古地区としての活動に感動している。薬歴未記入問題、処方箋の70%が門前の薬局に集中している現状、2025年のかかりつけ薬局制度、病院からの検査値の提供などにどう対応するかなど問題は山積みだが、我々はもっともっと勉強して専門性を深め薬剤師の職能をアピールしていきましょう。また個人的には県薬剤師会会長の任期が終わります。次期会長にも今まで以上に離島の意見を伝えて下さい。

総会の後は、居酒屋「市場食堂」にて、県立宮古病院、宮古南静園、宮古島リハビリ温泉病院、宮古福祉保健所からも参加があり、楽しく意見交換を行いました。

＜宮古地区薬剤師会総会 式次第＞		司 会	古謝 真己
1. 開会の辞			司会
2. 会長挨拶		会 長	川満 正啓
3. 議長選出			
4. 議長登壇 挨拶 点呼 宣告		会 長	川満 正啓
5. 議題			
報告 第1号 平成26年度事業報告		副会長	古謝 真己
第2号 平成26年度会計監査報告		監 事	方 智子
第3号 県薬理事会報告		県理事	下地 仁
議案 第1号 平成26年度決算承認の件		会 計	下地 睦夫
第2号 平成27年度事業計画（案）承認の件		会 長	川満 正啓
第3号 平成27年度会費額に関する件		会 計	下地 睦夫
第4号 平成27年度FAX負担金に関する件		会 計	下地 睦夫
第5号 平成27年度予算（案）承認の件		会 計	下地 睦夫
第6号 役員改正及び担当者人事の件		会 長	川満 正啓
6. 県薬剤師会会長挨拶		県薬会長	神村 武之
7. 閉会の辞		副会長	古謝 真己

地区だより

平成27年度 八重山地区薬剤師会総会 報告

日時：平成27年4月17日（金）20：30～22：00

会場：大濱信泉記念館（石垣市）



八重山地区薬剤師会
会長 山城 専

＜平成26年度収支決算報告＞

＜平成27年度予算案＞

＜FAXコーナー平成26年度収支報告＞

FAX送信1回あたり100円とすることを決定（4月分より）

＜平成27年度事業計画目標＞

- 沖縄県立八重山病院との定期的に分業連絡協議会
- 健康とおくすり相談会（6月～9月の間に小浜公民館で予定）
- 健康福祉まつり参加（12月）
- 保健所による出前講座要請
- AEDや救命訓練の復習、バイタルチェックの講習会（平成27年1月～3月に予定）

月例相談会

第121回健康とおくすり相談会報告

日時：平成27年3月8日（日）7:00～14:00

会場：具志川ドーム（うるま市）

担当：中部地区薬剤師会

与勝病院
石井 秀典



春の陽気が漂い出し、運動には絶好の日和となった第7回ゆいゆいウォーキングの2日目。スタート&ゴール地点の具志川ドームにて、健康とおくすり相談会が実施されました。

まず、ゆいゆいウォーキングフェスタって？と思い、調べてみたところ…「金武湾を取り囲む、宜野座村・金武町・うるま市の3自治体が連携し、地域活性化を図るため「健康長寿」と「観光振興」の観点から、県内外問わず多くの方が集い、交流できるウォーキング事業」とのこと。この日だけでも参加者911名！とても賑わいのある行事でした。

今回参加頂いた薬剤師は12名。具志川ドームにて体組成計と血圧脈波検査装置を使っの相談会を行いました。

健康志向の強い方々が参加されているので、あまり相談に来られないのではと思っていましたが、ピーク時にはウォーキングを終えた方々が列を成すほどの盛況ぶり。合計69名の方の健康相談をお受けすることができました。

脈波検査装置は動脈硬化の程度を推測できる機器ですが、正しく脈を取ることが難しく、四苦八苦しながらの作業。普段、患者さんの体に触れる機会がほとんどない私にとって、貴重な体験をさせて頂きました。相談に来られた方の中には、体組成計を試してみたくて…という見る限り健康的な方々も多く、特に野球チームの方々の筋量にはびっくり！（私は筋肉量の少ない体格なので、少し分けて欲しいなあ）

◆健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

- 江夏 京子 ○仲座 方利 ○普久原 隆
- 蒔 初子 ○伊佐 常隆 ○藤原 明人
- 西村 浩彦 ○照屋 洋子 ○池原智香子
- 福地 健治 ○上原 千春 ○石井 秀典

しかし、そういった方の中でも、禁煙したいがどうしても…という方、最近すこしお腹周りが…という方など、健康に関する何らかの相談はあり、こういった機会を相談者が健康増進に取り組むきっかけにすることが、薬剤師の存在感を大きくする1歩となるのかな？とも感じました。その一方で、現在病医院に通っている方からの相談もあり、血圧やコレステロールに関する素朴な疑問から、薬の服用方法についてなど、多くの相談をお受けしました。

今回の相談会をお手伝いさせて頂き感じたことですが、薬剤師が薬局の外に出て、病医院と縁の無い方からも気軽に相談を受けることで、患者さんのみならず健康な人にも、薬剤師をより身近な存在として感じてもらえると思います。また、自治体の活動をこまめに確認して、健康増進につながる情報を周囲に広報していくことも医療人として出来ることかもしれないと感じました。

最後に余談ですが…相談会から帰る際、金武名産の豚をつかったヘルシー豚丼の出店（とても美味しかったです！）があるにも関わらず、金武名物タコライスの出店の前には老若男女、BMIの高低に関わらず、多くの方が長蛇の列をなし、せっかく消費したカロリーをしっかり補給していました。沖縄の健康増進はまだまだこれからだ！



第29回沖縄県薬剤師会学術大会の演題の募集について

会 員
部 会 長 各 位
地区支部長

沖 縄 県 薬 剤 師 会
学 術 大 会 実 行 委 員 会

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の学術大会を来る平成27年11月1日（日）沖縄県薬剤師会館に於いて開催することになりました。

つきましては、下記により演題を募集致しますので、多数の申込を頂きますようお願い申し上げます。
但し、原則として1施設1演題とします。

記

- 演題募集部門名：①保険薬局部門 ②学校薬剤師部会 ③女性薬剤師部会 ④公衆衛生部門
⑤行政薬剤師部会 ⑥病院診療所部会 ⑦卸勤務薬剤師部会 ⑧青年薬剤師部会
⑨開局部門 ⑩医薬品情報部門 ⑪試験検査部門
- 発 表 時 間：一題 10分（発表8分、質疑応答2分）
①発表は口演（パワーポイント）発表を主とします。
②演題の応募状況によっては、発表時間を調整させていただくことがあります。
- 演題申込締切：平成27年9月4日（金）
- 講 演 要 旨：A4版縦用紙1枚程度（1200字以内）にまとめ郵送またはメールで送付下さい。
（作成要領は裏面をご参照下さい。）
- 要 旨 締 切：平成27年10月2日（金）
- 申 込 先：〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 沖縄県薬剤師会館内
第29回沖縄県薬剤師会学術大会準備委員会
TEL (098) 963-8930 FAX (098) 963-8932
E-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
*大会プログラム及び大会参加申込書は、後日お知らせ致します。

平成27年 月 日

第29回沖縄県薬剤師会学術大会 演題申込書

発表施設名 or 地区・支部委員会名・部会

演 題

所 属

電話番号

発表者（フリガナ）

（連名のとき演者に○印を）

所要器具（必要なものに○印を）

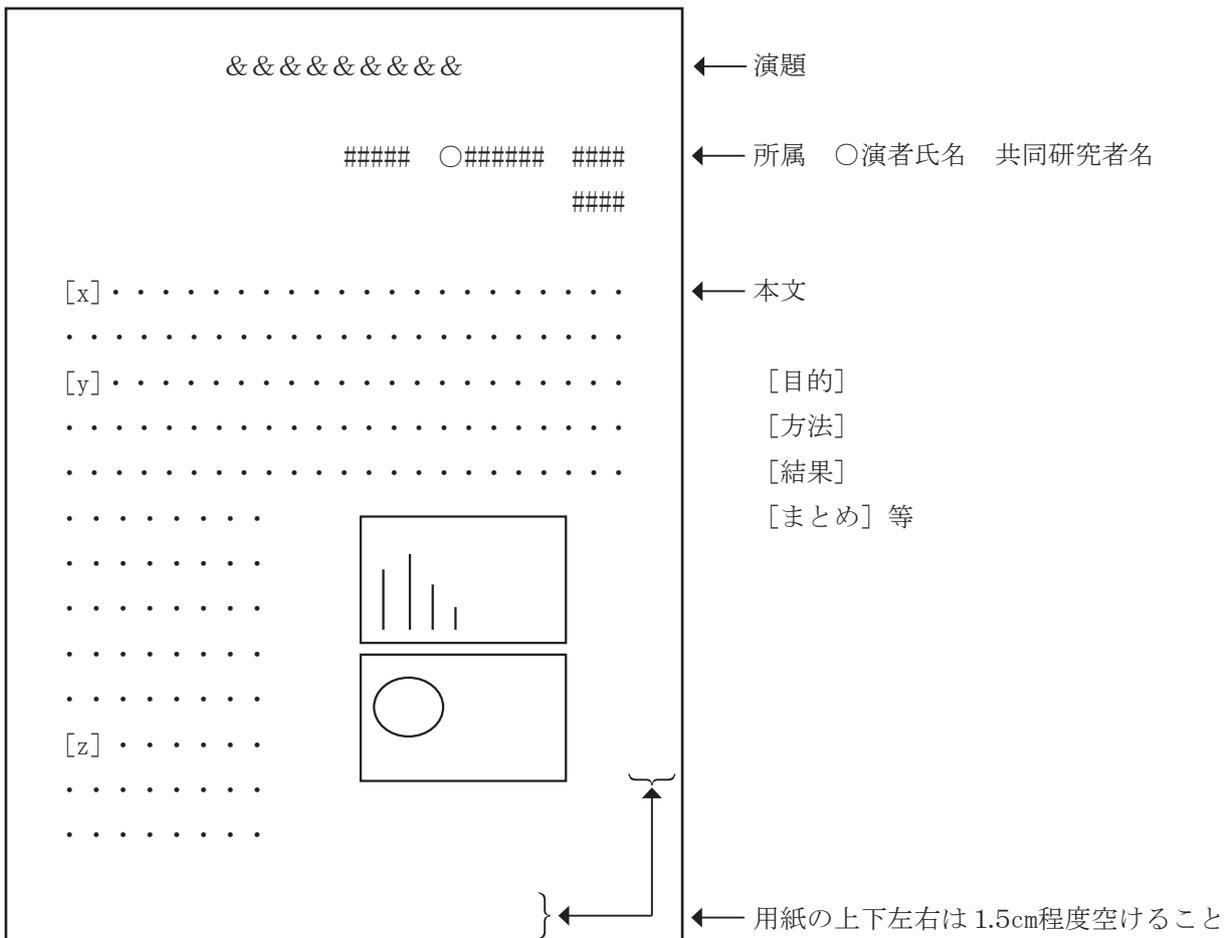
- Power Point（パソコンプロジェクターは1台用意）
- その他

※講演要旨作成要領は裏面に記載されています。

講演要旨作成要領

沖縄県薬剤師会学術大会実行委員会

1. 原稿をそのままオフセット印刷にかけて学術大会要旨集を作成しますので、次の要領で原稿を作成して下さい。
2. 講演要旨はA4版用紙を使用し、ワードで作成して下さい。(A4用紙1枚にまとめて下さい。)
3. 演題、所属、氏名は下記の「作成見本」を参照して下さい。
4. 演題、所属、発表者氏名の欄は写植印刷致します。最上部の行から記入して下さい。演者の氏名には、先頭に○印を付けて下さい。
5. 作成見本



2015年5・6月号 : Vol.30 No.3
薬事情報センター TEL : 098-963-8931
FAX : 098-963-8937

薬事情報おきなわ No.233

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成27年5月20日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	ワントラム錠100mg (@134)	100mg1錠	119.10	日本新薬	トラマドール塩酸塩:持続性がん疼痛・慢性疼痛治療剤:非オピオイド鎮痛剤で治療困難な次記における鎮痛(疼痛を伴う各種癌、慢性疼痛(新剤型))
	ノビコールカプセル2.5μg (TMK01(PTPシートに表示))	2.5μg1カプセル	1,795.00	東レ・メディカル	ナルフラフィン塩酸塩:経口そう痒症改善剤:次の患者におけるそう痒症の改善(既存治療で効果不十分な場合に限る)血液透析患者、慢性肝疾患患者(新有効成分)
	オプスミット錠10mg (10)	10mg1錠	14,594.00	アクテリオンファーマシューティカルズ ジャパン	マシテンタン:エンドセリン受容体拮抗薬:肺動脈性肺高血圧症(新有効成分)
	ザファテック50mg (D388)	50mg1錠	559.20	武田薬品工業	トレラグリブチンコハク酸塩:持続性選択的DPP-4阻害剤・2型糖尿病治療剤:2型糖尿病(新有効成分)
	ザファテック100mg (D389)	100mg1錠	1,045.10		
	サデルガカプセル (GZ02)	100mg1カプセル	76,925.90	ジェンザイム・ ジャパン	エリグルスタット酒石酸塩:グルコシルセラミド合成酵素阻害薬:ゴーシェ病の諸症状(貧血、血小板減少症、肝脾腫及び骨症状)の改善(新有効成分)
	レンビマカプセル4mg (@LENV4mg)	4mg1カプセル	3,956.40	エーザイ	レンパチニブメシル酸塩:抗悪性腫瘍剤:根治切除不能な甲状腺癌(新有効成分)
	レンビマカプセル10mg (@LENV10mg)	10mg1カプセル	9,354.20		
	ポマリストカプセル1mg (POML1mg)	1mg1カプセル	42,624.80	セルジーン	ポマリドミド:抗造血器悪性腫瘍剤:再発又は難治性の多発性骨髄腫(新有効成分)
	ポマリストカプセル2mg (POML2mg)	2mg1カプセル	50,802.00		
	ポマリストカプセル3mg (POML3mg)	3mg1カプセル	56,294.50		
	ポマリストカプセル4mg (POML4mg)	4mg1カプセル	60,548.00		
	アシテアダニ舌下錠100単位(IR) (S AC:100)	100IR1錠	67.10	塩野義製薬	減感作療法薬(アレルゲン免疫療法薬):ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対する減感作療法(新有効成分)
	アシテアダニ舌下錠300単位(IR) (S AC:300)	300IR1錠	201.20		
ソバルディ錠400mg (GSI・797)	400mg1錠	61,799.30	ギリアド・サイ エンシズ	ソホスブビル:抗ウイルス剤:セログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎又はC型代償政肝硬変におけるウイルス血症の改善(新有効成分)	
エビリファイ持続性水懸筋注用300mg	300mg1瓶 (懸濁用液付)	38,212.00	大塚製薬	アリピプラゾール水和物持続性注射剤:持続性抗精神病薬:統合失調症(新投与経路)	
エビリファイ持続性水懸筋注用400mg	400mg1瓶 (懸濁用液付)	46,480.00			
エビリファイ持続性水懸筋注用300mg シリンジ	300mg1キット	38,271.00			
エビリファイ持続性水懸筋注用400mg シリンジ	400mg1キット	46,539.00			
サイラムザ点滴静注液100mg	100mg10mL1瓶	75,265.00	日本イーライリ リー	ラムシルマブ(遺伝子組み換え):抗悪性腫瘍剤 ヒト型抗VEGFR-2モノクローナル抗体:治癒切除 不能な進行・再発の胃癌(新有効成分)	
サイラムザ点滴静注液500mg	500mg50mL1瓶	355,450.00			
オルドレブ点滴静注用150mg	150mg1瓶	8,261.00	グラクソ・スミス クライン	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム:ポリペプチド系抗生物質製剤:コリスチンに感染の大腸菌、シト ロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター 属、緑膿菌、アシネトバクター属 ただし、他の抗 菌薬に耐性を示した菌株に限る(新投与経路)	
ノボサーティーン静注用2500	2500国際単位1瓶 (溶解液付)	3,648.446	ノボ ノルディ スクファーマ	カトリデカコグ(遺伝子組換え):遺伝子組換え血 液凝固第XIII因子製剤:先天性血液凝固第XIII因 子Aサブユニット欠乏患者における出血傾向の抑 制(新有効成分)	

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
注射薬	ガドピスト静注1.0mol/Lシリンジ5mL	60.47%5mL1筒	5,114.00	バイエル薬品	ガドブトロール:非イオン性MRI用造影剤:磁気共鳴コンピュータ断層撮影における造影 脳・脊髄造影、躯幹部・四肢造影(新有効成分)
	ガドピスト静注1.0mol/Lシリンジ7.5mL	60.47%7.5mL1筒	7,457.00		
	ガドピスト静注1.0mol/Lシリンジ10mL	60.47%10mL1筒	9,745.00		
外用剤	エリクラ400μ ジュスエア30吸入用	30吸入1キット	3,150.90	杏林製薬	アクリジニウム臭化物:COPD治療剤慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎、肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(新有効成分)
	デュアック配合ゲル	1g	157.40	グラクソ・スミスクライン	過酸化ベンゾイル尋常性ざ瘡治療薬:尋常性ざ瘡(新有効成分)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】タバコは全身病 完全版

【編集】浅野 牧茂 【発行】少年写真新聞社 【発行日】2015年3月

【版型/頁】B5判/約120頁 【定価】2,592円(税込) 【会員定価】2,330円(税込)

約10年ぶりの発売となる「タバコは全身病」シリーズ。

今回は完全版と銘打っているように、長年喫煙防止教育に尽力された、浅野牧茂先生の集大成ともいべき一冊。少年写真新聞社らしいビジュアルで見せる喫煙の害と、コラムなどを交えたわかりやすい解説で、喫煙防止教育書の決定版がここに完成。

現場目線の処方解析

～その事例と考え方～

【編集】マーリンググループ 【発行】薬事日報 【発行日】2015年4月

【版型/頁】B5判/159頁 【定価】3,500円(税込)

疑義照会に至るまでの考え方や適切な服薬指導のための、現場で役立つ知識が詰まった一冊。処方内容の実例を元に、処方せんから読み取れる医師の処方意図や患者の状態などについてわかりやすく解説。また、実際に薬局で調剤業務をこなしている薬剤師がディスカッションなどで得られた見解を豊富に掲載し、現場目線による処方せんの読み解き方をやさしく習得できる。

やさしい医薬品医療機器等法

— 医療機器・再生医療等製品編 —

【編著】薬事医療法制研究会 【発行】じほう 【発行日】2015年6月発刊予定

【版型/頁】B5判/256頁 【定価】4,320円(税込)

医療機器の承認・許可に係る規定の解説及び、医療の最先端技術である再生医療を推進するための方針である「再生医療推進法」、「再生医療等の安全確保に関する法律」などを含め、再生医療等製品の品質、有効性、安全性を確保するために定められた規制の内容について解説。



Medical News

●無資格事務員、飲み薬調剤 厚労省が聴取 (朝日新聞 5月11日)

朝日新聞は、薬剤師法が禁じる無資格調剤の様子が録音された音声記録を入手した。薬剤師資格のない事務員が飲み薬を作るなどしている記録は、昨年11月から今年3月まで続き、調剤の様子、患者とのやりとりも含まれている。無資格調剤が判明したのは調剤薬局チェーンの「ファーマライズホールディングス」傘下の薬局の一つ。今年2月に、保健所が立ち入り調査したが確認できなかったという。

●処方箋検査値表示を本格化 - 九州地区の国立大で相次ぎ開始 (読売新聞 5月13日)

九州地区の2国立大学病院が、院外処方箋への検査値の表示を本格化させる。九州大学病院は、6月8日から全ての外来患者を対象に実施する。熊本大学病院は今年4月から全面的な表示に踏み切った。琉球大学病院も今年2月から開始するなど、九州や沖縄の国立大学病院における検査値表示が一気に進み始めた。九州大学病院は、経時的な変化がよく分かるように、過去8カ月以内に測定された2回分の検査値と検査日を表示、検査値欄の上には身長、体重、体表面積を併記する。

●ALSにビタミンB12効果、患者の一部が1年半以上延命 (読売新聞 5月20日)

全身の筋肉が急速に衰えて呼吸などが難しくなる難病ALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者に、ビタミンB12の一種「メコバラミン」を投与したところ、患者の一部で1年半以上の延命効果があったとする臨床試験結果を、徳島大などがまとめた。日本神経学会などは厚生労働相に対し、メコバラミンをALS治療薬としても使えるよう、早期の適用拡大を求める要望書を提出した。従来の治療薬では、延命効果は3か月程度とされていた。

●患者へ副作用説明せず 70万円損害賠償～鳥取県立中央病院 (毎日新聞 5月20日)

鳥取市の県立中央病院は、2014年に鳥取市の男性患者に抗がん剤を投与した際、大腸に穴が開く可能性がある副作用を説明していなかったとして70万円の損害賠償金を支払うと発表した。男性は抗がん剤治療を受けた後、腸に穴が開いたことによる腹膜炎が起きたという。男性は11年4月に同病院で大腸がんの切除手術を受けた。その後、14年1月に県立中央病院に再入院して抗がん剤治療を受けた。男性は副作用について説明を受けていなかったとして病院に問い合わせ、病院が調査したところ、口頭でも文書でも今回の副作用が起きる可能性を説明していなかったという。

●納豆アレルギー、患者の8割がサーファーやダイバー (読売新聞 5月22日)

横浜市立大病院皮膚科の猪又准教授によると、2004年以降に同科で診療した納豆アレルギー患者18人のスポーツ歴などを調べたところ、12人がサーファー、2人がスキューバダイバー、1人が潜水作業員で、ふだん海にいる時間が長い人が83.3%を占めた。納豆アレルギーの患者は多

くはないが、発症すると75%が、じんましんや呼吸困難など全身性の重い症状アナフィラキシーを起こす。原因物質はネバネバ成分のポリガンマグルタミン酸。クラゲの触手にも同じ物質が含まれており、海で繰り返し刺されたことでアレルギーになったらしい。食物アレルギーは、口から食べるだけでなく、皮膚を通して原因物質が体内に入ることによって発症しやすいことが知られている。

●筋弛緩剤誤投与で書類送検 男性死亡、薬剤師ら3人 (5月25日 共同通信)

大阪府立急性期・総合医療センターで昨年12月、筋弛緩剤を誤投与された患者が死亡した問題で、住吉署は、業務上過失致死の疑いで、女性の薬剤師と看護師2人の計3人を書類送検した。送検容疑は昨年12月29日、抗がん剤治療を受けていた60代の男性に、抗菌薬と間違えて容器の形状が似ている筋弛緩剤を点滴し、直後に死亡させた疑い。主治医は抗菌薬を指示したが、薬剤師が薬を取り違えて渡し、看護師も確認が不十分だった。

●薬漬け、処方されるまま 13種飲み副作用…86歳救急搬送 (5月25日 朝日新聞)

水戸協同病院に今春まで勤めていた医師らが、2013年末までの9カ月間に運ばれてきた85歳以上の高齢者381人を調べたところ、7%が薬の副作用が原因だったという。服薬していた高齢者の7割が5種類以上飲んでおり、最も多い人で22種類飲んでいて、めまいや嘔吐などの症状で運び込まれてきた女性(86)は、13種類の薬のうち高血圧薬や利尿薬による副作用が原因とみられた。尿が出なくなったという男性(87)は、不整脈を防ぐ薬の副作用が原因とみられ、12種類の薬を飲んでいて、また、兵庫県30代男性は片頭痛、糖尿病、痛風、高血圧、肥満などの治療で四つの医療機関に通っている。3月、もらった処方箋を近所の薬局に出したところ、計36種類の薬を渡された。厚労省は「かかりつけ薬局」の普及を進めており、薬剤師が患者の服薬情報を一元管理して不必要な薬を減らせるよう、来年度の診療報酬改定に向けて検討を進めている。

●41万件で1億7千万円 くすりの福太郎不適切請求 (5月26日)

ドラッグストア大手のツルハホールディングスは25日、子会社の「くすりの福太郎」が患者の薬剤服用歴を記録しないまま、不適切に調剤報酬を請求した件数が、少なくとも約41万7千件に上ったと発表した。請求件数のうち、社内システムへの入力1カ月以上遅れたものを「不適切請求」と判断したという。

●かかりつけ薬局、認定制に…厚労省が基準協議へ (読売新聞 6月4日)

厚生労働省は来年度、「かかりつけ薬局」を認定する制度を導入する。一定の基準を満たす薬局は「健康情報拠点薬局」を名乗れるようにする。認定基準は、(1)大衆薬もそろえ、飲み合わせの相談に乗る(2)患者宅を訪ね、薬を残さないような保管法を伝える(3)必要に応じ医師や介護職を紹介する——などを検討している。薬局に地域の健康作りを担うよう促す。

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.101 2015年4月

〔薬剤の投与経路間違い〕

事例 1

リスパダール内用液0.5mLは、皮下注射時に使用する注射器に吸い取られ、針が付いた状態で内服薬用の薬杯の中に準備されていた。看護師は指示を確認しないまま、リスパダール内用液を皮下注射した。翌日の勤務者がリスパダール内用液を患者に内服させた際、患者より「昨日は注射をしてもらった」と発言があった。前日の勤務者に確認したところ、リスパダール内用液を皮下注射したことが分かった。

事例 2

内視鏡的処置後の患者に、トロンビン液5000単位 1日3回を経口投与の指示が出ていた。看護師は、冷所保存されていたトロンビン液ソフトボトルを内服用薬袋から取り出した。しかし、トロンビン液が経口薬であることを知らず、ボトルの「禁注射」の記載を見て、トロンビン液を注射器に吸い取って静脈注射することが「禁」だと解釈した。その後、指示などを確認しないままボトルを輸液ルートの側管に接続し、静脈注射した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・液体の内服薬を準備する際は、カテーテルチップ型シリンジを使用する。
- ・薬剤の準備時・投与直前に6R※を確認する。

※正しい患者 (Right Patient)、正しい薬剤 (Right Drug)、正しい目的 (Right Purpose)、正しい用量 (Right Dose)、正しい用法 (Right Route)、正しい時間 (Right Time) です。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.med-safe.jp/>

医療事故情報収集等事業



No.102 2015年5月

「口頭指示の解釈間違い」

事例 1

医師は患者に上部消化管内視鏡検査を開始したところ嘔吐反射が強く、喉まで進めたところで検査終了となった。医師は、内視鏡室に入ってきた看護師に「検査していない」と伝え、内視鏡を検査台にかけた。看護師は医師の言葉を「内視鏡を使用していない」と解釈した。医師と看護師の会話を聞いた内視鏡洗浄担当の看護助手も、内視鏡は使用していないと解釈し、洗浄・消毒しないまま別の患者に使用した。

事例 2

看護師は前日に使用した塩化ナトリウム注10% 20mLの実施済み入力を依頼するため、研修医に「打って下さい」と伝えた。研修医は、静注するという意味の「打つ」と解釈し、塩化ナトリウム注10%を患者に静注した。

事例が発生した医療機関の取り組み

・口頭による指示や依頼をする際、送り手は相手に意図が伝わる言葉を使用する。

総合評価部会の意見

・口頭による指示や依頼を受ける際は、対象物を復唱して確認しましょう。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>

薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。



薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

【質問】新卒の薬剤師だが、まだ免許証を交付されていない。現在保険薬局の登録申請中だが、申請すれば業務に付けるのか。(薬局)

【回答】薬剤師名簿への登録するためには、薬剤師国家試験合格後に薬剤師登録の手続きを行わなければなりません。通常、薬剤師登録までに合格発表から2ヶ月程かかるが、薬剤師登録が完了する日までは薬剤師業務に付く事は出来ない。さらに免許証が交付されるまでは少し時間がかかるため、必要であれば「登録済み証明書」をもらおうと良い。
*薬剤師法第2条：薬剤師になろうとする者は、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。
*薬剤師法第7条 免許は、試験に合格した者の申請により、薬剤師名簿に登録することによって行う。2 厚生労働大臣は、免許を与えたときは、薬剤師免許証を交付する。

【質問】流行性耳下腺炎に効く抗生剤を教えてください。(薬局)

【回答】流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルス感染により耳下腺が腫脹する感染症であるため、抗生剤は効果がなく、今のところムンプスウイルスを抑える薬剤もない。治療は基本的に対症療法であり、発熱等には解熱鎮痛薬の投与、脱水等がみられる場合には輸液を使用する。

【質問】今度国体に出場する関節痛の患者に以下のステロイドの注射(リンデロン注やケナコルト注)を使用したいのでドーピングの可否を教えてください。(医師)

【回答】全身投与は禁止されるため、たとえビタミン剤であっても注射は禁止されている。

【質問】スミスリンの効かないアタマジラミが増えていたが、治療薬はありますか。(薬局)

【回答】現在、日本ではアタマジラミ駆除にはピレスロイド系薬剤(スミスリンパウダー・シャンプー)が使用されている。お酢を使った駆除法も聞かすが、はっきりとしたデータもなく、お勧めできない。米国では、0.5%イベルメクチンローションを乾いた髪にローションを塗布、10分放置後水で洗い流してもらうという治療法等が報告されている。近年、ピレスロイド抵抗性のアタマジラミを駆除する新たな治療法が模索されているが、国内では臨床試験の段階である。
*国立感染症研究所昆虫医科学部が行った2006年から2011年までの、アタマジラミ駆除剤(ピレスロイド)抵抗性の全国調査によると、日本本土(沖縄県を除く)の試料からは抵抗性遺伝子をもつコロニーの割合が5.0%とされたが、沖縄本島におけるアタマジラミでは95.9%の抵抗性遺伝子が検出され、日本本土と比べ顕著に高かったと報告している。その理由の1つとして、国内最大の米軍基地

を擁する沖縄本島では、米軍軍属家族の人口比が大きいことと関連している。また、米国ではピレスロイド抵抗性のナトリウムチャンネル遺伝子の保有率が90%を超えている地域が多い事も理由の一つである。

*アタマジラミ治療薬については、2015年1月から半年間の予定で、東京理科大学薬学部薬学科の小茂田昌代氏が琉球大学等と共同で疥癬治療外用剤スミスリンローション5%のアタマジラミ症への有効性と安全性を検討している。研究ではさらに、フェントリンローション5%に抵抗性のアタマジラミ症が存在した場合、FDAで承認されたイベルメクチンローション0.5%の抵抗性アタマジラミ症への有効性と安全性についても研究を行っている。
参考：富田隆史(2011)アタマジラミのピレスロイド系駆除剤抵抗性：新興・再興感染症研究事業、小茂田昌代：東京理科大学薬学部薬学科：臨床研究実施計画書：アタマジラミ症に対するフェントリンローションとイベルメクチンローションの有効性と安全性に関する探索的研究

【回答】高齢者に使用してはならない薬剤50はどこで見られるのか。(薬局)

【回答】日本老年医学会などが、副作用が大きいために高齢者への使用の中止を医師が考慮すべき薬を約50種類挙げた一覧を作成した。これは、10年ぶりに改定予定の「高齢者の安全な薬物療法指針」の中に盛り込む。一覧表については、県薬のホームページからも入手可能。
参考：「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015(案)」：日本老年医学会HP

【質問】高カルシウム血症など電解質異常の自覚症状を教えてください。(薬局)

【回答】

▶高カルシウム血症

- ・自覚症状：倦怠感、脱力感、食思不振、便秘、不眠、痒感、口渇、多尿、幻覚、昏睡
- ・原因疾患：ビタミンD過剰症、悪性腫瘍、サルコイドーシス、結核、副甲状腺機能亢進症、不動、
- ・原因となる薬剤：活性型ビタミンD3製剤過剰、リチウム、サイアザイド系利尿薬

▶低カルシウム血症

- ・自覚症状：テタニー、痙攣、倦怠感、易興奮性、不安、うつ感、筋肉のつれ、感覚異常(手足のしびれ等)、
 - ・原因疾患：副甲状腺機能低下症、ビタミンD欠乏症、急性脾炎輸血、大酒家
 - ・原因となる薬剤：カルシトニン、ループ利尿薬
- 参考：内田俊也：水電解質異常、日腎会誌44(1)、2002、臨床検査値ハンドブック 第2版(じほう)、メルクマニュアル18版 日本語版



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

「おくすり相談室」の受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】寝る前にルネスタ（一般名：エスゾピクロン）とゾルピデムを10年来飲んでいて、最近効かなくなってきた気がしたので、相談したら不眠時にと塩酸リルマザホンが処方された。不眠時とはいつか。夜中の2時や4時に起きたり、昼間すっきりせずとうとうとしている。

【回答】不眠時とは、定期薬を飲んでも眠れない時に飲むという指示です。明け方4時だと朝の起床は難しくなると思われます。夜中2時頃起きた時に服用する方が朝の目覚めはよいと思われます。

●安全性情報●

【質問】咳が出始めて15日にもなるが、背中痛み、頭痛、右親指の付け根も痛む。肺炎や喘息の検査、耳鼻科でも異常はなかった。躁鬱病の治療薬も飲んでいて、副作用ですか。（女性）

【回答】長引く咳の原因は様々です。一般的に3週間以上続く場合、百日咳、マイコプラズマなどの感染が原因だったり、咳喘息、胃・食道逆流症、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎等による上気道の刺激が原因となる事があります。薬の副作用にも咳が報告されていますが、躁鬱病の治療薬での報告はありません。処方されたお薬を飲み終わっても咳が続くようでしたら、再度内科を受診された方がいいと思います。治療経過によっては、治療薬が変更になる事もあります。

【質問】漢方薬のネオ人参順血散の副作用に中毒性なんかというひどい副作用があり、心配。2～3日飲んで胃が痛い気がする。生理も始まったけど、この薬のせいじゃない？（女性）

【回答】ネオ人参順血散（第2類医薬品）は昔から婦人薬として使用されており、血液の循環を良くし・神経痛・疲労回復・月経不順・冷症・などに使用されています。漢方薬は副作用がないと思われがちですが、西洋薬と同様副作用はあります。このお薬の副作用としては、皮膚の発疹・発赤、かゆみ、吐き気、食欲不振の他、出血が続いたりする等の症状が報告されています。出血が続くようでしたら、病院でご相談ください。また、お尋ねの中毒性表皮壊死症については、過去に1例、風邪薬と一緒に服用された方での報告があります。中毒性表皮壊死症は主に風邪薬や鎮痛薬で発症する事が多く、初期症状としては、38℃以上の高熱、眼の充血やまぶたの腫れ、唇等の粘膜のただれ、皮膚の異常等が現れます。

【質問】1ヶ月前からデジレル（一般名：トラゾドン塩酸塩）を飲み、45Kgあった体重が40Kgになった。副作用ですか？（女性）

【回答】下痢、食欲不振、気分不良等の症状はありませんか？急激な体重減少はこのお薬による可

能性も考えられ、大変危険です。早めに医師または薬剤師にご相談ください。

【質問】70歳の父が今朝誤ってモートリンという外国の薬を一度に5個飲んでしまった。大丈夫ですか？スペルはmotrinBです。（女性）

【回答】motrinBにはイブプロフェンが配合されています。イブプロフェンは、日本では通常1回200mg、1日最大600mgとなっています。motrinBは1錠200mgなので、5個だと1000mgとなります。副作用は吐き気、頭痛、動悸、めまい等が報告されています。高齢者では副作用が出やすいので注意が必要です。いつもと違う状態が見られるようなら、病院を受診して下さい。また、イブプロフェンの体の中での濃度が最高になる時間は約2.1時間となっています。高用量服用されていますが、半日程様子を見て、変わった様子がなければ、問題ないでしょう。

●サプリメント・健康食品●

【質問】体にいいと言われ、アマニ油を飲んでいる。血圧の薬やプラビックスなどを飲んでいるけど、大丈夫ですか？（女性）

【回答】アマニ油は、3ヶ月摂取でストレス負荷時の血圧上昇が抑えられた、6ヶ月摂取で血圧低下がみられたとする報告があります。そのため、血圧のお薬との併用は、薬の効果が強く出て、立ちくらみやめまいなどの低血圧症状が現れる可能性があります。また、アマニ油には血液がサラサラになったとする報告もあるため、プラビックスなどと一緒のむと、出血が止まらない等の症状が現れたりすることがあります。これらのお薬を服用中は控えた方がいいでしょう。

【質問】同じビタミン剤でも、第三類医薬品と健康食品の物がある。何が違うのか。

【回答】医薬品は、人や動物の病気を診断・治療・予防を行うための治療薬です。それに対し、健康食品やサプリメントは、食事では不足しがちな栄養を補充する目的で作られ、主に健康保持・健康増進の効果がある食品です。サプリメントは、医学的な効果や効能を表明することはできません。成分は同じでも目的が違うため、含有量や服用方法などが異なります。

●意見・苦情●

・薬の説明書に「ジェネリック医薬品」とあったり、「後発品」と書かれていたりする。これらは同じものだと認識しているが、矛盾してないか。
・医師に「重い薬を出しますか？うつの薬を出しますか？」と言われた。どんな薬ですか？（女性）
・夜の10時半から明け方4時半まで寝ているけど、睡眠時間が足りないと思う。（女性）

今の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル 51巻4号

- *特集：医薬品・薬事法改正の意義とパラダイムシフト～医薬品・医療機器・再生医療の新しい枠組み～
- ・注目論文を読み解く(37) (p.154)
 1. DPP-4阻害薬で膵炎リスクが大きく上昇することはない
 2. エファピレンツによりビリルビン値が低下
 3. イマチニブ併用でシクロスポリンの血液中濃度が上昇
 4. セルトラリンによる低カリウム血症
 5. クロバザムの血清中濃度が他の抗てんかん薬併用で低下
 6. トメトロニダゾールによる脳症

○医薬ジャーナル 51巻5号

- *特集：最新の腎疾患診療とその展望
- ・低ナトリウム血症治療の最新知識 (p.107)
 - ・総説・アレルギー性鼻炎患者に対するプソイドエフェドリンと抗ヒスタミン薬の配合剤の臨床的有効性及び安全性 (p.120)
 - ・実務実習を効果的に実施するための事前学習と実習後のアドバンスプログラムの開発 (p.145)
 - ・注目論文を読み解く(36) (p.158)
 1. リバーロキサバンの血中濃度は腎機能障害かつエリスロマイシン併用で大きく上昇
 2. クロバザム活性代謝物の血清中濃度がスルチアム併用で上昇
 3. リバステグミンによるアレルギー性皮疹がガラントミンにより再発
 4. SSRIによる光線過敏症は交差感受性を示す可能性
 5. 心不全患者でのジゴキシンの薬物動態にオメプラゾールは影響を及ぼさない可能性
 6. 術後に急性腎障害を呈したTriple Whammy (三重の攻撃：利尿薬、ACE阻害薬/ARB併用、NSAIDsの併用) 服用中の慢性腎疾患患者

○エキスパートナーズ 31巻5号

- *特集：術後観察の注目！ポイント
*特集：インスリン事故回避のツボ

○エキスパートナーズ 31巻6号

- *特集：DVT (深部静脈血栓症) 予防対策の本当に知りたいところ
*特集：がん終末期ケアの「やってはいけない」

○きょうの健康 5月号

- *特集：心筋梗塞を防ぐ！

○きょうの健康 6月号

- *特集：コレステロール・内臓脂肪－食事と運動で改善

○月刊薬事 57巻5号

- *特集：医師とともに実践する！一歩進んだ薬学的介入
- ・精神科領域での薬剤師による検査オーダー (p.73)
 - ・適応拡大クローズアップ メトロニダゾールゲル (p.99)
 - ・病態を正しく見抜く！臨床検査値ケースファイル 28歳女性 主訴：発熱、下痢、意識障害 (p.124)
 - ・適応外使用の処方せんの読み方 (59) 異所性妊娠 (子宮外妊娠) (p.143)

○産科と婦人科 82巻5号

- *特集：無痛分娩 Up to Date

○総合診療 25巻5号

- *特集：咳を聴きとり、咳を止める
・3週間以上の咳の治療戦略 (p.452)

○調剤と情報 21巻4号

- *特集：薬局から始める感染対策
- ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす(7) 肝機能検査値で薬の副作用を把握 (p.59)
 - ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく(55) 1種類増えたのは錠数ではなく成分数です！ (p.81)
 - ・新薬くろーずあっぷ：ザイティガ錠 (p.43)
 - ・気になる薬のQ&A：スポレキサント (p.97)

○調剤と情報 21巻5号

- *特集：処方監査に活かす腎機能の評価と薬の使い方
- ・なぜ腎機能を知ることが大切なのか？ (p.12)
 - ・相互作用に留意すべき処方例 (p.22)
 - ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす(8) 検査値異常時の処方薬は病態・状況に適切か？ (p.63)
 - ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく(56) お昼のお薬はどれ？混乱の原因は薬の副作用かも！ (p.85)
 - ・新薬くろーずあっぷ：ベルソムラ錠 (p.43)
 - ・気になる薬のQ&A：カルバマゼピン (p.103)

○治療 97巻4号

- *特集：高齢者×心房細動

今の特集・論文

- ・高齢者でとくに注意すべき抗凝固薬と他の薬剤との飲み合わせ (p.501)
- ・高齢者の抗凝固療法において気をつけるべき点：認知症、転倒リスク (p.505)

○治療 97巻5号

*特集：THE整形内科

- ・痛みに対する新時代の薬物療法！-NSAIDsから ترامセット、リリカ、サインバルタ、そしてワンデュロを超えて- (p.622)
- ・プライマリ・ケアにおける整形内科と漢方医学-急性期・慢性期の運動器の痛みとにかくに漢方を使うか- (p.645)

○日経ドラッグインフォメーション 210号

*特集：降圧薬 その処方、どうして？

- ・処方箋を読む：リクシアナが減量された患者 (p.39)
- ・服薬指導：喫煙者のピロリ菌除菌 (p.PE001)
- ・構造で薬を理解する～構造的類似性がもたらす薬物相互作用 (p.PE007)
- ・医師が語る 処方箋の裏側～トリプタンが効かない頭痛にインドメタシンを処方した理由 (p.PE016)

○日経ドラッグインフォメーション 211号

*特集：胃のトラブル-最新知見と服薬指導

- ・処方箋を読む にきびの治療にピルを処方する理由 (p.PE005)
- ・構造で薬を理解する～6成分登場のSGLT2阻害薬 (p.PE007)
- ・医師が語る 処方箋の裏側～ラックビーを1日1gで長期処方する理由 (p.PE016)

○日経メディカル 569号

*特集：日常診療に潜む危険

○日経メディカル 570号

*特集：医療事故調で現場はどうなる

○日本医事新報 4745号

- ・質疑応答～内科：PPIの効果的な服用時間 (p.61)
- ・質疑応答～内科：保存期CKD患者にリン吸着薬を処方すべき血清リン値 (p.57)

○日本医事新報 4736号

*特集：患者の背景に対応した便秘治療

○日本医事新報 4747号

*特集：今、必要な褥瘡ケアの知識

- ・質疑応答～内科：日本人におけるスタチンによる糖尿病発症リスク上昇の可能性 (p.56)

○日本医事新報 4748号

- ・質疑応答～整形外科：骨粗鬆症治療中患者の治療効果判定における休薬の必要性 (p.65)

○日本医事新報 4749号

*特集：地域が模索する認知症の初期支援

*特集2：認知症と他疾患の見分け方

○日本医事新報 4750号

- ・質疑応答～内科：鉄剤に反応しない鉄欠乏性貧血の鑑別診断と治療方針 (p.52)
- ・質疑応答～内科：スタチン製剤の副作用による掻痒感への対応 (p.59)
- ・質疑応答～栄養・食品：経口ビタミン剤常用の影響 (p.60)

○日本医事新報 4751号

- ・差分解説：酸分泌抑制薬P-CABへの期待 (p.32)
- ・アンドロゲン低下とインスリン抵抗性 (p.48)
- ・質疑応答～内科：ピロリ菌除菌が逆流性食道炎に与える影響 (p.59)
- ・質疑応答～内科：インフルエンザ脳症の予防策 (p.60)
- ・質疑応答～医事法制：医師・薬剤師による医療用麻薬の取り扱い (p.64)

○日本医事新報 4752号

- ・質疑応答～内科：新規糖尿病治療薬の作用機序と使用上の注意 (p.55)

○薬局 66巻4号

*特集：副腎皮質ステロイド

- ・副腎皮質ステロイドの使用に対して不安を感じている患者とのコミュニケーション (p.132)

○薬局 66巻5号

*特集：がん疼痛とオピオイド

- ・オピオイドの増量（定期投与） (p.26)
- ・薬剤師が知っておきたいがん患者の心理 (p.98)

○The Medical Letter 30巻25号

- ・脳卒中の二次予防（短信）エゼチミブのスタチンへの追加により臨床転帰が改善 (p.126)

○The Medical Letter 31巻1号

- ・Triumeq:HIVに対する3剤配合剤 (p.7)

○The Medical Letter 31巻2号

- ・メトレプレチン(Myalept)：全身性リポジストロフィーに対するレプチンアナログ (p.13)

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

超高齢者の抗凝固療法 夕食後のワルファリン内服

治療 4月号

外来においてワルファリンを処方する場合、高齢者に限らず、基本的には夕食後の服用を指導している。夕食後の服用としているのは、通常の朝食後服用だと、受診時にはすでに服用後であり、タイムリーな変更が不可能だからである。INR値を確認し、正常値から外れている場合には食事摂取量の変化や、NSAIDsを含めた他の医療施設における服薬状況を確認し、適切かつ迅速な服薬指導を心がけるべきである。高齢者のINR高値例では、整形外科領域の疼痛コントロールの為にNSAIDsの通常量を1週間以上内服している頻度が高い。間接的なビタミンKの摂取低下や腎機能を統合的に判断し、INR目標値を下げることを考慮することも、超高齢者においてこそ重要である。各種のNOAC使用の指標として、活性化部分トロンボプラスチン時間(aPTT)が提唱されているが、ワルファリンのINRのようなモニタリング指標は確立されていない。さらにエビデンスに基づく平均的で単一な用量設定であり、超高齢者に向けた少量のNOACの有用性の治験を期待したい。

トヨタ記念病院
岩瀬 三紀 他

熱性痙攣の再発予防

日経メディカル 4月号

熱性痙攣の再発予防の第一選択薬は、抗てんかん薬のジアゼパムである。ダイアップ坐剤なら0.4-0.5mg/Kgで処方し、発熱時に頓用させる。2015年に発刊された日本小児神経学会の「熱性けいれん診療ガイドライン」には、ジアゼパムについて「副反応もあるので、ルーチンに使用する必要はない」と明記された。無治療者の熱性痙攣の再発率は24-40%と高くない。単純型熱性痙攣の場合、てんかん発症率も極めて少ない上、仮に反復しても認知・学習能力に影響せず、生命的リスクも極めて低い。副反応も勘案すれば服用しないデメリットは小さい、というのが根拠だ。添付文書上「37.5℃を目安に」とあるが、小児では夏期熱等で生理的に37.5℃を超える事はよくあり、必要以上に使用されかねない。私は発熱状況によって38℃台であれば37.5℃以上、39℃以上なら38℃以上としている。痙攣重積では、必要十分量投与する事が大切だ。あくまで起きていた痙攣を止める事が目的であり、通常の熱性痙攣の予防投与とは混同してはならない。

国立精神・神経医療センター病院
菅生 研司

質疑応答:PPIの効果的な服用時間

日本医事新報 4745号

PPIの服用方法について、添付文書には1日1回経口投与と飲み記されています。これは、基本的にはいつ服用しても良いという事です。が、薬物動態や効果を考えると、多少考慮の余地があります。エソメプラゾールやランソプラゾールでは、食後に投与すると、血中濃度が絶食下投与と比較して大きく低下する事がわかります。食前投与のメリットとしてPPIは活性化されたプロトンポンプを阻害するため、非活性化状態のプロトンポンプを不活化する事ができません。PPI内服後の最高血中濃度は約2時間後です。従って、食前投与だと、食事によってプロトンポンプが活性化されるタイミングで高い血中濃度が得られるため、より効果的にプロトンポンプを不活化できると考えられます。朝、昼、夕、眠前については、日中の胃酸分泌抑制を中心に考えるのであれば、朝食前が好ましく、夜間を中心に考えるのであれば夕食前や眠前投与が好ましいという事になります。

浜松医科大学臨床研究管理センター
古田 隆久

妊娠中は1滴もお酒を飲むべきではないのか？

薬局 5月号

妊娠前飲酒者の約2割は妊娠後もほとんど毎日飲酒していることが報告されている。医療従事者の中でも、絶対禁酒すべきという意見と過度のストレスを避ける為に少量ならよいという意見が混在している。今回は妊娠中の少量飲酒による胎児への影響について検討した日本での初めての前向きコホート研究を紹介する。この報告では九州・沖縄8県の産科病院423施設に調査研究を説明するリーフレットを置き、妊婦自身で調査への登録を行った。妊娠5週から39週の1,757人の妊婦が登録、最終的には、1,565組の母子を対象に解析した。出生時体重および妊娠期間は母子手帳を用いた。その結果、低出生体重児、体内発育不全および出生時の調整済み平均体重はアルコール摂取量の増加による影響はなかったが、早産はアルコールの非摂取者1,356人で3.5%、アルコール1g/日未満摂取者137人で5.8%、アルコール1g/日以上摂取者72人で9.7%と、優位に増加傾向にある事が判明した。医療従事者が安易に少量ならよいと言うべきではない。

神戸薬科大学
波多江 崇

話題のビタミン・サプリメント(46)



梅

Key Word:クエン酸・梅干し・疲労回復・食中毒

梅雨時期、食中毒が気になります。また梅雨が明けると、暑くて長い沖縄の夏がやってきます！食中毒や夏バテ時に梅干しが活躍！日本の伝統食材「梅」には身体に嬉しい様々な効果があるようです。今回は梅を取り上げてみました♪

梅はバラ科サクラ属の落葉高木、またははその果実のこと。花芽は毛毛と異なり、一節につき1個。果実は6月頃に黄色く熟す。梅には300種以上の品種があり、野梅系、紅梅系、豊後系の3系統に分類される。中国では紀元前から酸味料として用いられており、塩とともに最古の調味料だとされている。日本語でも使われる、よい味加減や調整を意味する単語「塩梅(あんばい)」とは、元々は梅と塩による味付けがうまくなったことを示した言葉である。昔から梅はその日の難のがれといわれるほど、病気の予防や健康増進に欠かせない、戦国時代には兵糧丸(携帯用食料)として梅干しの果肉を丸薬状にしたものが作られ、戦地で、のどをうるおすために使ったとされる。

また、生の青梅の種や果肉には、種を守るため「青酸配糖体」という、糖と青酸が結合した物質がある。これをヒトが食べた場合、痙攣や呼吸困難、めまいなど深刻な影響を与える。しかし、青梅に含まれる量はごくわずか。成人で約300個、子どもなら約100個食べないと深刻な影響は出ないといわれている。

○梅の主な品種(梅は用途に応じていろいろなタイプがある)

南高梅 (なんこうばい・なんこ うめ)	和歌山県の代表的な品種。粒が大きく皮が薄く果肉が肉厚で柔らかい。梅干し用の漬け梅などに適している。
古城(こじろ)	和歌山県で多く作られており、南高梅よりやや小さめ。主に梅酒、梅ジュースに用いられる。
白加賀梅 (しろかがわめ・しらが うめ)	南高梅よりやや小さめの梅で、果肉は肉厚で繊維が少なく緻密。色合いはやや黄緑に近い色。
竜峡小梅、甲州小梅 等	カリカリ梅干しなどにされる小粒の品種

【疲労回復効果】

梅に豊富に含まれるクエン酸やリンゴ酸などの有機酸は糖質の代謝を促し活性化させる働きがある。疲労の指標となる乳酸を消し、エネルギーを産み出す効率を高めるため、疲労がたまりにくくなる。

【抗菌作用効果】

梅に含まれているクエン酸は殺菌・除菌効果に優れている。食中毒の原因となる黄色ブドウ球菌など、細菌の増殖を抑える強い抗菌力が確認されている。

【食欲増進】

梅の酸味が体内の消化器官を刺激し、唾液など消化酵素の分泌を促し、食欲を増進させるとともに消化を助ける。

【安全性】

通常の食品(加工品)としての摂取ではおそらく安全と思われる。青梅にはわずかに青酸が含まれるので生食はしないこと。

【医薬品との相互作用】

抗凝血作用や抗血小板作用のあるハーブ、サプリメントと併用すると、出血のリスクが増加する可能性がある。



……参考文献……

- 国立健康・栄養研究所「健康食品の安全性・有効性情報」
- 和歌山県田辺市HP:梅振興室
- ナチュラールメルメディシン・データベース

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ (4) 県薬ホームページの制作・管理 (5) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6) 医薬品 PL センター窓口業務 (7) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は098-963-8935になります。
お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の見覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●禁煙のためのシチシンとニコチンとの比較:無作為化非盲検試験 (N. Engl. J. Med. 371(25)2353-/ (2014.12))

ニュージーランドで禁煙の意欲があり、国が提供する禁煙相談サービス「クイットライン」に電話をかけてきた、毎日喫煙する成人 1310 例を対象とした実践的非盲検非劣性試験において、25 日間シチシンを投与する群と、8 週間ニコチン代替療法を行う群に参加者を 1:1 の割合で無作為に割り付けた。両群に、電話による低強度の行動支援を行った。主要評価項目は 1 カ月の時点での自己申告による禁煙継続とした。1 カ月時点で禁煙継続を報告した参加者は、シチシン群 40%(655 例中 264 例)、ニコチン代替療法群 31%(655 例中 203 例)であり、その差は 9.3%ポイント(95%信頼区間 4.2-14.5)であった。1 週、2 ヶ月、6 ヶ月の時点での禁煙継続効果は、シチシンの方が優れていた。主要評価項目の事前に規定したサブグループ解析では、シチシンはニコチン代替療法に対して、女性においては優越性、男性においては非劣性を示した。6 ヶ月間の自己申告による有害事象の発現頻度は、シチシン群(204 例で 288 件)の方がニコチン代替療法群(134 例で 174 件)よりも高く、有害事象は主に、悪心、嘔吐、睡眠障害であった。

●葉酸 1.1mg 対 5mg の長期薬物動態における妊娠誘発変化:無作為化臨床試験 (J. Clin. Pharmacol. 55(2)159-(2015.2))

妊娠予定あるいは妊娠早期(6 週未満)の女性 87 例のうち、45 例を葉酸 1.1mg(常用量, PregVit)群に、42 例を 5mg(高用量, PregVit-Folic 5)群に無作為に割り付けした。試験期間中に妊娠していた 1.1mg 群の 19 例(30.89±3.87 歳)、5mg 群の 18 例(31.67±4.48 歳)を対象とした。参加者には、妊娠 30 週まで葉酸含有総合ビタミン剤を投与した。投与開始前後に、血漿あるいは赤血球(RBC)の葉酸濃度を測定した。その結果、RBC 葉酸濃度は、妊娠 12,30 週に 2 群間で有意差を認めた。両群で妊娠 6,12,30 週目の RBC 葉酸濃度は基準値と比べ有意に上昇した。1.1mg 群では妊娠 12-30 週に、5mg では妊娠 6-30,12-30 週に RBC 葉酸濃度の有意な上昇を認めた。血漿葉酸濃度は 5mg 群より 1.1mg 群で高く、基準値と妊娠 12 週では有意差を認めた。両群で妊娠するまで血漿葉酸濃度は上昇し続け、妊娠期間を通し低下した。両群とも、血漿葉酸値は、基準値と妊娠 6 週、基準値と妊娠 12 週の間で有意差を認めたが、基準値と妊娠 30 週の間では有意差を認めなかった。妊娠 30 週での両群の血漿葉酸濃度はいずれも基準値と同等であり、定常状態に至らなかった。

●健常志願者において Verapamil は Metformin の血糖低下作用を減弱する:薬物動態/薬力学的相互作用に関する検討 (Br. J. Clin. Pharmacol. 78(6)1426-/ (2014.12))

ヒトにおける metformin の薬物動態および薬力学に及ぼす verapamil の同時投与の影響を検討した。健常男性被験者 12 例(27±5 歳)を対象とした。被験者には metformin(Diabex Tab)1000mg、経口投与を 1 日目に行い、2 日目に metformin 750mg を投与した。11 日間休業後、14 日目から verapamil(isoptin SR Cap)180mg/日を 3 日間、15 日目から 2 日間 metformin を同時投与した。metformin 投与前(1 日目)および投与後(2 日目)ならびに verapamil を同時投与した後の 15 日目および 16 日目に、経口ブドウ糖負荷試験を行い、metformin の薬物動態および血糖降下作用を評価した。その結果、verapamil は、metformin の最大血糖値($\Delta G \downarrow \max \downarrow$)を 62.5%低下($P=0.010$)し、血糖値-時間曲線下面積($\Delta AUC \downarrow \text{gluc} \downarrow$)を 238%減少させた($P=0.015$)。しかしながら、verapamil は、metformin の $C \downarrow \max \downarrow$ および AUC を有意に変化させず、腎クリアランスも変化させなかった。全般的に見れば、verapamil の同時投与は metformin の薬物動態に影響を及ぼさなかった。

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください!

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➔ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

➔ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

➔ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➔ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの「かかりつけ薬局」をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

第20回 暮らしの中の薬草学

身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

カンダバー：サツマイモ葉

学名 *Ipomea batatas L.*
 科名 ヒルガオ科
 属名 サツマイモ属
 使用部位 塊根・葉・茎
 有効成分 ビタミンA・C・B・食物繊維
 ルテイン・ベタイン・クロロゲン酸



サツマイモの特徴

ヒルガオ科のツル性多年草。土に挿しておくだけで繁殖し、7月～12月が収穫時期。葉はハート形、若葉を摘んで汁の具、煮物、軽く茹でて和え物に用いる。花はピンク色でアサガオに似るが、鈍感な短日性であるため本州などの温帯地域では開花しにくく、品種や栽培条件によってまれに開花する程度である。また、花の数が少なく受粉しにくい上に、受粉後の寒さで枯れてしまう事が多い為、品種改良では種子を効率よく採るためにアサガオなど数種類の近縁植物に接木して、台木から送られる養分や植物ホルモン等の働きによって開花を促進する技術が使われる。若い葉と茎を利用する専用の品種もあり、主食や野菜として食用にされる。機能性食品素材としてだけでなく、世界的食料不足、資源の枯渇、環境問題を解決できる作物として重要になっている。

サツマイモの歴史

1955年に西山市三がメキシコで祖先に当たる野生種を見つけ、イポメア・トリフィータと名付けた。後に他の学者達によって中南米が原産地とされた。大航海時代にスペイン人或いはポルトガル人により東南アジアに導入され、ルソン島から中国を経て、1597年に宮古島へ伝わった。1605年野国総官が中国から琉球王国に持ち帰り、その後、種子島に苗を送り、鹿児島から九州地方に伝わった。中国(唐)から伝来した由来により、特に九州では唐芋とも呼ばれる。青木昆陽が栽培を普及させ江戸の飢饉を救ったと評される。約400年前中国の李時珍は「本草綱目」で、「海辺に住む人々で五穀を食べずに、さつまいもを主食とする人々は長寿である」と述べている。

カンダバー：サツマイモ葉の有効成分

カンダバーにはビタミンA・C・B1・B2・カリウム・食物繊維・ベタインが豊富に含まれ、葉身部には、ほうれん草の3倍以上のルテイン含量がある。他に、尿を酸性に保つキナ酸と、活性酸素を消去する作用のあるクロロゲン酸の存在が報告され、薬としての利用の可能性もでている。めずらしい化合物2-C-メチル-D-エリスリトールも検出された。病原性大腸菌O-157など食中毒細菌の増殖を抑制する活性成分を有し、これはカンダバーのヌルヌル成分、ペクチン様多糖類ではないかと推察されている。魚や肉等のコゲから生成される発がん物質(Trp-P-1)がサツマイモ繊維により90%近く吸着されることがIn vitroで明らかになっている。

参考 Wikipedia、沖縄伝統的農産物データベース、九州沖縄農業研究センター、野菜の栄養素・人間の栄養

栄養成分(可食部100g当たり) 2005年 財団法人日本食品分析センター分析試験結果

エネルギー	蛋白質	脂質	不溶性食物繊維	水溶性食物繊維	カルシウム	鉄
27kcal	2.2g	0.5g	3.0mg	0.5g	103mg	0.7mg
ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンB6	ビタミンK	ビタミンC	カロテン	レチノール当量
0.08mg	0.18mg	0.13mg	454.5mg	8mg	3179μg	530μg



道産子ダイバー



(株) 琉葉 吉富 弓江

「北海道出身です。」

話の流れで出身を聞かれてこう答えると、次に言われる言葉は予測がつく。

「へえ～、北の端から南の端へ。またどうして？」

「ほら、きた。」と思いながら、「北海道から北に行こうとするとパスポートが必要になっちゃうので、南しか選択肢がなかったんです。」と答えることにしている。

実際には、北海道でダイビングを覚えて、沖縄にダイビング旅行に来て、沖縄でのダイビング三昧の生活に憧れて・・・と、よくあるパターンで沖縄に移り住んだ。当初は2～3年潜りまくって北海道に帰るつもりだったが、気が付くと15年も経っていた。

沖縄に来てからは、憧れていたダイビング三昧の生活をする事ができ、本島周辺はもちろん、慶良間、伊江、宮古、石垣、伊是名、多良間、与那国、久米、粟国、渡名喜等々を潜りまくった。今では潜りに行っていない離島はほんの数か所だけになっている。沖縄に潜りに来る全国各地のダイバーとも知り合いになり、各地の祭りやイベントを案内してもらったり、ツアーを組んで海外に潜りに行ったりと、活動の場がどんどん広がっている。

潜ったことのない人とダイビングの話になると、「今まで潜った中で、どこが一番よかった？」とかなりの確率で聞かれる。ダイビングは自然相手、生き物相手のレジャーなので、同じ場所、同じ時間帯に潜ったとしても、同じ相手に出くわすことはほとんどない。（「平成26年誌上ギャラリー大賞」をいただいたアオウミガメは数少ない例外です。）なので、「〇年前の〇月に潜った〇〇と、△年前の△月の△△が・・・」と具体的すぎる答えになってしまう、相手を困らせてしまうこともある。

沖縄で潜り始めてから大好きになった海の生物に「ウミウシ」がいる。ウミウシは、貝殻が退化したり全く無くなった巻貝の仲間で、自然界では考えられないほど色鮮やかな種が多く、私を楽しませてくれる。動きもさほど早くはないので、写真を撮るのにも適している。ただ不思議なことに、ウミウシは色鮮やかで、海中でも目立っていて、誰にでも簡単に見つけられてしまうのに、魚はウミウシを食べようとはせず、一度口にしても吐き出してしまふ。そんな話を友人の薬剤師ダイバーとしていたら、「学生時代、よくウミウシをスライスして薬にならないか研究していたよ。」と言われた。確かに私も薬剤師。「ウミウシは魚が嫌う何か物質を持っている」「その物質が何かの薬になるかもしれない」と考えたことがないわけではない。でも、「スライス」はちょっと・・・。

今年も潜るにはいい季節がやってきた。道産子ダイバーといえども、やはり寒いより暑い時に潜る方が気持ちがいい。太陽が照りつけると、その分海の中が明るくなり、魚たちがよく見え、テンションは上がり、私は日焼けを楽しむ。「焼きすぎだよ」とよく言われるが、これも道産子ダイバーだからなのか、冬の間にすっかり色落ちしてしまう。おかげさまでGWに「小麦色の肌」を取り戻すことができた。紫外線を怖がっているのは、ダイビングは楽しめない。



アカテンイロウミウシ



ムラサキウミコチョコウ



キスジカンテンウミウシ

次号には、玉城 純 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

投稿

第38回 沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ 「ハッピーサマークラブ」 薬剤師 ボランティアとして参加してみませんか？



琉球大学医学部附属病院 薬剤部
砂川 智子

みなさんは、小児糖尿病サマーキャンプをご存じでしょうか？その歴史は古く、世界で初めてのキャンプは1925年にアメリカのデトロイトで、日本で最初のサマーキャンプは1963年に千葉県勝山海岸で開催されました。沖縄県でも今年で38回目を迎えます。

小児1型糖尿病（15歳未満）の国内の発病率は、毎年10万人あたり1.5人～2人といわれ、この低さが社会の小児糖尿病への理解を遅らせているかもしれません。患児たちは、病院入院中を除けば、家庭や学校などでは様々な困難に遭遇していると思われるます。そんな中でのサマーキャンプは、子供自身の糖尿病自己管理や自立心を育てる援助の場となる重要な役割を果たしています。

嬉しいことに、沖縄県立宮古病院副薬局長である垣花真紀子先生を中心とした、沖縄県内の薬剤師のこれまでのキャンプへのかかわりが高く評価されました。昨年度、福岡県で開催されました薬剤師を中心とした全国学会

【日本くすりと糖尿病学会】において、垣花先生がシンポジウム「サマーキャンプにおける薬剤師の役割」の中でこれまでの活動内容を報告しています。主な活動内容としては、子供に合わせたデバイスの紹介、保護者間の橋渡しなどコーディネーター的な役割と、患児たちととにかたく楽しく遊ぶというものでした。

今年もキャンプは下記の日程で開催されます。全ての日程に参加できなくてもOKです。とりあえず見学だけ・・・仕事帰りの夜だけ・・・など、無理のない方法で参加してみませんか？！清潔操作をしない！CSIを着けたまま海に飛び込む！！などなど、病院や薬局では味わえない子供の日常に触れ合えることがサマーキャンプへ参加する最大の魅力だと私自身は感じています。また、薬剤師の輪が広がり、他職種と交流もできます。興味を持たれた方はぜひ連絡をください。お待ちしております（＾＾）／

第38回 沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ「ハッピーサマークラブ」

期日：平成27年7月29日（水）～8月1日（土）3泊4日

場所：沖縄県玉城青少年自然の家

<問い合わせ先>

沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ薬剤師チーム事務局
(琉球大学医学部附属病院内)

外間 登・砂川 智子 TEL 098-895-3331

卒煙物語 その52

気心知れた仲間

文：卒煙へようこそ担当
えんこ

時代はどんどん進んでいます。
どうしてこんな時代になったのか、
それなりの理由があります。
「卒煙」を知らないではすみません。
さあ、一緒に取り組みましょう！



幼なじみの父親が他界したので、幼なじみ達で葬儀の手伝いに集まった。その座談の中で、「俺が、タバコをやめられるなんて考えられないだろ」と彼は、タバコを手にする幼なじみに言った。そして、そばにいる私の顔をちらっとみて軽く笑った。

約二年前、我が家に幼なじみの仲間が集まった際、彼は家に入るなり第一声、「お客さんが来たら灰皿を準備するのが常識だろ」と言っていた。集まった中で、私ともう一人を除いた5人がみな喫煙者だったので無理もない話だったかもしれない。そんな中、今年になって彼だけが卒煙した。「会議中、とてもイライラしていた。どうしてこんなにイライラしているかと考えたら、タバコを吸っていない時間が長くなっていて・・・依存なんて・・・自分でも驚いたよ」とニコチン依存症を自分で初めて意識したことを話してくれた。それから、パッとタバコを止め、人に誘惑されても吸う気にならない、それがもう1ヶ月になっているとのことだった。ただ、「ここ1ヶ月の間に、酒の場が無かったから大丈夫だったのかな・・・、でももう吸う気になっていないから大丈夫」と、意地悪くタバコを見せつける幼なじみのタバコに未練も

見せずに堂々としていた。幼なじみの喫煙者はバツが悪そうに胸のポケットにタバコを納めた。その晩、集まった幼なじみと共に酒を交えた席で、彼はタバコを全く吸わなかった。横では、気にも留めずタバコを吸う幼なじみ達がいるのに。

彼のように、パッと卒煙できる人がいる。この卒煙物語でも度々登場する、世界でベストセラーになったアレン・カーの「禁煙セラピー」は、「タバコの罫を理解することで禁煙できる」と書いている。まさに彼は、罫に気付き、実践できたのだ。

喫煙者の幼なじみ達に良い影響があれば良いのだがと思う私の願いに反して、幼なじみ達は相変わらずタバコに火をつけてプカプカしている。「タバコが悪いのであって、喫煙者は悪い人ではない」というセリフを医療者はよく口にする。気心知れた幼なじみ達に、薬剤師らしく薬の必要があればバレニクリンの話を持ち出そうと構えていたが、バレニクリンよりもバイアグラの話題をしたがる彼ら。元気なんだかどうなんだか。共に50才を過ぎ、体に変調の警告が出ている仲間もいる御年頃。伝われ卒煙の波。

卒煙者の経験談を募集しています。皆様の声が大きな励みとなることでしょう。
下記までお寄せ下さい。

e-mail kouhou@okiyaku.or.jp

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10

TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932

薬事情報センター内 卒煙へようこそ担当 えんこ 行き

薬連だより

国会レポート

薬剤師の育成と薬学教育



文部科学副大臣・参議院議員 藤井 基之

今年のゴールデンウィークはカレンダー並びにも恵まれ、長期休暇を利用して国内外へと旅行などに出かける家族連れや若者で、新幹線ホームや空港ターミナルは大変な混み合いとなっていました。通常国会も休会状態となっていました。休み明けの10日から再開し、外交・安全保障など重要案件の審議が進められています。

さて、大学での薬学教育の修業年限が6年に延長となつてから、今年度の入学生でちょうど10期目となりました。また今年で4回目となる6年制教育を受けた薬学生の薬剤師国家試験（第100回）は、3月27日に合格発表が行われました。合格率は過去最低を記録した昨年度よりはやや上回ったものの、全体で63.17%と2年連続で70%を下回る低い水準となりました。合格率の是非をとやかくするつもりはありませんが、不適正問題とした3問に加え、11の設問が「受験者の正答率及び識別指数（問題が成績の良い受験者と悪い受験者とを効率的に識別しうる能力を表す数値）等を考慮して、全員を正解として採点する。」とされています。このような試験問題の難易の補正は、最近の薬剤師国家試験では余り例のないことのように思います。

こうした現状に対して、国家試験問題の難易度が上がったのではとの声も一部には聞かれますが、薬科大学や薬学部が新設されて定員数が増加し、結果的に薬学生の質が低下しているとの指摘もあります。現に、2003年に国公立17校、私立29校であった薬学部は、私立大学の新設が相次ぎ私立だけでも

56校を数えるまでになり、国公立を合わせた入学定員は12000人余りとなって、定員割れを来す大学も現れるような事態となっています。

文部科学省の「薬学系人材の養成の在り方に関する検討会」では、質の高い卒業生を輩出するためには一定以上の学力を有する入学者の確保が一つの要因であるとの考えのもと、検討会の下にフォローアップワーキング・グループを設けて薬科大学・薬学部を対象に書面調査、ヒヤリング調査を行い、本年2月の検討会において、平成26年度のフォローアップ状況が報告されています。報告書では、一般的に入学試験の実質競争率の高い大学は、卒業率・国家試験合格率は高い傾向にあるとして、入学試験における教科・科目の設定や適正な入学定員の設定などの見直しも必要としています。また「国家試験を目指して無事卒業させることに汲々として理念と乖離した教育を行うのではなく、どのような薬剤師、薬学卒業生を育成しようとしているかについて、一貫したポリシーを持ち、将来の社会ニーズを見極めながら全体戦略を考えていくことが必要である。」と結んでいます。

6年制教育導入の目指すところは、医療人としての高い資質をもち、チーム医療の現場で医師、看護師などと協力しあうことができ、地域医療において薬の安全・適正使用に責任をもって対処できる薬剤師を養成することです。一昨年には薬学教員モデル・コアカリキュラムも改訂されました。これからも医療人として真に社会の力となる薬剤師の育成に務めていきたいと思ひます。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

平成26年度 第10回定例理事会 議事概要

日時：平成27年1月17日（土）19:00～21:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之
副 会 長：松山朝雄、吉田洋史
理 事：田場英治、江夏京子、亀谷浩昌、山里勇、前濱朋子、下地仁、幸地良信、
姫野耕一、新垣秀幸、川上善久、村田美智子、我喜屋美香、笠原大吾
事 務 局：山城英人、金城みどり

<欠席者>

理 事：外間惟夫、玉城純、宮城敦子、石川恵市

議題

(1) 委員会、部会の編成について

新垣理事より、事前に送付した当議題に対して次のとおり意見が述べられた。11月30日に東京にて開催された「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会」は、4年目に入る。内容は「症候学」に関してとなっている。「症候学」は平成27年度から大学のコアカリキュラムに入ってきており、スイッチOTC対象医薬品を販売するための基礎作りとなる。そのため、既卒の薬剤師もしっかり身につけていかななくてはならない。それ以外にも法的な周知事項も多くあり、一般用医薬品販売に関することを、地域保健医療委員会の中でひとつくりにするのは、どうかと思われる。

吉田副会長より、次のとおり説明された。委員会を精査する中で、このような編成になった。細かく各事業内容を精査したわけではない。新たに編成された委員会において各事業内容をしっかり考えていけばよい。

田場専務理事より、次のとおり説明された。保険薬局部会については、各種研修会を行っているが、他の委員会の研修内容と重複することも多く、集約の意味で廃止案を提出した。今後、学術研修委員会で研修会等の精査をお願いしたい。これまでの保健福祉委員会は、厚労省や日薬の方向性が保健福祉分野に集中していることから在宅に特化した在宅委員会と地域保健分野および一般用医薬品販売に関することも含めた地域保健医療委員会に分割した。

下地理事より、次のとおり意見が述べられた。お薬相談やなごみ会活動等は地域貢献の繋がりであり、また自殺対策や禁煙支援は保健所との連携による事業であることで、地域保健医療委員会に含まれることは理解できるが、一般用医薬品販売については要指導医薬品に関することや症候学など、これからスキルアップしていかなければならない。また、これらのことは医薬品販売業務に関係してくると思うため、医療安全対策分野とも考えられるのではないかと。

我喜屋理事より、次のとおり意見が述べられた。当初、この編成を考えるとときに日薬とリンクするようにとのことであったが、日薬のどの部分とリンクしているのか。

吉田副会長より、次のとおり説明された。日薬及び他県を参考に検討した。完全にリンクさせることにはならなかった。

我喜屋理事より、次のとおり意見が述べられた。禁煙は、地域保健や学校薬剤師関連や禁煙外来が入るため、この委員会だけというのはどうかと思う。

吉田副会長より、次のとおり説明された。そうすると各事業はすべての委員会に属させることになる。いずれかに集約させないといけない。

いろいろな検討した結果、地域保健委員会となった。

山里常務理事より、次のとおり意見が述べられた。地域をとって薬局保健委員会とするのどうか。

吉田副会長より、次のとおり説明された。名称は幹事会でも議論したが、要するに一般用医薬品販売に関することは、どこの委員会に属させるのか、これまでどおり単独とするのかいうことで考えていただきたい。

我喜屋理事より、次のとおり意見が述べられた。平成27年度からの大学のコアカリキュラムでも在宅と一般用医薬品については重点課題として入ってきており、重要な分野であるため、特化すべきである。

神村会長より、次のとおり述べられた。保険薬局部会も廃止案が出ているが、保険薬局およびOTC薬局が具体的に活動できるように検討していただきたい。また、委員会の名称についても薬局という名前を残す必要があるのではないかと。

川上理事より、次のとおり述べられた。保険薬局部会の廃止については、これまでに当部会に関わってきた諸先輩方が保険薬局勤務の会員に勉強して頂くために活動されてきた。しかし、最近では参加者も少なくなり、継続が難しい状況となってきたため、このような形で検討してもらった。ただ、会長が述べられたとおり、薬局という名称もどこかで残し、研修会、勉強会を対外的にできるようにして頂きたい。これまでの開局委員会、保険薬局部会を併せて薬局委員会としてはどうだろうか。

神村会長より、次のとおり述べられた。今の意見に賛成である。薬局という言葉を残して活動することに意味がある。

この議題の件については、次回の理事会での継続検討事項となった。

(2) 沖縄市重度心身障がい者（児）医療費助成事業自動償還方式の検討について

田場専務理事より、次のとおり説明し、提案された。12月18日に沖縄市障がい福祉課より、沖縄市重度心身障がい者（児）への医療費助成事業自動償還方式への協力依頼があった。現在、各市町村が順次取り組んでいることも医療費自動償還については県が中心となっているが、この件について県の準備が出来ておらず、沖縄市独自の実施を考えているとのこと。内容としては、①自動償還移行への承認について、②薬局における事務手数料についてとなっている。事務手数料については、県医師会、県歯科医師会の意見も参考にすることで、承認された。

(3) 試験検査センターの機器購入について

田場専務理事より、次のとおり説明があり、提案された。試験検査センターより、昭和62年12月に購入した紫外可視分光光度計（UV-160）は耐用年数が過ぎ、日薬や厚生労働省の精度管理試験で求められる分析精度に対応出来ていない。メーカーの補修部品もなく、故障した際は修理不可能な状態である。当機器は試験検査センターとしての登録指定に必要な機器となっている。試験検査センター運営委員会においても現状を鑑みて機器の入替購入が必要との意見が出た。よって資料のとおり機器の購入についてご提案したい。

この件について承認された。

(4) 地域ケア会議の視察等について

笠原理事より、次のとおり提案された。沖縄県子ども生活福祉部高齢者福祉介護課より、平成27年度から地域包括ケアシステムの構築に基づく地域ケア会議モデル事業の実施を予定

している。その中、先進的な活動をしている大分県への視察を行う。参加は希望者のみとなっているが、薬剤師の関わりについて視察させていただきたい。

神村会長より、次のとおり述べられた。この視察は、沖縄県においての高齢化社会に対応した地域包括ケアシステムとして、必要経費は、会営薬局の公益事業支出として検討していただきたい。

この件について承認された。

(5) 平成26年度沖縄県交通遺児育成会への募金について

神村会長より、次のとおり説明があり、提案された。今から20年程前に、県医師会において会員が撮った写真を募って写真展を催し、その売上を交通遺児育成会に寄付していたことが始まりで、そこに薬剤師会にも誘いがあり、後に県歯科医師会、看護協会が参加し現在のスタイルになった。寄付金は、例年通り5万円とすることが提案された。

この件について承認された。

(6) その他

神村会長より、次のとおり述べられた。理事会の議題ではないが、今度、ご存じのように米軍施設「西普天間住宅地区」返還跡地に新薬の研究開発拠点「沖縄メディカル・イノベーション・センター」(OMIC)の創設が検討され進められている。日米の大学が連携して創薬の研究者養成、新薬の開発製薬会社の拠点を置き、医療人の人材育成に繋がりたいとの構想があり、更にガン治療重粒子線施設を設置し、医療産業拠点とする基本構想を策定し、琉球大学医学部並びに附属病院の移転が企画されている。それを機に琉球大学に薬学部の創設を要望し、沖縄を中心とした日米、アジアを含め海外でも活動できる医療の担い手として質の高い薬剤師を養成していきたい。学生定員は1学年60~70名程度とし、国立大学としての質を高めるには適当な定員と思われる。また、地元の発展の為に10~15名程度の地域入学定員枠が必要である。この計画の責任者は参議院議員の島尻あい子氏であることから、近日中に相談のため面会を申し入れたいと考えている。また、その他の国会議員にも相談していきたい。一方、以前にもお話したが、ある人物が、うるま市に医療福祉大学を開学しそこに薬学部を創設したいとの構想があり、当会にも来訪があったが、考えがあまりにも浅かったことで、反対の意を申し上げた。

松山副会長より、次のとおり述べられた。是非、会長の人脈を通して取り組んでほしい。

村田理事より、次のとおり述べられた。地元枠の設置理由として、沖縄は離島が多いことで離島に派遣する薬剤師の為に地元枠を設置する必要性を唱えてほしい。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等(12月分)及び病院別院外処方せん発行状況

(2) 健康とおくすり相談会

12月14日(日) 具志川改善センター(久米島)

笠原理事より、次のとおり報告された。久米島の産業まつり健康プロジェクトにおいて、久米島病院の看護師と連携して久米島在の会員と共にお薬相談会に参加した。プロジェクトの内容として、①島民に生活習慣病について関心を持ってもらう。②血糖値、血圧等の基準値を超えた方に健康相談、保健指導を行い、早期受診を促す。③食生活の重要性を認識してもらう。これらを念頭におくすり相談会に取り組んだ。

(3) JPALS研修会

12月14日(日)・1月15日(木) 県薬

亀谷常務理事より、次のとおり報告された。JPALSのレベル5の暫定の期限が今年の3月末に迫っている中で、報告の本数が足りていない人が多いとのことによりJPALS研修会を企画した。現在までに2回開催した。1回目は1名、2回目は16名程の参加があった。

レポート提出について実際にはそんなに難しいことではないと理解して頂いた。講師料は辞退しており、希望者がいれば参加者の多少に関わらず対応していきたい。

(4) 平成26年度第2回医薬品事故・過誤対策委員会 12月15日（月）県薬

亀谷常務理事より、次のとおり報告された。平成27年2月1日（日）に医療安全講習会を開催する。九州大学の鮎沢純子先生をお招きして「ヒヤリハットの活用～事例を踏まえて～」(仮題)について講演をお願いする。他に当委員会でもまとめた「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」を紹介する。

第76回九州山口薬学大会での医療安全対策連絡協議会より、事前アンケートがあり、当県内で起きた医療事故で、当委員会では当然に保険の対象と思われたことが対象外と判定された事例を提出した。福岡県薬剤師会の田尻氏も、その事例は保険の対象となるべきとの見解で、直接、損保ジャパンと交渉を続けて頂いている。また、日薬の顧問弁護士の赤羽氏も同様な見解とのことである。

(5) 学校薬剤師制度創設60周年記念文部科学大臣表彰伝達表彰式

12月15日（月）宮城薬局・いは薬局／12月16日（火）宮盛薬局

前濱常務理事より、次のとおり報告された。11月6日の全国学校薬剤師大会で表彰式があった。平日だったため、受賞した與那嶺朝子先生、蒔初子先生。伊佐常隆先生は出席できなかったため、後日に直接薬局を訪問し、伝達表彰状授与を行ってきた。

(6) 学薬役員会 1月12日（月）県薬

前濱常務理事より、次のとおり報告された。この時期の役員会は、各市町村の担当者変更、申請変更、新任薬剤師の配置がメインとなる。また、学薬のホームページが平成22年からあまり更新されていなかった。若い薬剤師が増えてきたので、ホームページを充実させていきたい。

(7) 半期監事監査 12月16日（火）県薬

山里常務理事より、次のとおり報告された。神村会長と共に監事の古城桂子先生、伊敷幸太郎先生に同席いただき、朝10時から夕方5時まで前期4月～9月までの収支状況等を確認してもらい無事終了した。収支状況は、全会計合算で収益を出しており良好である。

(8) 試験検査センター運営協議会 12月16日（火）県薬

田場専務理事より、次のとおり報告された。平成26年度の計画的試験について、プレドニゾロン錠の溶出試験、カフェイン含有製剤の定量試験及び漢方薬の細菌検査について、また今議題に上がっている分析機器の購入について協議された。

(9) 沖縄市役所障がい福祉課より来訪 12月18日（木）県薬

(10) 第48回沖縄県母子保健大会 1月15日（木）てだこホール

(11) 沖縄県新型インフルエンザ等対策連絡訓練 1月23日（金）県薬

田場専務理事より、次のとおり報告された。平成27年1月23日に新型インフルエンザ等対策連絡訓練があった。国内において新型インフルエンザの感染症例の報告が増加していることを想定して、政府が対策本部を立ち上げた旨、また続けて沖縄県が対策本部を立ち上げた旨が指定地方公共機関宛に電子メールにて報告されるという訓練であった。今後はその報告を受けて、各指定地方公共機関においても事業継続計画に沿って対応するなど準備する必要がある。

(12) 救急・夜間・休日における管理薬剤師兼務許可願いのための回答

田場専務より、次のとおり報告された。標記の件について南部保健所に2、3回相談に出向いているが、誠意のある対応をいただけていない。そのことを受けて理由を文書で求めたところ、法的根拠のみの回答であった。

神村会長より、この回答では、兼務の可否について検討する意思もないと解釈できる。行政として全国的な薬剤師不足という、現場の状況を把握しているのか疑問である。他府県では兼務を可とする事例がある。

我喜屋理事より、次のとおり述べられた。会営薬局医療センター前は、兼務可とされていますが、これは保健所あるいは、県が許可したのか。

神村会長より、次のとおり述べられた。救急であることで県に暗黙の了解を頂いた。この件については、積極的に求めていく。

(13) 第71回臨時総会について

田場専務理事より、次のとおり報告された。平成27年度事業計画案の提出期限は、1月13日となっている。まだの委員会、部会は今月中の提出をお願いします。

(14) 電気保安1年点検 12月17日(水) 県薬

(15) 社会保険診療報酬支払基金審査委員会

12月18・19・22・26日(木・金・月・金) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(16) 組織編成検討会議 12月19日(金)・1月8日(木) 県薬

(17) 在宅委員会(電子お薬手帳について) 1月5日(月) 県薬

吉田副会長より、次のとおり報告された。県医師会と進めている津梁ネットワークの在宅医療連携システム構築に係わる委員会の前段として交流も兼ねて開催した。システムにどのようにお薬情報を取り込むか等を話し合った。

(18) 国際通訳ボランティアステップアップ講座 1月17日(土) 沖縄県国際交流・人材育成財団

吉田副会長より、次のとおり報告された。沖縄県国際交流・人材育成財団から当会へ講師派遣依頼があった。依頼内容は、沖縄県在住の外国人へのボランティア通訳者に対して、薬局のしくみ、医薬分業、保険制度また、薬局でよく使われる英単語等について講義していただきたいとのこと。講義時間は90分で受講生は16名であった。県薬のホームページにある外国人向けの指さし対応マニュアルを紹介したところ喜んでいただいた。次年度もお願いしたいとのこと。

(19) 社会医療法人友愛会忘年会 12月20日(土) ロワジュールホテル那覇

(20) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会・新年会

1月7日(水) サザンプラザ海邦 <資料配布>

(21) 沖縄県歯科医師会新年会叙勲・大臣表彰等受賞合同祝賀会 1月8日(木) ザ・ナハテラス

(22) 沖縄県小児保健協会新年会 1月9日(金) ホテル日航那覇グランドキャッスル

(23) 平成26年度叙勲表彰等受賞祝賀会・新年会(看護協会)

1月10日(土) ホテル日航那覇グランドキャッスル

(24) 平成27年沖縄県医師会新年祝賀会並びに医事功労者表彰式

1月10日(土) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

(25) 平成26年度第4回都道府県会長協議会・新年賀詞交歓会 1月14日(水) 日薬

神村会長より、(19)~(25)までの項目について次のとおり、まとめて報告された。例年1月は、多くの各団体や政治家の新年会等がある。今回、県小児保健協会の新年会に初めて、県薬剤師会、県医師会、県歯科医師会、県看護協会の4師会が招待された。今後医療ゾーン内の各団体の連携を深める上で有意義な時間であった。

都道府県会長協議会では、主に日薬会館についての協議となった。90坪の土地を購入した後、隣の100坪の購入交渉が決裂し、借用の代替案については否決され、ぜんぜん進展がないことに多くの批判が集中していた。

(26) 「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」についての勉強会

(27) 「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」参加薬局 12月21日（日）県薬

笠原理事より、次のとおり報告された。「薬局・薬剤師を活用とした健康情報拠点事業」の参加薬局について県薬のホームページに掲載してある。全地区からの薬局にご参加頂いている。おくすりバッグ事業には約70薬局、健康チェック事業には約30薬局が参加している。期間は3月の下旬までと短期間ではあるが積極的に取り組んでいる。また、この健康情報拠点推進事業への参加薬局対象に鹿児島県薬の沼田先生を招き勉強会を開催した。鹿児島県薬は、おくすりバッグ事業を年々進化させ、さまざまな形で情報を集めているとのこと。それから県栄養士会の吉田理事を招いて栄養学についての講話を頂いた。

(28) 沖縄県薬剤師会在宅医療研修会 12月21日（日）県薬

笠原理事より、次のとおり報告された。メーカーのニプロと県薬の共催で、主に無菌調剤に係わる経管栄養・医療材料についての研修会を開催した。20数名の参加があった。

別件の報告で、平成27年スポーツ新春の集いに参加した。平成26年度に体育協会のスポーツ医科学委員会にスポーツファーマシスト部会を作ってもらい予算8万円つけて頂いたこともあり、DIの吉田典子先生と一緒にご挨拶を兼ねて参加した。DIでは、質問に対してもれなく回答されているということで高い評価をいただき、今後の啓発活動もお願いされた。

(29) 会計監査 12月26日（金）・1月7日（水）県薬

(30) 平成26年度第4回医薬分業対策委員会 1月8日（木）県薬

江夏常務理事より、次のとおり報告された。2年に1回開催しているFAXコーナー担当者意見交換会について協議された。開催日は2月15日、FAXコーナー職員へのアンケート内容の検討、当日の役割分担等を話し合った。また、当日の配布資料として、FAXコーナーでは、麻薬取扱い薬局情報の更新が必要とのことで、九州厚生局ホームページに公表されている施設基準取得薬局データを印刷し提供することになった。

(31) 沖縄県後期高齢者医療制度運営 1月15日（木）沖縄県後期高齢者医療広域連合

江夏常務理事より、次のとおり報告された。沖縄県及び全国的にみて医療費が下がっている。この理由は、高齢者の健康意識が高まり、また市町村の啓発活動により高齢者の特定健診受診率が伸びてきている結果ではないかと言われている。また、現在、後期高齢者の税収が伸びている。この理由は、比較的年金受給額の高い厚生年金受給対象者の退職者が増えてきたことが考えられるとのことである。平成29年度からは、マイナンバー制度が全国で実施され、カードに多くの個人情報が入力され利便性があるため、後期高齢者もしっかり利用していただきたいとのこと。

(32) 医療ゾーンの各団体に係る固定資産税の減免に関する要望について（打合せ）

1月13日（火）沖縄県小児保健協会

(33) 南風原町長への固定資産税の減免に関する要望書提出 2月4日（水）

山城課長より、次のとおり報告された。医療ゾーン内の県医師会、県歯科医師会、県看護協会、県小児保健協会、県薬剤師会の5団体では、それぞれ南風原町に固定資産税を納付しているが、各団体とも公益目的事業を主として取り組んでいることから、南風原町に対して5団体の連名で固定資産税の減免を要望することとなった。来る2月4日に各会長そろって直接南風原町長に要望書の提出を予定している。

(34) 県薬ホールスピーカー移設工事 1月14・15日（水・木）県薬

山城課長より、次のとおり報告された。県薬会館ホールにおいて、以前よりホールの構造上マイクのハウリングが起きやすいことから改善策の一つとして、スピーカーの位置を前の方に移動した。多少は良くなっている様子であるが、まだハウリングが起りやすい状況が続いている。

(35) 小児救急電話相談（#8000）についての打合せ会議 1月22日（木）沖縄県医師会

山城課長より、次のとおり報告された。これまでの理事会でも報告してきたが、小児救急電話相談（#8000）について準備を進めている。来る1月22日にこの事業に取り組んでい

(36) 沖縄県薬業連合会合同祝賀会 1月18日（日）沖縄都ホテル

神村会長より、次のとおり報告された。明日、合同祝賀会が開催される。来賓として知事の代理で副知事の浦崎唯昭氏が出席する。例年どおり開催場所は、都ホテルではあるが、これまでの地階から2階の会場に変更となっている。

(37) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

我喜屋理事より、次のとおり報告された。先日、協力薬剤師全員に対して感謝の意を込めてお礼状を送付した。現場については、1月から日祝祭日は、豊見城薬局と交互に開局している。年末年始を超えてほっとしているところだが、インフルエンザの患者がかなり増えており、かなり忙しい状況である。その中、これまでがんばってきてくれた職員が諸事情により退職する。残念ではあるが感謝したい。しかし今後、必要に応じて手伝っていただけるとのことである。4月から入る予定の新卒薬剤師を迎える準備をしていきたい。

山城課長より、次のとおり報告された。これまで協力薬剤師として入っていた方が、1月からパート職員として入社した。非常に明るく能力が高い方なので助かっている。

報告（薬連）

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| (1) 各選対事務所訪問 | 12月14日（日）各選対事務所 |
| (2) 島尻あい子 新春の集い | 1月5日（月）自治会館 |
| (3) 2015公明党沖縄県本部賀詞交歓会 | 1月6日（火）自治会館 |
| (4) 自由民主党沖縄県連新春の集い | 1月7日（水）ロワジュールホテル那覇 |
| (5) 自民党沖縄3区支部 新春の集い（比嘉奈津美氏） | 1月10日（土）沖縄市産業交流センター |
| (6) 西銘恒三郎 新春の集い | 1月17日（土）JAおきなわ南風原支店 |
| (7) その他 | |

神村会長より、次のとおり報告された。昨年末の衆議院議員選挙では、各自民党候補者は、比例でどうにか救われて当選した。非常に厳しい選挙であった。年明けの各国会議員の新春の集いでは、支持者に対して感謝の辞が述べられ、しっかり政治活動に取り組んでいくことが誓われていた。

平成26年度 第11回定例理事会 議事概要

日時：平成27年2月14日（土）19:00～21:00

会場：石垣市民会館

<出席者>

会 長：神村武之
副 会 長：吉田洋史
理 事：田場英治、江夏京子、亀谷浩昌、山里 勇、前濱朋子、姫野耕一、下地 仁、
笠原大吾、我喜屋美香、村田美智子、幸地良信、石川恵市
事 務 局：山城英人、大城喜仁、稲福文隆

<欠席者>

副 会 長：松山朝雄
理 事：宮城敦子、新垣秀幸、川上善久、外間惟夫、玉城 純

神村会長より、前会長の時に石垣で移動理事会を開催した。その時に10年に一度は離島で移動理事会を開催することとなっていたが、今回念願の開催となった。傍聴席も設けており、多くの先生方が来られて、理事会の状況を見ていただきたい。また、終了後は地区会員との交流という目的もありますので、時間通りに進めていきたいと挨拶があった。

議題

(1) 委員会、部会の編成について

田場専務理事より、現状の保健福祉委員会を在宅医療委員会と地域保健開局委員会に分ける案で、前回より継続審議となっている。新垣理事は今回、理事会欠席のため、ご意見資料を（別添）提出しておりますので、鑑みて意見を申し上げますと説明があった。

田場専務理事より、新垣理事が提出した資料によると、一般医薬品販売に関する業務は膨大であり、現状のまま開局委員会として維持して行くのが理想であるとの事と記されています。結論としては、一般医薬品販売に関する事業は現状のまま開局委員会として残すか、新たな地域保健開局委員会事業に組み込むか、他の委員会に組み込むかの選択肢しかないという説明があった。

我喜屋理事より、薬学生実務実習では、一般用医薬品に関する実習は全体の1/4を占める。今後も重要な位置を占めると思うので、検討の余地があると意見があった。

江夏常務理事より、薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業にもセルフメディケーションが記されている。薬局は調剤のみでなく、一般用医薬品も力を入れていく必要があると意見があった。

亀谷常務理事より、現状のまま開局委員会として残すなら、具体的に事業内容を記載いただけたらとの意見があった。

前濱理事より、各委員会の委員長を集めて意見をきくのも良いのではとの意見があった。

村田理事より、開局委員会を現状のまま独立させても良いのではという意見があった。

亀谷常務理事より、一般用医薬品のみ扱っている薬局を増やすのは難しい。一般薬の活性化を考えると、調剤薬局も含めて考えた方が効率が良いという意見があった。

我喜屋理事より、保険薬局業務は在宅医療、一般用医薬品等も含まれている。国はこれを推し進めている。もう少しわかりやすい委員会にして欲しいとの意見があった。

笠原理事より、保健福祉委員会は調剤以外のことを引き受けてきた。今回、在宅医療は単独委員会

となるのですが、保健福祉委員会と開局委員会が1つになることで、(地域保健開局委員会)、一般用医薬品以外の禁煙、県民健康フェア、健康情報拠点事業等が含まれてくる。おそらく当人が考えている開局委員会の趣旨とは異なると認識しているのではと感じられる。また、地域保健開局委員会となることで、複雑に感じると意見があった。

神村会長より、保険薬局で一般用医薬品の販売も両立することは、我々が目指す本来の薬局であり、また日薬の考え方でもある。両立してやるために地域保健開局委員会とするのが理想である。委員会を立ち上げて、不都合があれば議論し変更等も可能である。やってみてから考えていけばいいのではとの意見があった。

我喜屋理事より、一般用医薬品薬に関しては国、日薬からの伝達講習もあるので、重要だと感じる。開局委員会を再編成して独立してもいいのではとの意見があった。

下地理事より、意見書の中で、おくすり相談事業は別の委員会に任せるとあるが、薬局業務とは相談があって初めて薬を売るわけですから、開局の中の一部であることは認識しないと、おくすり相談事業は後退するし、連携が難しくなってくることもあるとの意見があった。

姫野理事より、委員会の目的は会員のスキルアップで医薬品の調剤、販売、供給を担うのが薬剤師の職能であり、これらを法律に従って行い、人、物の環境を整えるのが開局委員会の事業ですと記してあるので、地域保健開局委員会として一緒にやってもいいのではと思う。委員会の構成の中でワーキンググループという考えもあるとの意見があった。

山里常務理事より、地域保健開局委員会の名称を開局地域保健委員会にするとか全事業(8項目)を開局側と地域保健側の2つに分けるとか、考える必要があるのではとの意見があった。

神村会長より、委員会の中で役割分担をすればいい。従来の委員会で行ったスタイルでやるとか、そこは議論してほしい。薬剤師業務はこれだけと決めつけていいのか。売るだけが仕事で、調剤はやりません。災害があって派遣依頼が来ても、災害にはいけませんと言っていることと全く同じである。大きく視野を広げて考えていただきたいという意見があった。

我喜屋理事より、事業項目が多すぎて委員会として明確ではない。一般用医薬品販売に関する事業を独立した方がいいとの意見があった。

吉田副会長より、メンバー編成については現在の委員を基本として、次期執行部で検討するという説明があった。

田場専務理事より、基本的には地域保健開局委員会として名称を変える案で進めていきたい方針だが、意見の折り合いがつかず継続審議となり終了した。

(2) 平成27年度事業計画案(第71回臨時総会)について

田場専務理事より、第71回臨時総会は3月29日開催。提出いただいた各委員会、部会の事業計画案をご確認いただき、ご意見がありましたら事務局まで連絡下さるようお願いすると報告があった。

(3) 会営薬局医療センター前のレセコン及び電子薬歴入れ替えについて(来期予算として)

山城課長より、電子薬歴を購入して6年を迎える。現在のソフトメディアがWindows XPでサポートがすでに終了した。この節目に会営薬局うえはら、とよみの機種を統一して、輪番薬剤師と事務員がスムーズに勤務できるよう要望がある。業者から見積もりを出して頂いて交渉している。来期の予算執行で進めたい。導入は5月の連休あたりを予定しているとの説明があった。

神村会長より、5年も経過してコンピュータの調子が悪いということですので業務に支障がないように替える必要がある。しっかり交渉していただいて購入をしたいと思いますが、よろしいかという説明があった。

吉田副会長より、将来的には会営薬局うえはら、とよみ、医療センター前のコンピュータを同時に入れ替えるようにしたい。会営薬局うえはら、とよみは2、3年前に導入したということであれば、若干高くなると思うがレンタルにして、会営薬局うえはら、とよみの切り替え時期に一斉に見積入札させた方が負担も抑えることができるのではとの意見があった。

意見のあった事項を含めて交渉することで承認された。

(4) 指定地方公共機関の指定に対する承諾について（依頼）

吉田副会長より、県と連携して防災体制の強化を図るため、指定地方公共機関に当会も指定していただくよう、お願いしている中、早速依頼文書が届いたので当会も指定していただく事になった。了承いただきたいとの意見があり、承認された。

(5) その他

○審査委員会等（仮）の機関設置について

亀谷常務理事より、学術研究が倫理に則っているか等のお墨付きを与える機関が大学等では設置されている。当会も審査機関の設置は必要ではないかとの意見があった。

神村会長より、他府県の事例も確認して、検討委員会を立ち上げて進めた方がよいのか等含め、次回検討することとなった。

○那覇市市民防災室からの依頼について

吉田副会長より、那覇市民防災室から、薬剤師会と那覇市が防災応援協定を結びたいとの相談があった。段階として、那覇地区薬剤師会で話を進めるか、県薬剤師会で対応した方がいいのかとの意見があった。

亀谷常務理事より、那覇地区薬剤師会で対応して、必要であれば県薬剤師会に相談したいとの回答であった。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等（1月分）及び病院別院外処方せん発行状況

(2) 平成26年度 女性薬剤師部会 第15回漢方講座 1月18日（日）県薬

村田理事より、第15回漢方講座を開催し、94名の参加があった。今回で株式会社ツムラの共催は終了となったため、今後の運営についてのアンケート調査を行った。結果、74人の回答があり、2人を除いた72人が有料でも参加するという回答で、参加費としては1,000円が過半数を占め、講師も清水先生支持が圧倒的多数であった。今後は有料（1,000円）で従来通りの年2回継続開催することとし、講師料等の足りない分は活動費から負担するとの報告があった。

(3) 平成26年度第2回沖縄県自殺対策連絡協議会 1月21日（水）県庁

村田理事より、沖縄県の自殺者現状は24年度から300人を割り268人と減少してきているが、25年、26年（12月暫定）は271人と全く同じ数字ではあるが若干増加している。全国的には男性の自殺者が多く女性の2倍である。沖縄県の女性は全国平均だが、男性の場合は全国平均より上である（20才以下は少ない）。理由として県内はブラック企業が多くて、雇う側の教育がされてない、それによって労使関係の問題が生じて自殺に追い込まれているのではという分析があった。県の当協議会は、自殺者のピーク時360名の20%減を目指して自殺対策に関する活動をしてきたが、24年度に達成したため、さらにそれ以下のピーク時30%減を目標に策定を進めている。2,500名を対象に自殺に対する意識調査を行ったということで。後日結果を分析して冊子にするとの事であった。また、県の事業として

自殺未遂に終わった人達を対象に講演会（3月6日、7日に計画）を予定していて、これはケアする側にも役立つ内容になっているという。薬剤師会では、自殺予防対策ゲートキーパースキルアップ研修会を3月8日に開催する。県の健康おきなわ21事業では、次世代の健康教育に係わる教育課程として、小学生は「食育」で生活習慣病対策は食事が大事ということの副読本を作成、中学生に対しては「心身の健康編」という冊子を作成し、3月末に配布予定。沖縄県のホームページからもダウンロードできるようにするとの報告があった。

亀谷常務理事より、那覇市から那覇地区薬剤師会に自殺対策会議への参加依頼があり、お互い連携をとっていきたいという意見があった。

(4) 沖縄県薬業連合会 合同祝賀会並びに新年会

1月18日（日）沖縄都ホテル

神村会長より、大勢の参加者で大盛況であった。資料を添付しているので、後でご覧下さいとの報告であった。

(5) 九山代表者会議

1月26日（月）福岡県薬

(6) 九州ブロック日薬代議員予備会議

1月26日（月）福岡県薬

神村会長より、報告(5)(6)について、日薬のグランドデザインが廃止となった。福岡県が独自で作成するとのことで必要であれば、各県に参考として配るとのことであった。将来的に沖縄県も独自に作る必要があるのか検討する。次に病薬会頭から、処方箋に情報が付加されるということで検査結果等々が大病院から出されるということであった。

次に、日薬会館建設の件で、敷地面積90坪の小さな敷地に日薬会館の建設予定があるが、反対意見が多いとの事であった。

また、薬局の法人化について、診療報酬は国民の税金であり、調剤報酬で儲けて株式上場することは常識ではないと前から言われている。一般販売部門は株式、調剤部門は医療法人ということは一薬局で二つの名称を持つことになる。ありえない話で法人化は無理であるとのことであった。

九山薬学大会のレセプションが毎年拡大して、担当県の負担が大きくなっている。縮小していただきたいとのことで全員が賛成し、次回から縮小するという報告があった。

(7) 中頭病院より来訪

2月4日（水）県薬

神村会長より、中頭病院が来年の10月に新築移転する。それを機に夜間、休日の院外処方箋を発行するとのことで、当会へ協力依頼があった。門前に某薬局が土地を確保しているとのことである。なら、某薬局へも協力願いを依頼していただきたいと伝え、薬剤師会からも某薬局へは協力依頼をお願いするとの報告があった。

(8) 南風原町長への固定資産税減免に関する要望書提出

2月4日（水）南風原町役場

神村会長より、医療5団体、医師会、看護協会、歯科医師会、小児保健協会、薬剤師会の会長が揃って、（歯科医師会長所用のため副会長が代理出席）固定資産税減免についてをお願いをした。各団体の状況について説明をした。当会としては薬事情報センター、試験検査センター、救急医療、夜間休日の薬局体制についての状況を説明し、特に救急医療については沖縄県から依頼されて地域医療の貢献として開局しているが赤字状態である。医療体制を充実させるために固定資産税の免除をお願いをしたとの報告であった。

(9) 日薬九州ブロック会議

2月7日（土）県薬

神村会長より、沖縄県で日薬九州ブロック会議と日薬連盟ブロック会議を開催した。日薬より、会長、専務理事、担当理事が参加して、九州各県総勢41名の参加であった。沖縄県開催ということで、当会常務理事もオブザーバー参加で出席いただいた。協議に関して特に大きな問題はなかったが、

当県より各県の薬剤師不足について情報提供をいただきたいと質問をした。内容として薬剤師不足の中で夜間、休日の調剤については管理薬剤師も他の薬局で輪番薬剤師として調剤ができるように日薬から厚労省へお願いして頂きたいと意見を述べたら、数県からの回答では、すでに県から了承を得て行っているとのことであった。当県も保健所へお願いをしているが了承が得られず、休日に開局をしている薬局は困難をきたしている。他県の状況も説明して理解いただけるように交渉は続けるという報告があった。

(10) 社会保健診療報酬支払基金沖縄支部幹事会

2月10日（火）社会保健診療報酬支払基金沖縄支部

(11) 平成26年度第4回沖縄県がん診療連携協議会

2月13日（金）琉球大学医学部管理棟

神村会長より、沖縄県では、がん診療連携協議会がすでに発足されていると石川県が情報を得て、スタッフを派遣して傍聴にいられていた。また、がん患者の代表者も参加して、活発な意見を交わすなど有意義な会議となったとの報告があった。

(12) 島尻あい子氏への訪問（薬学部設置に関する要望書について）

2月14日（土）島尻あい子後援会事務所

神村会長より、米軍施設「西普天間住宅地区」返還跡地に新薬の研究開発拠点「沖縄メディカル・イノベーション・センター」（OMIC）の創設が検討され進められている。日米の大学が連携して創薬の研究者養成、新薬の開発製薬会社の拠点を置き、医療人の人材育成に繋げたいとの構想がある。更にガン治療重粒子線治療施設を設置し医療産業拠点とする基本構想を策定し琉球大学医学部並びに附属病院の移転が企画されている。それを機に琉球大学に薬学部を創設して頂きたいと要望書を提出した。40分程度の意見交換では、沖縄メディカル・イノベーション・センター創設は、OHMICと（Hのhealth）健康を入れたかったとのことですが、予算の関係上、厳しいとのことであった。また、沖縄県の今後の政権しだいで予算確保にも問題はありますが、前向きに進めていきたいとのことであった。この後、島尻議員は琉球大学の学長と会うことになっているので要望書の件は学長にも伝えて、検討していくとの報告であった。

(13) 医療保険委員会

1月19日（月）県薬

吉田副会長より、協議事項「年末年始休日加算」算定については、当会より各薬局に算定の意向を確認し、算定する薬局すべてを県薬でまとめて九州厚生局に届出を提出していた。本来なら、各地区での医療機関が輪番制で開業するときに近隣薬局も病院・診療所にあわせて輪番となり、年末年始の休日加算が申請できるとの趣旨であった。年末年始に開局するから申請するとの間違った認識をされている薬局がある。以前はなかった夜間休日加算手当が追加されており、夜7時以降の算定ができることになっているので、次年度から県薬としては「年末年始休日加算」算定の取りまとめはしないことになった。

それから3月15日に管理薬剤師業務講習会が沖縄コンベンションセンター会議棟で開催する。講師に県薬務疾病対策課から担当者をお呼びして南部地区で問題になっている医療監視、薬局監視の現状について講演いただく予定になっていて、細かい指摘事項を解説していただく。当会からは仲真薬局長が管理薬剤師業務に関する説明をする事。後、法律等の改正で管理薬剤師業務日誌の様式が若干変更になるが、在庫がなくなり次第切り換えていくという報告があった。

(14) 小児救急電話相談（#8000）についての打合せ会議

1月22日（木）沖縄県医師会

吉田副会長より、沖縄県から補助金を受けて医師会が、夜間の小児救急の電話相談窓口を開設しているが、お薬に関する相談が増加しているため、薬剤師会も事業に参加いただきたいとの依頼が

あり、次年度から事業に加わることとなった。内容としては、患者さんが電話機の#8000を押すと相談窓口につながる。(夜7時から11時までの4時間)電話相談窓口は看護師が対応しているが、必要であれば医師、薬剤師の勤務する(当会は会営薬局医療センター前)専用電話に転送されて患者さんの相談を受けることになっている。会営薬局医療センター前は12時まで開局していることと、常時2名の薬剤師が勤務しているの、対応できるとの報告があった。

(15) 平成26年度東日本大震災支援協力会議第1回総会 2月6日(金) 県庁

吉田副会長より、未だ沖縄県に800人を超える被災者が避難している。当支援協力会議の活動としてニライカナイカードを発行している。賛同いただいている会社、企業、お店での割引サービスが受けられる。今年度は支援金の集まりが悪く厳しい状況であるため、改めてご協力をお願いしたい。「ふるさと帰還支援事業」として福島県への里帰りに対する助成金を手厚くしていくことになったと報告があった。

(16) スポーツファーマシスト委員会 1月21日(水) 県薬

笠原理事より、スポーツファーマシスト委員会は次年度よりD I委員会のワーキンググループ(WG)になることを鑑みて21日に委員会を開催した。委員長の伊藤先生が常時沖縄にいないことで次年度どのように進めていくのか議論した。また、沖体協のスポーツ医学委員会にD Iの吉田先生と2人で委員となっていることで、アジア国際シンポジウムに参加した。ドーピング防止については特に子供達のドーピングに対する啓発が求められている。ドーピングホットラインも始まっていて問い合わせもある。ミスのないように継続していきたいという報告があった。

(17) 地域包括ケアシステム構築に向けた地域ケア会議モデル事業実施のための視察

1月27・28日(火・水) 大分県

笠原理事より、地域包括ケアシステム構築に基づく地域ケア会議モデル事業実施のための視察ということで、先進地区である大分県の別府市と杵築市の二ヵ所を訪問して参りました。内容としては、地域ケア会議のあり方に運動、栄養、口腔、認知、とありますが、今後、薬剤師も参加することになるので、薬も記されることになった。また、地域ケア会議の参加により、会議が充実すると思う職種に薬剤師は上位に位置しているが、薬剤師の参加が少ない。理由としては、ただ単純に忙しいとのことで、昼間に患者宅への訪問さえできないということから、会議にも参加できないということである。同行した沖縄県参加メンバー(11名)にも確認したところ薬剤師は必要だということでした。来年度に地域ケア会議モデル地区が沖縄県は2市で宮古島市と沖縄市となった。宮古島、沖縄市の薬剤師はメンバーとして参加いただくよう検討していただきたいという報告があった。

(18) 健康拠点事業に関する報告会 1月29日(木) 県薬

笠原理事より、主体が保健福祉委員会のメンバーになってしまいましたが、健康拠点推進事業を開始して1ヶ月経っています。事業は3月末に終了しますが、中間報告ということで予算執行状況を確認した。事業は順調に進んでいるとの報告があった。

(19) 2015アジア国際シンポジウム 1月30日(金) 海運クラブ(東京)

笠原理事より、英語が公用語になっていて、レシーバによって日本語を聞くことができた。2020年の東京オリンピックを目指してドーピングを防止する内容の研修会だった。過去のオリンピックで、スペイン、トルコはドーピングがあった。日本は1度もなかったことで2020年のオリンピック開催が東京に決まった理由の1つである。アジア一丸となって協力していくという報告があった。

- (20) 平成26年度第3回在宅マニュアル作成検討会議 2月3日(火) 県薬
 笠原理事より、在宅のマニュアルを作成中ではありますが、4月に介護保険が変わることで、完成を来年度に延ばしたい。大枠はできているが、介護保険の改正を確認しながら訂正していきたいと報告されて了承をえた。
- (21) BLS講習会 2月8日(日) おきなわクリニカルシミュレーションセンター
 笠原理事より、一次救命処置の講習会でアドバンスコースを開催した。基本コースを受講された方に限定して、内容は基本コースのおさらいと、応用編として新たに小児、幼児、また窒息した時の解除方法をシミュレータを使用して行った。同講習会を3月8日にも行う。定期的で開催することでスキルアップにつながるのとこのことで次年度も開催を予定しているとの報告があった。
- (22) 沖縄県保健医療部薬務疾病対策課より来局 2月10日(火) 県薬
 (「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」進捗状況についての説明)
 笠原理事より、事業の進捗状況を随時説明して納得いただけた。報告書の締め切りが4月10日で期限内に提出のお願いがあった。3月中旬頃からまとめに入ってから成果物と一緒に報告書を提出するという報告があった。
- (23) なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 2月12日(木) 沖縄県医師会
 笠原理事より、県民健康フェアは来年度8月9日(日)に沖縄コンベンションセンターで例年通り開催が決まっている。開催時間は12時から16時で去年と同じです。各団体のブース内容については夏休期間中のため親子で参加できる自由研究のテーマになるようなことを検討いただきたいとありました。ステージイベントは古蔵小学校のヒップホップダンスをお願いして会場を盛り上げていただく事になっている。去年まで、お笑い芸人ゆうりきやーにもステージをお願いしていましたが、今回は「アイモコ」をお願いしている。キャッチコピーについては、他の団体から数案が出されているが、当会でも案があればご提出をお願いします。また、沖縄県食生活改善推進員の無料試食コーナーとスタンプラリーを新たに予定している。次回の実行委員会は3月19日木曜日開催という報告があった。
- (24) 沖縄県医療推進協議会 1月22日(木) ロワジュールホテル&スパタワー那覇
- (25) 薬事情報センター運営委員会 2月5日(木) 県薬
 姫野理事より、薬事情報センターの事業計画、事業報告の協議と委員会がワーキンググループとして編成されるので、その確認事項でしたとの報告があった。
- (26) 平成26年度第5回広報委員会 1月22日(木) 県薬
 亀谷常務理事より、組織改変でホームページの企画管理を広報委員会が担当して欲しいというところがありました。それについて話し合いをしたが広報委員会としては、企画等について協力ができるもののホームページをアップするなど実際的な担当者は別に決めていただきたい、その担当者と広報委員会で調整しながらホームページの企画管理をしていきたいとの報告があった。
- (27) JPALS研修会 1月29・31日(木・土) 県薬
 亀谷常務理事より、JPALS研修会は5回計画して、現在までに4回終了した。4回目の時点での合計29名受講された。明日(15日)5回目の研修会を開催する。申込は17名で、5回目を含めたら、合計46名がJPALSの研修会を受けたことになる。また、パソコンの初心者講習会の要望があり、今後考えていきたいという報告があった。

(28) 平成26年度医療安全講習会

2月1日(日) 県薬

亀谷常務理事より、研修1に平成26年度医療安全講習会、「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」を沖縄県用に作成し、それを会員へ周知すること。研修2は九州大学の鮎沢先生をお招きして「医療安全に関するトピックス」と題して講演していただき、事例に対応できるよう、参考資料等を詳しく教えていただいた。沖縄県の作った対応マニュアルについて、鮎沢先生より何点かアドバイスをいただいたという報告があった。

(29) 日本薬剤師会生涯学習担当者全国会議

2月11日(水) 日薬

亀谷常務理事より、テーマがJPALSの実践記録を書くということ。レベル5実践記録18本以上提出者は2月現在3500名、全体の20.6%に向上している。3月末までには更に上積みが可能である。未提出者に対する救済措置はなく降格となる。今後レベル6について考慮中である。並行して各学術団体が認定薬剤師を養成しているが、各団体協賛してその上となる薬剤師の資格を作ろうと企画している。受験資格が認定薬剤師取得と論文発表があること。試験は、ペーパーテストをする。ハードルが高い。

また、グループ別ディスカッションに於いては、テーマを「薬剤師の学術貢献を積極的に行うには？」としてディスカッションした。結果として各薬剤師会は会員に対して、テーマを見つける手助け、指導をして欲しいという意見があった。また実践記録を書くには、というテーマに対して、書きやすいように様々な工夫が必要という意見があった。例えば、講演会の最後にJPALS報告書の下書きを書く時間を設けるとか。

「PSに基づいた研修会を企画するには？」では、なかなか難しくて研修会、講習会にPSコードをつけてもらったかどうかという意見もあった。また企業の講演会にPSコードがつけば有り難いということだった。他に、PSコードに関連した研修会を開催したらどうかという意見があったが、適任の講師を捜すのは難しい。日薬でPS別に講師リストを作成して欲しいという各県からの要望があった。

(30) 平成26年度九州山口各県薬剤師会事務局職員研修会

1月22・23日(木・金) 大分県薬

事務局の松堂と前原が参加した。報告書提出しているのので、後で読んで下さい。

(31) 沖縄県新型インフルエンザ等対策連絡訓練

1月23日(金) 県薬

田場専務理事より、「訓練」と称し、政府対策本部が設置され、それに伴い、沖縄県新型インフルエンザ等対策本部を立ち上げ、各指定地方公共機関と各市町村に緊急メールを発し、届いたかの確認を行ったという報告があった。

(32) 管理者会議

1月27日(火) 県薬

(33) 会計監査

1月29日(木) 県薬

(34) 薬剤師職能PR「沖縄県タイムス“わらびー”」掲載用取材

1月30日(金) にしぼる薬局

(35) 開局委員会

1月30日(金) 県薬

(36) 第14回沖縄県健康教育研究大会

2月5日(木) てだこホール

前濱常務理事より、北部の宮里病院の上原卓郎先生を講師として「くすり教育と学校薬剤師の現状」と題して各学校側への周知も含めて、発表していただいた。講演後、パネルディスカッションが行われて学薬に対する質問が多数あった。その中でセルフメディケーションという言葉は初めて聞いたとのことで、コーディネーターの喜久川先生でさえも知らなかったとのこと。また沖縄県学校保健会長表彰に「北部地区の高良弘子先生、中部地区の喜舎場綾子先生、南部地区の伊集俊雄先生」が表彰されたという報告があった。

(37) 公衆衛生・薬事衛生担当者全国会議 2月12日(木) 日薬

前濱理事より、危険ドラッグ対策とのことで学薬から2名参加した。主催者挨拶で会長が薬剤師の仕事として、調剤以外に公衆衛生、薬事衛生がある。ぜひ学校薬剤師が頑張っていて欲しいということでした。また、危険ドラッグ、向精神薬等が多く出回っている。残薬の整理をするとともに注意喚起していただきたいという報告があった。

(38) 個別指導 2月5・12・19・26日(木) 那覇第一地方合同庁舎**(39) 健康おきなわ21推進協議会** 2月10日(火) ホテルチュウ琉球 <資料配布>

江夏常務理事より、健康おきなわ2010年では目標を達成できなかった。平成20年健康おきなわ21を策定して県民で取り組みしたが、結果的に県内平均寿命「男性25位から30位」、「女性1位から3位」であった。沖縄県は肥満率がワースト1、アルコールによる肝疾患の死亡率が全国2倍、それを踏まえて去年は沖縄21世紀ビジョン基本計画を立ち上げて2040年に男女とも平均寿命日本一を復活させる目標で健康おきなわ21の第2次へとりかかっている。まず働き盛りへの啓蒙が大変重要との事でした。男性で働き盛りの(35才から60才)ワーストが急性心筋梗塞、脳血管、脳出血、肺炎、肝疾患となっている。女性もやはり肝疾患46位。生活習慣病に対する取り組みを強化して行くこと。沖縄県民の肥満率の高さは20代から始まっている。県民性なのか環境なのか、とにかくアルコール性肝疾患死亡率が非常に高い。重点項目として、がん検診、特定健診の定期受診の推進を行う。検診は受けているが、再検査となった場合に精密検査を受けない方が多く、悪化させている場合がある。推進協議会での取り組み内容として検診の普及と啓発、パネル展等のイベントを開催する。2つ目は肥満者減少の取組、啓発。3つ目は生活習慣病のリスクを高める過剰飲酒者の減少、適正飲酒の啓発、禁酒のサポート、またアプリを使用してチェックする行動調査もしていく。中間報告として沖縄県はまだ低迷の状況だが、各企業にも健康に関する取り組みを推進していく。推進事業として従業員10名以上の企業であれば応募できる。よい結果がでた企業へは補助金を支給する。現在11団体の申し込みがあるとのこと。医療関係ではハートライフ病院が応募しているとの報告があった。

(40) 米軍基地内病院視察 2月11日(水) 米軍基地内

石川理事より、新海軍病院の視察を、神村会長はじめ、事務局の大城係長、そして応募された合計21名で参加した。2班に分け、業務中のER、複合病棟、薬局と見学させていただいた。各部署の説明者は軍服の装いで案内してくれた。見学後の交流会では活発な意見が飛び交った。海軍病院薬局の主任から日本の医療機関、薬局を見学したいという要望があった。是非、実現させたいという報告があった。

(41) 調剤報酬の不適切請求に関する報道について <資料配布>

神村会長より、かかりつけ薬局として一生懸命頑張っている薬局がある中、大手の薬局が17万件の薬歴を記載せず患者へ薬を出して、診療報酬を不適切に請求していた。朝日放送でも放映されて、我々にとっては非常に迷惑な薬局である。保険薬局の停止となっても仕方ないという報告があった。

(42) 神殿寄付について

神村会長より、神殿寄付についてのご願いは今回で終了する。再度、理事ならび会員へ、ご協力をお願いしますとの報告があった。

(43) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

我喜屋理事より、1月末日で会営薬局とよみの薬剤師（1名）が退職した。退職理由としては自分で事業を起こしたいとの意思であった。退職後も会営薬局とよみで非常勤務は可能との事であった。明るい兆しでは、以前に退職した薬剤師が輪番に入っていた。また、島袋陽子氏（管理薬剤師）は毎日のように早番、遅番もこなして早々の帰宅ができなかったが、最近是他薬剤師に任せて帰宅できる日も出てきた。今月末には国家試験合格発表があり、新たな薬剤師が加わる予定ですので、その準備も兼ねて進めていきたいという報告があった。

(44) その他

○薬学生の実務実習について

我喜屋理事より、平成27年度23名（11大学）の実習受入マッチングがすべて終了した。各学生が3月時点で進級できるかの保障がないので資料（名簿等）は提出していない。3大学からは（星薬科大学、姫路獨協大学、愛知学院大学）初めての実習生を受け入れる。また、はじめて実習を受け入れる指導薬剤師が10名となっており、1期2期合わせて半数の指導薬剤師が新人である。指導薬剤師の更新が来年から始まり一人でも受入指導実績がないと更新ができない。そのため皆さん手を挙げて下さった。また、今回の理事会が八重山地区開催との事で、当地区の実務実習委員の和田先生と初めて会って40分程の話し合いを持たせていただいた。八重山地区出身の実習生については2年前に1度来たが残念ながらこの生徒は那覇で実習を受け、八重山では実習を受けてない。平成29年には1名、登野城出身の生徒が実習予定とされている。他地区からのふるさと実習も増えてきていることから突然受入となることもある。そのため八重山地区の指導薬剤師は和田先生1名で心配であるとのことで、ぜひ八重山地区からの推薦をよろしく願いますという報告があった。

報告（薬連）

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| (1) 國場幸之助 新春の集い | 1月18日（日）ザ・ナハテラス |
| (2) 沖縄県知事就任 翁長雄志激励会 | 1月20日（火）沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ |
| (3) 宮崎 政久 新春の集い | 1月23日（金）ゆいの町 |
| (4) 平成26年度日薬連盟ブロック会議 | 2月7日（土）県薬 <資料配布> |
| (5) その他 | |

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしく願います。

【連絡先】 県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

平成26年度 第12回定例理事会 議事概要

日時：平成27年3月14日（土）19:00～22:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之
副 会 長：松山朝雄、吉田洋史
理 事：田場英治、江夏京子、山里勇、亀谷浩昌、宮城敦子、前濱朋子、玉城純、
新垣秀幸、下地仁、幸地良信、村田美智子、外間惟夫、笠原大吾、我喜屋美香、
姫野耕一、石川恵市
欠 席：川上善久、笠原大吾
事 務 局：山城英人、金城みどり、前原里江

議題

(1) 特別手当支給について

山里常務理事より、次のとおり提案された。

職員への特別手当支給について、決算見込の当期利益の10%以内の支給を検討しており、平成26年度の決算見込で当期利益額が20,387,603円、前年度対比で利益が4割程ダウンとなっているが、10%以内の額となる、2,013,438円を支給してもよいか。

神村会長より、次のとおり述べられた。

先日の財務委員会で、特別手当は利益の10%の額と決定しているのであれば、昨年同様、当期利益の10%を限度として支給してよいのではないか。

賛成多数で承認された。

(2) 印刷機購入について

山城課長より、次のとおり提案された。

事務局で使用している印刷機が購入から8年が経過し、頻繁に故障が出始めている。業者からの提案では、現状よりコストを削減できる上、作業効率の精度も上がるというので買い替えたい。

神村会長より、次のとおり述べられた。

当会は資料の印刷が多く、業務に支障をきたしている。是非、賛成してもらいたい。

賛成多数で承認された。

(3) 第71回臨時総会について

各総会資料の確認がされた。

始めに山城課長より、次第の内容と各理事の役割が確認され、承認された。

報告第1号 平成27年度事業計画の件について、田場専務理事より、特に委員会編成が関係している箇所について説明された。委員会・部会については、これまでの理事会での議論を参考にして新しい組織編成案として作成している。薬剤師学術研修委員会から学術研修委員会に名称変更。医薬品事故・過誤対策委員会から医療安全対策委員会に名称変更。

ここで亀谷常務理事より、医療安全対策委員会の職務内容としてDEM事業は不適當ではないか、と意見が出された。医薬分業対策委員会で担当するのが妥当ではないか。

江夏常務理事より、次のとおり意見が出された。これまでDEM事業は開局委員会の職務で

あったことを引き継いで地域保健開局委員会で担当してよいのではないかと。DEM事業は、地域保健開局委員会の職務として承認された。

保健福祉委員会から分離独立する形で、在宅委員会を新設。開局委員会、保健福祉委員会、自殺対策委員会、基準薬局制度運営協議会を地域保健開局委員会へ集約。災害対策委員会は職務として新型インフルエンザへの対応等の感染症対策も追加された。

薬事情報センター事業計画について、亀谷常務理事より次のとおり質問がなされた。薬事情報センターがドーピング防止活動の推進を担う事ができるのか。

姫野理事より、次のとおり回答された。ドーピング防止活動に関しては、スポーツファーマシスト資格者が行うため、薬事情報センター事業の中に包括している。

我喜屋理事より、次のとおり質問された。地域保健開局委員会の事業計画はどの委員会から提出されたのか。

田場専務理事より、次のとおり回答された。これまでの各委員会が提出した事業計画を新委員会に当てはめた。

新垣理事より、独立していた開局委員会が地域保健開局委員会に集約されることについて次のとおり意見された。開局委員会の活動の一つのスキルアップ研修会が開催されなくなった理由として、役割分担していた担当者の都合等で継続が難しくなり、今に至った状況である。また、開局委員会が集約される件については、開局委員会で意見をまとめる予定であったが理事会に委ねることになった。いくつかの委員会が集約される地域保健開局委員会の職務はかなりの量となるため不安である。實際上、保健福祉委員会から在宅分野を独立させるだけにして、開局委員会はそのまま存続させるのが妥当ではないか。2月の理事会で委員会の編成を決定するとのことで、慌てさせられたが、3月まで待てない理由はなんだったのか教えていただきたい。

田場専務理事より、次のとおり回答された。事業計画案を作成し、臨時総会提出に向けて2月決定を目標にしていたが、議論により今回に至った。ぎりぎりでの対応は厳しい。

神村会長より、次のとおり述べられた。提出期日や決定期日については、会全体の状況より判断している。個人的な理由で期日を決めてはいない。理解していただきたい。

村田理事より、次のとおり述べられた。新垣理事が出席されなかった先月の理事会では、地域保健開局委員会の職務の量がかかなり多いのではないかと、また、1年間取り組んでみて、不具合があれば組み替えてもいいのではないかと意見があった。

以上、報告第1号平成27年度事業計画案について、賛成多数で承認された。

報告第2号平成27年度予算案について、山里常務理事より資料に沿って説明された。一般会計の収入の部は、受取会費に30万円上乘せし98,300,000円等で経常収益計108,934,002円となる。支出の部は、日薬会費として支払負担金で、13,700,000円等で、経常費用計112,189,370円で当期経常増減額が-3,255,368円となる。収益事業部からの繰入より当期純損益は-1,077,002円となる。次に、収益事業部の会営薬局うえはらでは、当期一般正味財産増減額10,103,920円で、当期指定正味財産増減額-1,109,778円となり、8,994,142円の利益計上となる。会営薬局とよみでは、薬局長不在ではあるが、人件費を計上して予算を組んだ。当期一般正味財産増減額6,465,673円で、当期指定正味財産増減額が0であるため、6,465,673円の利益計上となる。試験検査センターは、売上総利益12,608,668円、経常費用計21,906,072円で、当期純損益-5,267,404円となる。その他事業会計は、売上総利益1,900,200円、経常費用計7,491,543円で、

当期純損益－3,411,343円となる。琉大FAXコーナーは、例年並みで売上総利益3,600,100円、経常費用計3,668,000円、当期純損益は－96,900円となる。会営薬局医療センター前は、売上総利益が35,051,000円、当期一般正味財産増減額－3,638,000円、当期指定正味財産増減額－900,000円で－4,538,000円の損失となる。会全体では、当期一般正味財産増減額4,155,946円、当期指定正味財産増減額－3,086,780円で相殺すると1,069,166円の純利益となる。

我喜屋理事より、次のとおり質問された。医薬品の価格交渉はどのように行っているか。

山城課長より、次のとおり回答した。事務局より予算を分析し薬価差益率を算出し、それに基づいて現場で価格交渉を行っている。

以上、報告第2号平成27年度予算案は、承認された。

議案第1号平成27年度会費額に関する件について、山里常務理事より、会費額については、正会員会費、賛助会員会費、特別会員会費とも前年度同様であることが述べられた。議案第1号平成27年度会費額に関する件は、承認された。

(4) 一般社団法人沖縄県薬剤師会 会長候補者及び監事選挙について

田場専務理事より、次のとおり説明された。臨時総会での議案となる一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事立候補について、会長候補者に亀谷浩昌先生の一名で、監事立候補者に大城桂子先生、友利弘一先生の二名でそれぞれ定数内である。各立候補者について確認され、承認された。

(5) 第72回通常総会開催日について

案：6月21日（日）13時～ 於：沖縄県薬剤師会館

山城課長より、第72回通常総会を平成27年6月21日（日）13時から開催することが提案された。また、それまでのスケジュールが資料に沿って説明され、承認された。

神村会長より、次のとおり述べられた。今年度も通常総会では、代表質問制度を実施する。各地区とも、スケジュールを確認し、事前に代表質問の準備に取り組んでほしい。

(6) 4月の幹事会日程について

案：4月2日（木）※第1水曜日の4/1が会長公務のため

田場専務理事より、次のとおり提案された。4月の幹事会予定日は、第1水曜日の4月1日であるが、その日、神村会長に公務が入っているため、翌4月2日（木）に開催したい。承認された。

(7) 5月の幹事会、理事会日程について

幹事会→案：5月12日（火）※第1水曜日の5/6が連休中の為

理事会→案：5月16日（土）

5月の幹事会は第1水曜日の5月6日が連休のため、5月12日（火）に、理事会は5月9日の第2土曜日は連休明けで理事会資料作りができないので、5月16日（土）に開催されることで承認された。

(8) 平成27年度「薬と健康の週間」での県民公開講演会特別講師の推薦について

田場専務理事より、次のとおり説明された。平成27年度「薬と健康の週間」での県民公開講演会の特別講師について、推薦が挙げられているのは、先日の「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業」の講演会で講師をされた吉田先生一人だけである。

神村会長より、次のとおり述べられた。一般県民が、喜ぶような講演会をしたい。ぜひ、推薦いただきたい。

田場専務理事より、次のとおりお願いされた。次回の理事会で県薬推薦を決定したい。多くの講師の推薦をお願いしたい。

(9) 沖縄県薬剤師会 災害対策マニュアル案について

吉田副会長より、次のとおり資料に沿って説明された。災害対策マニュアルが完成した。日薬や大分県を参考にし、沖縄県版として作成した。項目は大きく4つの章に分けており、Ⅰ. 対象とする災害範囲、Ⅱ. 平時からの備え、Ⅲ. 災害発生時、Ⅳ. 被災地における支援薬剤師の活動。参考資料として備えるべき薬品リスト。災害時携行用医薬品リスト等となっている。平時からの備えと災害発生時の備えで内容が重複している部分もあるが、あえて両方に記載している。今回は第1版とし、必要に応じて修正していきたい。今後、備えるべき防災品、災害時携行用医薬品、災害時携帯用薬剤関連資材等、薬剤師会で備えて置く必要のある物を毎年少しずつ整備していきたい。このマニュアルは、沖縄県薬剤師会目録での対策マニュアルであるため、全会員には、配布せず、各地区と県薬理事に配布したいと思っている。ホームページには掲載する。

以上、承認された。

(10) 日本薬剤師会雑誌新シリーズ企画

「都道府県薬剤師会～こんな事をやっています～」へのご執筆のお願い

神村会長より、次のとおり説明された。日薬より、日薬雑誌で各都道府県薬独自の取り組みを紹介したいとのことで執筆依頼があった。執筆の題材として、神棚の件、県民健康フェアの件、他府県薬ではそれほど開催されていない県薬学会大会の件等を考えてみたい。広報委員会でまとめていただきたい。

宮城広報委員長に確認され、広報委員会で執筆することで承認された。

(11) 組織編成について

議題3の臨時総会の平成27年度事業計画案の審議にて組織編成が了承された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等（2月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>

(2) 薬事情報センター運営委員会 2月5日（木）県薬<資料配布>

姫野理事より、次のとおり報告された。平成26年度事業経過報告として、平成26年度研修会報告、第76回九州山口薬学大会薬事情報センター連絡協議会in長崎の報告があった。平成27年度事業計画については、委員会の組織編成により新たにスポーツファーマシスト事業として、公益財団法人沖縄県体育協会スポーツ医・科学委員会との連携、ドーピングホットライン業務等が、昨年同様の活動を担うこととなった。

(3) 平成26年度高度管理医療機器等継続研修会（八重山） 2月15日（日）石垣市民会館

吉田副会長より、参加者は5名であったと報告された。

(4) ジェネリック医薬品使用促進の先進事例ヒアリング調査についての事前打ち合わせ

(5) 個別指導（2薬局） 2月19・26日（木）那覇第一地方合同庁舎・3月12日（木）県庁

(6) ジェネリック医薬品使用促進の先進事例ヒアリング調査 2月16日（月）県薬
2月23日（月）県薬<資料配布>

神村会長より、次のとおり報告された。みずほ情報総研株式会社が厚生労働省から依頼され、沖縄県のジェネリック医薬品使用率が高い理由はなぜかとのヒアリング調査があった。これまでも各取材に回答しているが、最終的には県民性によるのではないのか。ドクター、薬剤師、

患者とともに他府県に比べてジェネリックへの変更に抵抗感がないのではとの結論に至る。薬剤師として何も努力していないという事ではなく、県薬においても先駆けてポスターを作成したり、薬局の在庫負担の軽減のためのシステムを構築したりと取り組んできた。

江夏常務理事より、次のとおり述べられた。医師にしても必ずしも先発医薬品でなくてはいけないという概念はないのではないか。

村田理事より、次のとおり述べられた。大規模病院が、薬事委員会等で積極的に切り替えていったのも大きな要因ではないか。

神村会長より、次のとおり述べられた。県立病院、公立病院等が、切り替えていった点は大きいと思われる。患者さんに勧める場合にも県立病院で使用している医薬品であると伝えると安心してもらえる。

- (7) 災害対策委員会 3月2日（月）県薬
- (8) 小児救急電話相談（#8000）打ち合わせ 3月6日（金）県薬
- (9) 「小児救急電話相談事業#8000」に関する協議会 3月9日（月）沖縄県医師会

吉田副会長より、次のとおり報告された。小児救急電話相談は、国から各都道府県に対して事業の実施が求められおり、沖縄県においては、最後の47番目の実施で、平成22年に県医師会が企画し、看護協会の看護師が中心となり、バックアップで医師が対応することで始まった。今回、お薬に関する相談は薬剤師会に対応いただきたいとのことで話があり進めている。会営薬局医療センター前の開局時間を活用し午後7時から午後11時までの相談事業となる。お薬に関する相談は、実績として日に2,3件で、#8000にかかってきた相談は、一旦看護師が対応し、内容を確認して必要に応じてドクターの指示を仰ぐ。またお薬の相談であれば、会営薬局に転送することになる。今月中に稼動する予定である。訴訟問題に注意する上で、基本的には相談者に対し、薬剤師が指示はせず、あくまでも最終判断は、保護者に委ねることを心がける。

- (10) 沖縄県財政支援制度（基金）による薬剤師確保事業について <資料配布>

吉田副会長より、次のとおり報告された。薬剤師確保事業については、1月から実施できるかと思われていたが、許可が下りず、交付決定前着手届を出す必要があるということで急遽申請し、やっと許可が下りた。薬剤師確保事業は、沖縄県内に勤務する薬剤師を確保するため、全国の薬科大学をはじめ、薬剤師就職合同説明会、薬剤師国家試験合格ゼミナールにおける進路相談会等へ出向き、就職斡旋を実施していく。沖縄県内で就職させるための事業であり、特定の薬局、病院のためではない。県内の薬剤師不足を少しでも解消できるよう活動していきたい。

- (11) 「歯・口から始まる健康づくりを考えるフォーラム」について 2月15日（日）てんぶす <資料配布>

- (12) 「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」に関する講習会 2月25日（水）県薬
- (13) 保健福祉委員会（在宅小委員会） 2月27日（金）県薬
- (14) 第5回在宅医療に関する講習会 3月1日（日）県薬 <資料配布>
- (15) 第6回子ども禁煙研究会 3月7日（土）県薬
- (16) 第176回全国禁煙アドバイザー育成講習会 3月7日（土）県薬 <資料配布>
- (17) BLS講習会 3月8日（日）おきなわクリニカルシミュレーションセンター
- (18) 八重山地区健康拠点推進事業・BLS講習会 3月10日（火）大濱信泉記念館
- (19) 平成26年度第2回スポーツ医・科学委員会 3月11日（水）沖縄県体育協会 <資料配布>

(20) 健康情報拠点推進事業会議

3月13日（金）県薬

(21) 平成26年度地域・在宅医療、薬局・薬剤師を拠点とした健康情報拠点推進事業等担当者全国会議

3月14日（土）TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

(11) から (21) は笠原理事出張で欠席のため、次回に報告する。

前濱常務理事より、次のとおり資料に沿って述べられた。「歯・口から始まる健康づくりを考えるフォーラム」の案内が南部地区歯科医師会より、学薬部会長宛に届いた。その時に、このフォーラムの演者に県薬理事職名で学薬の立場で「フッ化物洗口事業に対する学校薬剤師の連携について」との題目で組まれていることを初めて知った。フッ素洗口については、学校の中でも養護教諭が薬品の管理が大変であるとか、フッ素自体も薬品として洗口に使われている薬品を使うのか等、重要な物質が含まれており、検討していかなくてはいけない項目が多いにも関わらず、学薬部会では、ぜんぜん話し合いがされていない。これは条例にも係わっているため気をつけないといけない。県薬に講師の推薦依頼があったら、関係部会等の長には、連絡いただきたい。また依頼団体から事前に直接講師に投げかけられても相談なく引き受けるのはおかしいと思う。

また別件で、那覇市学校薬剤師支部から那覇地区学薬の先生方に勉強会のお知らせがきていると思うが、会場が葬祭場となっている。常識的にどうかと考える。ご意見を伺いたい。

神村会長より、次のとおり述べられた。こういう事がないように部会・委員会等では、お互いの中でしっかり連絡を取り合うことが筋である。講師推薦依頼についても、県薬でも知らないことが、内々で事前に決まった中で講師名が入って送付されてくることがある。その講師の意見は、県薬剤師会の意見となるため、しっかり県薬の代表であることを認識してほしい。また、那覇市学校薬剤師支部の勉強会が葬儀場というのは、常識的におかしい。周囲からは、薬剤師は常識はずれで不謹慎と思われかねないため、会場の見直しを考えてほしい。

亀谷常務理事より、県薬という組織であるため、しっかり手順を踏まなくてはならない。

(22) J P A L S 研修会

2月15日（日）県薬

亀谷常務理事より、次のとおり報告された。これまで研修会を5回開催し、合計で45人前後が参加した。その結果、J P A L S のレベル5の登録者は151名、レベル5の認定更新者が45名となった。

(23) 損保ジャパン日本興亜来訪

2月17日（火）県薬

亀谷常務理事より、次のとおり報告された。患者の虫刺されへの薬剤師の対応に関する事故があった。その時に、日薬賠償保険の適応が認められず、薬剤師自身でかなりの金額を支払い解決した事例があった。事故過誤対策委員会としては、この決定に納得がいかず、損保ジャパンに申し出をした。大きなポイントは、薬剤師が行った行為が医療行為に当たるため、保険適応できないと通知されたこと。もう一つは損保ジャパンの担当者の初期対応が悪く、患者さんの心証を悪くした結果、賠償額が高額になった。そういった二つの理由で納得しなかった。その案件を九山学術大会の医療安全会議に挙げて協議して頂いた結果、沖縄県薬の主張が正しいのではないかということになり、日薬の損害賠償担当で福岡県薬の田尻先生より、損保ジャパンの本社にかけあって頂いた。本社側は我々の主張を認め、善処したいと動いているようである。まだ結果は出ていないが、良い結果になることが期待される。

(24) 平成26年度第3回医薬品事故・誤対策委員会

3月11日（水）県薬 <資料配布>

亀谷常務理事より、次のとおり報告された。先日の医療安全講習会の結果を話し合った。参加者が130名、8名が非会員で1万円の参加費を徴収した。

(25) F A Xコーナー担当者意見交換会

2月15日（日）県薬

江夏常務理事より、次のとおり報告された。F A Xコーナー担当意見交換会は医薬分業対策委員会が2年に1回、F A Xコーナー担当の方と意見交換会を行っている。事前にアンケートをとり、それを参考にして各F A Xコーナーの運営状況など活発に意見を交わした。F A Xコーナーの職員が患者さんにどこまで関わるべきか討論した。中部地区ではF A Xコーナーを無人化に向け取り組んでいるので、そうすると患者サービス低下の結果、処方箋応需が面に拡がらない要因となるのではないかとの意見があった。他の地区からは病院側の医事課の委託業者が変わる事によって、患者さんがF A Xコーナーを通るようになった。前の委託業者は協力的ではなかったとの報告があった。また、薬局情報として麻薬を取り扱っている薬局をどのように把握していくかとのことであったが、基準薬局1・2を取得している薬局は麻薬を取り扱わないといけないため、九州厚生局のホームページからその情報を入手し一覧表にして配布した。依然として院外薬局の患者対応には格差があるため、各F A Xコーナーは地区担当役員と相談し連携をとってほしい。

(26) 健康とおくすり相談会（うるま支部）

3月8日（日）具志川ドーム

江夏常務理事より、次のとおり報告された。昨年からうるま支部では、行政からの要請により、ウォーキング大会会場で相談会を実施した。朝6時に集合して準備し、ウォーキング大会が始まる前の7時から相談コーナーを開所した。出場者の方に呼びかけ、血圧の計測、動脈硬化の測定を行った。総計、68名の相談者があった。他のコーナーよりも多くの人で賑わい、うるま市長からも激励のお声をかけていただいた。薬剤師12名で連携して対応し、2時半に終了した。

(27) 平成26年度沖縄県献血推進協議会

2月17日（火）県庁

前濱常務理事より、次のとおり報告された。献血推進協議会はリピーターを増やすために高校生を対象に動いている。血液センターから学校に講師を派遣して献血について講話をしてもらい、献血車が採血に出向く。高校生の時に献血したことがあると大人になってから定期的に献血に来る人が多いとのこと。

(28) 学校薬剤師部会全国担当者会議

3月4日（水）日薬

前濱理事より、次のとおり報告された。部会の行動計画として部会のブロック会議開催が了承された。日程的には、次年度、長崎でブロック会議が行われる時に開催したい。平成27年度からは、学薬の負担金はとらないことになった。

(29) 財務委員会

2月18日（水）・3月10日（火）県薬

(30) 豊見城薬局との打ち合わせ

2月18日（水）会営薬局とよみ

(31) 平成26年度第2回健康づくり（福寿うちな〜）推進協議会

2月24日（火）サザンプラザ海邦

我喜屋理事より、次のとおり報告された。協会健保沖縄支部が組織している当協議会では、4年前からジェネリック医薬品の使用促進についてクローズアップされていたが、今回の内容にはジェネリック医薬品の件はなかった。今回は、特定保健受診率が少しずつ向上してきているという報告があった。そして沖縄県は平成12年から平成19年までは低出生体重児の割合は全国1位がずっと続いており、妊娠初期の栄養摂取状態が大きな要因ではないかということで調査に入っている。次に、データヘルス計画を3年計画で協会健保が行っている。35歳〜74歳の脂質異常者の中性脂肪を6%減らすという目標で行っている。65歳までの死亡率が沖縄は1位ということである。

(32) 平成26年度第3回地区調整機構会議

2月27日（金）ホテル福岡ガーデンパレス

(33) 薬学生実務実習受入委員会

3月3日（火）県薬 <資料配布>

我喜屋理事より、次のとおり報告された。薬学生実務実習九州山口地区調整機構会議があり、41名の参加であった。ワークショップの件で、病院薬剤師側の指導薬剤師が60歳定年でリタイアする方が多くなることで、病院枠をSG（スモールグループ）1つにつき1名増やしSG10名枠で受けることになった。年3回のWS（ワークショップ）で、それまで42名だったところ63名となる。審議事項の中で、実習対象学生が進級できず、実習が受けられなくなった場合、受入薬局の準備もあるため、早急に連絡もらえる体制を検討いただきたいとのことであった。また県内でワークショップ参加者を募っているが、11～12名からの希望がきている。地域単位のバランスを考えて派遣していきたい。今後、委員会としても地区薬剤師会と連携を密に取っていきたい。

(34) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

我喜屋理事より、次のとおり報告された。今月のとよみの状況で、薬剤師1名が退職したと、また5月の連休に向けて薬剤師シフトを調整すること、豊見城薬局との日曜日、祝日のシフトを病院側に、早めに連絡しないといけないこと等となっている。また内定が決まっている新卒者の国家試験の結果が気になるが、いつ頃から勤務できるのか調整中である。

神村会長より、次のとおり述べられた。先日、当県で開催された九州ブロック会義で、日薬会長に、救急対応の薬局においては管理薬剤師の兼務を認めていただくことを日薬の方で交渉できないか質問した。これは各県で対応すべきとの回答であったが、九州4県からの意見で、救急対応で会営薬局であること等の条件のもと県から了承されているとのこと。これまでも県および保健所と積極的に交渉しているが、これらの他県の状況を参考に県側と交渉していきたい。

(35) 平成26年度第2回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議

2月19日（木）南部保健所 <資料配布>

新垣理事より、次のとおり報告された。健康おきなわ21主催で、健康展を開催している。その健康展を継続するかどうかの話合いがあった。

(36) 平成26年度第3回地域医療支援病院運営委員会 2月19日（木）パシフィックホテル沖縄

神村会長より、次のとおり報告された。豊見城中央病院で地域医療支援病院運営委員会があった。委員のメンバーは糸満市長、豊見城市長、豊見城市消防署長、登録医の代表、南部地区医師会長、県薬剤師会長、そして一般の方の構成となっている。

(37) 日本薬剤師会 第84回臨時総会

2月21・22日（土・日）ホテルイースト21東京

神村会長より、次のとおり報告された。2日間にわたり開催された。会館建設の問題やチェーン薬局の薬歴管理をしていなかったことについては、メディアであれだけ大きく取り上げられていることもあり、次の調剤報酬改訂のときに非常に問題になるだろうとのことであった。それ以外については、日薬の会報を読んいただきたい。

(38) 沖縄県交通遺児育成募金贈呈式

2月24日（火）琉球新報社

神村会長より、次のとおり報告された。この募金は毎年行っており、これまでに3団体で25回行い、総額17,470,000円になっている。

(39) 地区会長会議

2月28日（土）県薬

神村会長より、次のとおり報告された。各地区からいろいろ報告いただいた。北部地区から保健所を通じて全国で事例が増えている子供の医薬品の誤飲防止のため、注意を促すポスターを作成し、県民に周知してほしいことの説明があった。県薬でポスターを作成し、各薬局に

配ることとした。中部地区から、お薬手帳にも注意喚起文を掲載してはとの提案があった。これについても在庫をみて実施していきたい。

(40) 九州厚生局長来局 3月4日(水) 県薬

(41) 沖縄県医療審議会医療法人部会及び有床診療所部会 3月9日(月) 県庁

神村会長より、医療法人部会及び有床診療所部会の会議で資料の持ち出しは厳禁であるため、資料を提示できない。委員は医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、弁護士の5団体である。

(42) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 幹事会

3月11日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(43) 平成26年度薬剤師継続学習通信教育講座・スクーリング 2月22日(日) 県薬

村田理事より、女性薬剤師部会の活動として、平成18年から行っている通信教育で、スクーリングを2月22日に行った。毎年4月から翌年3月までに、一般社団法人日本女性薬剤師会発行の10冊のテキストが配布され、スクーリングは年1~2回行うよう、現地女性薬剤師部会に任されている。沖縄は毎年1回、10部門に対して4部門のスクーリングを行っている。内容に関しては、女性のライフサイクルということで「なおこクリニック」の高宮城先生、肩こり・腰痛で「よしかわ整形クリニック」の吉川先生、糖尿病で「田仲医院」の田仲先生、睡眠は「名嘉村クリニック」の名嘉村先生にお願いし行われた。人数が52人と昨年よりはわずかに減少した。一般社団法人女性薬剤師会が認定機構になり単位を出すようになったため、今回日本薬剤師研修センターの単位がつけられなかったことが影響したのかと考えている。研修センターは20%の互換性を、女性薬剤師会は50%の互換性を認めているので、次年度はこの周知を図りたいと思う。当日は10時から4時まで、1コマ70分で行ったとの報告があった。

(44) 平成26年度自殺予防対策事業 ゲートキーパー(薬剤師)スキルアップ研修会

3月8日(日) 県薬

村田理事より、次のとおり報告された。今回、埼玉薬剤師会の作成したDVDの視聴と、沖縄県の自殺を取り巻く実情報告、仲本晴男先生の講演の形で行った。自殺者は全国で3万人を超えていたが平成24年を境に3万人を切っている。沖縄県も300人を超えていたのが平成24年度274人、25年度278人、平成26年度も去年と同じ278人を推定しているとのことである。仲本先生はうつと認知行動療法について、对患者さんのみならず周囲の方や職場での対処法についても詳しく語られた。例えば自殺が起こった場合、すみやかに正確な情報をすぐに流さないといけない、そうしないと勝手な憶測が流れ傷つく人が増えるとのことであった。参加者が31人と少なく残念であった。

(45) 平成26年度第2回自殺対策検討委員会

3月10日(火) 県薬 <資料配布>

村田理事より、次のとおり報告された。委員会では、これまでの反省と次年度の計画について話し合った。気づき、つなぐための体制づくりとして、情報提供書のフォームを考案中で、医師会とも連携しながら作成し、完成次第、恐らく次年度になると思うが各薬局に配布したい。

(46) 健康とおくすり相談会(那覇地区)

2月22日(日) 経塚シティ

姫野理事より、次のとおり報告された。13時~16時で、場所はサンエー経塚シティで開催した。相談員は5名、相談者は45名であった。

亀谷常務理事より、次のとおり述べられた。サンエーも非常に協力的である。参加者といろいろ話もできるので自分の勉強にもなる。是非、皆さんも相談員として参加し地域に貢献してください。

(47) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 審査委員会

2月23・24・25日（月・火・水）社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室

(48) 抗インフルエンザウイルス薬・衛生資器材の流通状況及び

在庫状況把握体制についての各卸との打ち合わせ 2月24・26日（火・木）県薬

田場専務理事より、次のとおり報告された。沖縄県新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、パンデミックの際の県備蓄薬の放出時期を判断するため、抗インフルエンザウイルス薬・衛生資器材の流通及び在庫状況把握が必要とのことで、県から薬剤師会が業務委託を受け、その内容を県内卸業者5社琉薬、スズケン、ダイコー、アトル、沖縄東邦を集めて説明会を行った。

(49) 沖縄県保健医療部健康長寿課より来局

2月25日（水）県薬 <資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。沖縄県保健医療部健康長寿課より、健康長寿おきなわ復活に向けたロードマップの作成について、県民会議に向けての説明であった。そこで県薬剤師会も新たな取り組みとして「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業」を始めたことを伝えた。

(50) 平成26年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会

3月5日（木）沖縄県総合福祉センター <資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。吉田久子先生の代理で参加した。

(51) 平成26年度第2回薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会 2月27日（金）日薬

(52) 会計監査

2月27日（金）・3月2日（月）・3月3日（火）県薬

(53) 沖縄県防災会議委員の就任及び幹事の推薦について

<資料配布>

吉田副会長より、次のとおり報告された。3月2日に災害対策委員会を開催した。災害対策基本法に基づく「指定地方公共機関」に沖縄県薬剤師会が指定された。「指定地方公共機関」に指定されたことで、救急車両の事前登録が可能になり、県からの要請により災害現場への派遣に対応することになる。また沖縄県防災会議委員の就任及び監事の推薦依頼があり、防災会議の委員に神村会長、幹事には災害対策委員長である私で届出をした。

神村会長より、次のとおり述べられた。これまで「指定地方公共機関」には薬剤師会の名前がなかったが、指定されたということは、これまでの災害現場において、薬剤師の活動が認められたということである。とても良いことであると同時に、それだけ責任が重くなる。

(54) 平成26年度事業報告、決算書の提出について

田場専務理事より、次のとおり報告された。各部会は、平成26年度事業報告、決算書、各地区は、平成26年度事業報告をともに4月20日までに提出をお願いしたい。

お知らせ

<県薬が会員に販売している印刷物等>

○ 国保総括票	25枚	1冊	100円	○ お薬手帳カバー	1枚	22円
○ 市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円	○ 薬歴カード	各1枚	5円
○ 市町村別請求書（その2）	1枚		10円	（ 国保（本人・家族）青色 社保（本人）白色 社保（家族）桃色 ）		
○ 調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○ 管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○ 処方せん	100枚	1冊	160円			

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ 価格 税抜き12円

【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ 価格 税抜き22円

平成27年4月

- 1水○三師会懇談会 えなみ(那覇市) 神村会長
 ○浦添地区地域連携の会(研修会) ラグナガーデンホテル 共催:ブリストル・マイヤーズ(株)
 ○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏
- 2木○平成27年度第1回定例幹事会 県薬研修室
 ○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏
- 3金○**管理薬剤師業務講習会(宮古)** 宮古地区薬剤師会事務所 講師:仲真委員長(医療保険委員会)
- 4土○第3回琉球整形外科フォーラム 沖縄県医師会館 共催:中外製薬(株)
- 8水○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 神村会長
 ○沖縄県保健医療部薬務疾病対策課を訪問 県庁 神村会長、田場専務理事、山城課長
- 9木○八重山地区リウマチ疾患勉強会 沖縄県立八重山病院
 ○平成27年度第1回フィジカルアセスメントに関する打合せ会議 県薬研修室
- 11土○沖縄認知症ネットワーク第25回学術集会 沖縄県医師会館 共催:エーザイ(株)
 ○平成27年度第1回定例理事会 県薬研修室
- 12日○学校薬剤師部会役員会 部会室
- 13月○損保ジャパン日本興亜来訪 県薬会議室 亀谷常務理事、大城係長
 ○中部地区研修会「臨床薬剤師育成講習会」(株)ダイコー沖縄
- 15水○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・前原
 ○沖縄糖尿病・生活習慣病学術講演会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催:大正富山医薬品(株)
- 16木○新規経口抗凝固薬学術講演会 ザ・ナハテラス 共催:ブリストル・マイヤーズ(株)
- 17金○糖尿病学術講演会 沖縄県医師会館 共催:第一三共(株)
 ○第7回OPEN学術講演会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催:グラクソ・スミスクライン(株)
 ○八重山地区薬剤師会総会 大濱信泉記念館(石垣市)
- 18土○**学術研修委員会主催「ハイリスク薬の薬学的管理講習会」** 県薬ホール 講師:松本有右氏
- 20月○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 21火○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・前原
 ○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 22水○九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会 福岡県薬剤師会館 我喜屋理事
 ○**管理薬剤師業務講習会** 大濱信泉記念館 講師:仲真委員長(医療保険委員会)
 ○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 23木○なごみ会主催県民健康フェア第4回実行委員会 沖縄県医師会館 笠原理事、稲福係長
- 26日○**平成27年度学校薬剤師部会新任研修会** 県薬研修室
 ○学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
- 27月○九州山口薬剤師会代表者会議 福岡県薬剤師会館 神村会長、吉田副会長

27月○九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関評議員会 福岡県薬剤師会館 神村会長、吉田副会長

28火○平成27年度「薬と健康の週間」第1回調整会議 那覇市保健所 田場専務理事、稲福・大城両係長

○日本薬剤師会雑誌寄稿記事に関する打合せ 県薬会長室 神村会長、宮城常務理事、大城係長

30木○健康情報拠点推進事業会議 県薬会議室 田場専務理事、江夏常務理事、笠原理事、上原幸代委員（保健福祉委員会）、稲福係長

平成27年5月

1金○平成27年度 第1回沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学医学部管理棟 神村会長

○平成27年度第1回スポーツ医・科学委員会 沖縄県体育協会スポーツ会館 薬事情報センター吉田典子

7木○決算会計監査 県薬会議室 大城・伊敷両監事、神村会長、田場専務理事、山里常務理事、山城課長、事務局金城・前原

○グッジョブおきなわ推進事業「未来の人材育成事業」について打ち合わせ 県薬研修室 大城恭子（学校薬剤師部会副部長）、大城係長

8金○社会保険診療支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 神村会長

10日○学校薬剤師部会役員会 県薬部会室

11月○第1期薬学生実務実習開始（7月26日迄） 各薬局

○実務実習オリエンテーション 県薬研修室

○沖縄県薬業連合会監事監査 県薬会議室

12火○沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会（南部地区） 沖縄協同病院 共催：大日本住友製薬（株）

○平成27年度第2回定例幹事会 県薬研修室

13水○平成27年度第1回都道府県会長協議会 日本薬剤師会 神村会長

○沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会（中部地区） 翔南病院 共催：大日本住友製薬（株）

○平成27年度第1回医療安全対策委員会 県薬研修室

14木○個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長

15金○平成27年度第1回九州・山口地区実務実習調整機構会議 博多都ホテル 我喜屋理事

○TPPから国益を守る沖縄県民集会 浦添市てだこホール 山城課長

○糖尿病治療を考える会 ヒルトン沖縄北谷リゾート 共催：田辺三菱製薬（株）

16土○平成27年度第2回定例理事会 県薬研修室

17日○なんみん祭 波上宮 田場専務理事

○那覇地区薬剤師会総会及び特別講演会 県薬ホール

19火○沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部会議 沖縄県市町村自治会館 田場専務理事

○南部地区研修会「南部地区喘息講演会」 豊見城中央病院

20水○平成27年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 サザンプラザ海邦 神村会長

○平成27年度那覇市政功労者表彰 那覇市パレット市民劇場 西登貴世（被表彰者）

21木○沖縄県自然保護課・緑化推進課より来訪 県薬会議室 宮城常務理事

○個別指導（2薬局） 県庁 川満直紀氏（医療保険委員会）

○医療従事者のための吸入指導ワークショップ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 共催：グラクソ・スミスクライン（株）

- 21木○北部地区薬剤師会学術研修会（がんの痛みの治療とレスキュー薬の役割） 北部地区薬剤師会館
- 23土○第5回沖縄抗H I V薬勉強会 琉球大学医学部附属病院臨床講義棟 共催：ヴィーブヘルスケア（株）
- 宮古地区薬剤師会総会 宮古地区薬剤師会事務所 神村会長
- 24日○中部地区薬剤師会総会 沖縄市産業交流センター 田場専務理事
- 25月○薬学生実務実習（学校薬剤師について） 県薬研修室 講師：笠原理事
- 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会第6回在宅医療連携システム構築に係る小委員会 沖縄県医師会館 吉田副会長、笠原理事
- 26火○管理者会議 県薬研修室
- 社会保険診療支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 27水○自然環境保全審議会温泉部会 県庁 宮城常務理事
- 平成27年度第1回沖縄県自然環境保全審議会 県庁 宮城常務理事
 - 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株）ダイコー沖縄
 - 社会保険診療支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 28木○個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長
- 平成27年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会 ラグナガーデンホテル
 - 社会保険診療支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 29金○グッジョブおきなわ推進事業「未来の人材育成事業」医療産業講話 浦添市立浦西中学校 講師：松尾はつよ氏（学校薬剤師部会）、大城係長
- 平成27年度第1回スポーツファーマシスト委員会 県薬会議室
- 30土○熱中症フォーラム2015 沖縄県立博物館・美術館 共催：（株）大塚製薬工場
- 沖縄ニコチン依存症研究会学術講演会 沖縄県医師会館 共催：ファイザー（株）
- 31日○実務実習指導薬剤師養成講習会 県薬研修室
- 実務実習指導薬剤師更新認定講習会 県薬ホール
 - 学術研修委員会主催「第1回薬剤師のための症例検討入門研修会」 県薬ホール 講師：大澤友二氏
 - 広報委員会主催「アッセンハイマー慶子氏 来日記念講演会」 県薬ホール

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成27年4月

- 4土○自由民主党沖縄県支部連合会総務会 沖縄県市町村自治会館 神村会長
- 自由民主党沖縄県支部連合会大会 沖縄県市町村自治会館 神村会長
- 16木○「名簿管理システム」説明会 日本薬剤師会 山城・稲福（事務局）

平成27年5月

- 13水○宏池会と語る会 東京プリンスホテル 神村会長
- 17日○全国女性薬剤師の集い2015 グランドプリンスホテル新高車輪（東京都） 宮城敦子総務、前濱朋子氏
- 27水○沖縄県薬剤師連盟総務会 県薬研修室

転載記事

平成27年5月22日(金) 沖縄タイムス

国際医療拠点骨太方針へ

自民沖縄振興調査会 西晋天間跡地で議論

【東京】自民党沖縄振興調査会(猪口邦子会長)に新設された「西晋天間基地跡地における国際医療拠点化等推進小委員会」の初会合が21日、党本部であり、

政府が6月にとりまとめる「骨太の方針」に反映させるよう、具体的な議論を活発化させることを確認した。

委員長に就任した山本一



会合の冒頭であいさつする山本一大委員長(東京・自民党本部)

太前沖縄担当相は「官房長官から『政府も全面的にサポートする』との約束を頂

り上げることが大事」と意欲を示した。この日は、内閣府や防衛省、文科省、厚労省などの担当者らが取り組み状況などを報告した。委員らからは、アジアを中心とした海外からの利用を見据えた高度医療機器の導入や、環境整備の必要性が示された。

約900億円とされる琉球大学医学部・付属病院の移転費用に関する大学側との協議、米軍の医療機関との連携、国道58号へのアクセス確保、地元との合意形成などへの意見も出た。来週(22日)の第2回会合では、宜野湾市や県の担当者から聞き取り調査する予定。

平成27年5月28日(木) 琉球新報

琉大 学長、新設を検討

薬学部

獣医学部

醸造学科

琉球大の大城肇学長は27日、薬学部や獣医学部、醸造学科の新設を検討していることを記者懇談会で明らかにした。大城学長は「個人的な考えの段階」と断った上で「沖縄の自然や亜熱帯気候を生かした分野で優

位性があるのではないかとまずアドバイザー会議に提案し、意見を聞いてみたい」と話した。学長に助言などを行うアドバイザー会議は、堀場製作所(京都)の最高顧問の堀場雅夫氏ら9人の外部

有識者で構成。6月19日に東京で開催する予定。大城学長は薬学部について「沖縄の資源を活用し、創薬に結び付ける研究と人材育成を担う分野が必要だ」と必要性を強調した。獣医学部については、獣

医師会が獣医師を現状から増やさない方針を掲げているとして、当初、新設は難しいと考えていた。しかし、県内ではウシやヤギなどの産業動物を担当する獣医数が不足していると言われていることから「産業用動物に関する獣医師を育成できれば」と語った。醸造学科については「亜熱帯湿潤な気候を生かせられれば、発酵学の分野で沖縄は優位性があるのでないか」と語った。

転載記事

平成27年5月29日(金) 沖縄タイムス

創薬の研究者育成を

県薬剤師会 琉大新学部要請へ

琉球大学の金城肇学長が、会（神村武之会長）は29日、薬学部の新設を検討している。すでに、創薬の研究者を育成することについて、県薬剤師会成する質の高い学部にする

ことをなごを同大学に要請することを決めた。宜野湾市の米軍キャンプ瑞慶覧・西晋天間住宅地区跡地に設立が検討されている新薬の研究拠点「沖縄メディカル・イノベーション・センター（OMIC）」との連携も求めている。OMICの構想を受け、同会は4月11日に理事会を開き、薬学部新設の必要性を確認していた。神村会長は「OMICができたら協力する研究教育機関が必要になる。そのためには

琉大に薬学部が必要だ。今動かないと、県外大学と連携することになるだろう」と指摘。「創薬研究など高い専門知識を持つ人材の育成に特化した学部にするべきだ」とした。

薬学部を設置する②沖縄科学技術大学院大学や新薬開発会社と連携し創薬研究者を育成する③定員は1学年60～70人程度で10～15人の地元枠をつくる。大城学長の構想について、神村会長は「会としても後押しをしたい」と話した。

琉大に薬学部要請へ

県薬剤師会 西晋天間移転見据え

県薬剤師会（神村武之会長）が、琉球大学（大城肇学長）に薬学部を創設するよう週明けにも要請すること

意向を示している。

とが28日、分かった。西晋天間住宅地区跡地への琉大医学部と付属病院の移転計画を見据え、創薬研究者の養成につなげることを目指す。大城学長は、薬学部をはじめ獣医学部や醸造学科の新設について「可能かどうかも含め外部の識者に意見を聞きたい」と前向きな

力して新薬を開発する「沖縄メディカル・イノベーション・センター」（OMIC）が同地区跡地に検討されていることも視野に入れている。琉大への要請には①臨床薬学や創薬学教育での医学部との連携②沖縄科学技術大学院大学（OIST）や新薬開発の製薬会社との連携による研究者養成③定員は1学年60～70人程度

で、地元枠10～15人の設定を盛り込む方針だ。

い薬剤師養成の実現を願っている」と話した。

県薬剤師会は4月11日の理事会で薬学部創設に向けた方針を決定。同28日には県に同様の要請を済ませており、県幹部から協力する意向を取り付けている。

神村会長は「創薬研究者の人材育成のために必要だと判断した。大きな目的は現場で働く薬剤師の養成ではない。海外で活動できる医療の担い手として質の高

政府は国家戦略で同地区跡地に国際医療拠点を形成することを計画。6月にまとめる2016年度「骨太の方針」に琉大医学部と付属病院の移転を盛り込むことを検討している。

琉大に薬学部が必要だ。今動かないと、県外大学と連携することになるだろう」と指摘。「創薬研究など高い専門知識を持つ人材の育成に特化した学部にするべきだ」とした。

薬学部を設置する②沖縄科学技術大学院大学や新薬開発会社と連携し創薬研究者を育成する③定員は1学年60～70人程度で10～15人の地元枠をつくる。大城学長の構想について、神村会長は「会としても後押しをしたい」と話した。

政府は国家戦略で同地区跡地に国際医療拠点を形成することを計画。6月にまとめる2016年度「骨太の方針」に琉大医学部と付属病院の移転を盛り込むことを検討している。

転載記事

平成27年5月22日(金) 沖縄タイムス

金薬局「かかりつけ」移行

厚労省検討 医療費抑制狙う

厚生労働省は2025年までに全国の薬局を「かかりつけ薬局」に再編し、重複投薬を防止する。24時間調剤や在宅患者の服薬指導も対応する。病気の予防や健康づくりにも貢献する。また、健康ポイント機能も整備する。2016年度の診療報酬改定に反映する。

厚生労働省が検討する薬局改革のポイント

- 2025年までに全国の薬局を「かかりつけ薬局」に再編し、重複投薬を防止
- 24時間調剤や在宅患者の服薬指導も対応
- 病気の予防や健康づくりにも貢献する
- 健康ポイント機能も整備
- 2016年度の診療報酬改定に反映

らみ続ける医療費の抑制にもつなげる狙い。患者が「かかりつけ薬局を決め、どの病院を受診してもその薬局に処方箋を持ち込める環境を目指す。24時間調剤に当たり、在宅患者に服薬指導したりする機能も整備する。

高齢者の厚労省が20日の経済財政諮問会議で、採薬に向けた「薬局構造改革ビジョン」(仮称)を作成すると表明する。16年度の診療報酬改定で「かかりつけ薬局普及」に向けた考えを反映させる。13年度の薬関連の医療費は7兆円、財

務費が削減を求めている。厚労省の調査では、医療機関の近くにあり、主にその医療機関の処方箋を受け付けている「門前薬局」が薬局全体の7割を占める。薬剤師の役割も調剤や在庫管理など薬中心の業務が多い。改革ビジョンでは、薬局や薬剤師が患者との関わりを増やし、専門性発揮できるようにする考えだ。処方内容のチェックやシエネリッパ医薬品(後発薬)の使用促進などを診療報酬で高評価する仕組みを検討する。

病気の予防や健康づくりに貢献する「健康サポート機能」を備える薬局も増やす。処方箋などで購入できない一般医薬品(OTC)や医療・介護用品なども販売し、相談にも応じる情報拠点としての役割を期待している。

高齢化による在宅患者の増加を見込み、抗がん剤や免疫抑制剤など高度医薬品の管理も対応できるように促す。

平成27年5月12日(火) 琉球新報

◆おきなわ津梁ネットワーク 患者の負担解消へ

患者本人の同意を得て、医師や保険者が健診、診療データなどの医療情報を共有する情報システム「おきなわ津梁ネットワーク」が、本格稼働して1年半が過ぎた。県民への浸透はまだだが、転院時や主治医の変更による患者の負担を軽くし、質の高い医療を受けられる連携も始まる。全国初といわれるシステムの特長や、登録する利点、周知への課題を運営する県医師会に聞いた。

(新垣梨沙)



患者の状態をいち早く把握でき、効率よく治療できるという。

周知課題に

集積したデータを閲覧できるのは、医療機関と患者本人が加入する保険者に限定されている。ネットワークの運営に携わる県医師会の比嘉理事は「データを閲覧した履歴も全て記録され、閲覧者も随時確認できるようにになっている」と話

健康長寿復活へ

沖縄は平均寿命で順位を下げ、65歳未満の死亡割合が男女共に全国ワーストと深刻な状況だ。これを受け、県は健康長寿復活に向けたプロジェクトをつくり、2040年までに平均寿命1位を奪回する目標を掲げている。

県医師会でも沖縄の長寿復活を目指して、13年10月に働く世代のメタボや糖尿病対策、脳卒中や心筋梗塞などの対応を柱とした「おきなわ津梁ネットワー

医療施設の拡充と登録者を獲得していく考えだ。健康フェアで医師会の説明を聞き、家族7人分を登録したという石垣市の30代の主婦は、月に1度、子宮頸がんの治療のため本島の医療機関に通っている。「病院や主治医が変わる度に、問診で同じ話をすることに負担を感じていた。将来、ネットワークを活用して八重山で治療ができればいい」と期待する。

ネットワークに参加することで、患者の検査データなどが前もって得られ、適正な薬剤が使われているか、副作用が出ていないかを確認できるといふ。県薬剤師会の吉田洋史副会長は「薬剤師と病院でダブルチェックをかけることが、患者にとって大きな利点」と語る。

新たな連携へ

県医師会は、ことし中に県薬剤師会と調印を結び、調剤薬局で管理する薬剤情報や医療施設の検査情報の共有化を進める。病院から出される処方箋には病

一方で、稼働から1年半が過ぎた15年3月末現在、参加医療施設は130施設、登録数は6226人と、まだまだ普及していない状況だ。ネットワーク事務局の平良亮課長は「登録には患者の同意が大前提。一人一人にメトリックや個人情報を取り扱いを説明しているため、一度に大勢を登録することが難しい」と話す。

離島地域などで登録施設が少なくないことも課題だ。県医師会は、広報活動を積極的に行うことで、ネットワークに対応する

転載記事

平成27年6月8日(月) 沖繩タイムス



働く姿プロから学ぶ

浦添 浦西中でキャリア教育

【浦添】社会で働くイメージを膨らませてもらうと浦西中で5月29日、観光、建設情報通信、医療の計4分野のプロから話を聞く授業が1年生152人を対象にあつた。県が委託した未来の産業人材育成事業の一環。

県建設業協会で、庶務課長を務める久高唯和さんは「沖繩では10人に1人が建設業関連」と説明した。建設業は、道路やダムを造る土木工事とビルなどを造る建築工事に分かれていることを伝えた上で「東日本大震災の時、自衛隊よりも救急車よりも先に、がれきをどけて道を開いたのが地元の建設業者」と強調

調。災害時にも大切な役割を果たすと訴えた。

根間晋羽さんは「遑る以外に、助けて守る」、下地琉輝君は「津波などにも備えている」とメモを取った。

県薬剤師会の松尾はつよさんのクラスでは、金城功次君に「それ朱礼だよ!」と止められながらも金城達樹君が「失敗談はありますか」と質問。松尾さんは、緊張のあまり薬の量を間違えて調剤したことがあると明かした。

腸は正露丸のオレンジ、頭はバブロン、紺など、体の場所ごとに疋気にする色が違うというカラーセラピーの知識も披露。金城優真さんは「久しぶりにこんなにメモ書いた」と引き込まれた様子で、倉皇悱黎さんは「どんな仕事でもコミュニケーションが大事な」と話になすいていた。

会員の松尾はつよ氏が講演

平成27年5月1日(金) 沖繩タイムス

茶の話題

かわいい初孫が生まれた時、わが家は大きな喜びにあふれた。童謡の私には童謡は歌えない。代わりに読み聞かせをしてあげようと思った。どうせなら上手に読まなきゃと、公民館講座「初孫から学ぶ朗読講座」を受けた。高名な男優さんが講師である。

骨格・筋肉の説明、力を抜き、感覚をひらく体操、呼吸法、発声練習、言葉遊び詩を経て、やっと朗読の練習に入る。とても一朝一夕にできるものではない。

引き続き朗読サークルに入った。先生方がすばらしい。うっとりする声と抑揚で、寝ている活字を起こし3次元の世界に誘う。温かい人間性まで感じさせる。私が守歌代わりにした言葉遊び詩の

孫への読み聞かせ

狩俣 イソ(63)

中に、谷川俊太郎の「のはな」がある。

はなののはな
はなののはな
なすなのはな
なまのいばな

孫たちはこの詩を泣きやみ、よく眠った。ナ行は優しい気持ちになり落ち着くのである。ちなみに活発にしたいときはナ行がよく、「かつほ」という詩がある。

朗読は難しい。私の声は全く響かず裏返し、ますます自分の拙さを感じる。でもまあなんとか逆腹式呼吸、一章一拍、槽舌アクセントに気を付けるように、孫たちに読み聞かせをしている。小学校の読み聞かせボランティア活動にも参加している。今では小学生になった初孫も、図書館の本を借りまくっている大の本好きである。(浦添市、薬剤師)

会員の狩俣イソ氏投稿

アンチ・ドーピングと薬物治療

(一社) 沖縄県薬剤師会 理事

(公財) 沖縄県体育協会スポーツ医・科学委員会委員 JADA 認定スポーツファーマシスト 笠原大吾



一昨年、2020年の東京オリンピックの開催が決定したことから、国内のスポーツ熱は高まり、これは沖縄県も例外ではありません。

加えて、沖縄県はスポーツアイランド構想を打ち出しており、多くのアスリート・スポーツ愛好者が沖縄を訪れています。このような背景のもと、オリンピック代表選手をはじめとするトップアスリート、一般スポーツ愛好者、疾患予防またはリハビリテーションのために運動(療法)を行っている者などが、薬物治療をする場合にどのような点に注意したらよいのでしょうか。

一般にドーピングと言えば、公正さを基本とするスポーツ競技において重大なルール違反であるのみならず、選手の健康自体にも影響を及ぼす可能性のある危険な行為であることは周知のことと思います。また、医薬品の適正使用からもドーピングは見過ごせるものではなく、医療従事者としてアンチ・ドーピングへの取り組みは非常に重要であると考えております。

はじめに、ドーピングに係る禁止薬物については、世界アンチ・ドーピング機構(World Anti-doping Agency; WADA)より出される世界アンチ・ドーピング規程(WADA Code)の禁止表国際基準(The Prohibited List International Standard)に規定されています。禁止と言っても競技会時に禁止されるものもあれば、トレーニング中など常に禁止されるものも

あります。さらに、特定の競技で禁止されている物質もあります。またこの中には、禁止方法、すなわち血管内投与や遺伝子ドーピングに関することも含まれます。既に2015年版(1月1日から発効)が出されております。毎年変更があるため、関係者は常に最新版の情報に注意を払う必要があります。昨年は禁止でなかった物質や方法が、本年は禁止であるということがあるからです。禁止表は、簡単に検索することができますし、日本語に訳したものも(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のホームページより入手可能です。主に医療用の医薬品については成分も明らかなので、当該年の禁止表と照らし合わせることでほぼ禁止物質を服用してしまうことは避けられます。問題なのは、ドーピング目的で禁止物質を使用するつもりがなくても、市販のかぜ薬などを服用して、その中に禁止物質が含まれており、ドーピング陽性となってしまうことです。例としては、興奮薬として禁止されているメチルエフェドリンを含むかぜ薬は数多く販売されており、十分に調べずにこのような製品を服用してしまうケースがあります。“うっかりドーピング”と言われるこれらのケースは盲点と言えましょう。サプリメント(栄養補助食品)の摂取はさらに注意を要すると思われます。多くの成分を含むこれらのサプリメントは、禁止成分が含まれる可能性が成分の明示されている医薬品よりも高いからです。

《生涯教育コーナー》

最近では、スポーツドクター等の支援のほかに、スポーツファーマシストとして、我々薬剤師も貢献が大いに期待されています。2009年度より始まったJADA認定の公認スポーツファーマシスト制度ですが、県内でも調剤薬局や病院の薬剤師に50人を超える公認スポーツファーマシストがおります。登録制で(個人名の)検索もできるので、服用する医薬品等に禁止成分が入っていないかどうか、あるいは禁止成分を含まない薬には何があるか薦めてほしいなどの個人的な依頼もあります。しかし、個人的に回答することについては誤回答のリスクがあるため、沖縄県薬剤師会では、公認スポーツファーマシストのメンバーから成る委員会の中で、これらの事例を必ず複数人で検討し、誤りがない回答をしています。最後には医薬品等の摂取は自己責任ということになっておりますが、可能な限り正しい情報を供給することは、スポーツファーマシストの使命と思っております。

次に、薬物療法を続けている競技者に対しては、治療使用特例 (Therapeutic Use Exemptions;TUE)というものがあります。これは、禁止物質・禁止方法を治療目的で使用したい競技者が申請して、認められれば(基準を満たす必要があります)、有効期限付きでその禁止物質・禁止方法が使用できる手続きのことで、また、対象の競技種目・競技大会も決められております。基本的にはTUEは事前申請になっておりますが、場合によっては事後の遡及的申請が認められる場合もあります。競技者と担当医が申請書類を作成して、競技者がJADAに提出します。詳細は、JADAのホームページをご覧ください。

また、サプリメントに含まれる化学物質名を調べる際には、名前に紛らわしいものや国際一般名(INN)やIUPAC命名法で

記載されている場合があります。例えば、メチルヘキササンアミンは、興奮薬として競技会時に使用が禁止されている物質ですが、別名も多く、判断を困難にしている物質の一つです。検索に関しては、最近ではGlobal DRO(Global Drug Reference Online)によって誰でもオンラインで検索が可能です。世界4か国(日本、アメリカ、カナダ、イギリス)の国内アンチ・ドーピング機関が管理するデータベースで結果の信頼性も高いのですが、競技者自身が使いこなすのはなかなか難しいのではないかと思います。

このようなことのサポートも含め、スポーツファーマシストは活動しております。2014年度より(公財)沖縄県体育協会のスポーツ医・科学委員会内にスポーツファーマシスト部会ができました。現在、私ともう1名が委員に選任され、アンチ・ドーピングに係る情報提供や啓発活動に努めております。

末筆になりましたが、このような発表の機会を与えていただきました那覇市医師会の真栄田篤彦会長に深謝いたします。

日本アンチ・ドーピング機構

<http://www.playtruejapan.org/>





誌上ギャラリー（裏表紙）について

上：「ポタラ宮」 撮影地：チベット photo by 屋嘉比 康作（屋嘉比薬局・名護市）

中央：「フラミンゴの大群」 撮影地：アフリカ ケニア photo by 成川 玲子（レオナ薬局・那覇市）

下：「海の宝石 ウミウシ(海牛)」 撮影地：阿嘉島（沖縄県座間味村） photo by 吉富 弓江（(株)琉葉・浦添市）
カラフルでおいしそうですが、食用には向きません。

編 集 後 記

会報の薬学の歴史も終了となる。このタイミングで、5月にはドイツの薬局尽くしとなった。ハイデルベルグの薬事博物館のフーバー館長の話しを聞く機会を得て東京へ、沖縄県薬剤師会会館ではドイツで薬局を開局されているアッセンハイマー慶子先生のヨーロッパ薬局事情の話を聞いた。地域に密着したドイツの薬局、患者さん自身が自分の服用に責任を持っていること、等、興味深い話だった。この流れで行くと、次は沖縄県薬剤師会様ご一行でのヨーロッパツアーか？と夢は膨らむ。しかし、長期休暇のためには、まずは薬剤師の確保だろうか・・・（TOMO）

デザインを変えた新しい名刺を持ち始めた途端、出会いがぐんと増えた。新しい出会いだけでなく旧交を温めるきっかけにも恵まれた。それとリンクしてスケジュールもどんどん埋まり、活動のフィールドも広がった。その名刺の秘密、知りたくない？ 実はロゴマークを変え、色を慈愛のパワーに溢れ、幸せを運んでくれるという「マゼンタ」にしたのだ。縁あって、ドイツで薬局を営んでいるアッセンハイマー慶子先生と東京で出会い、ドイツの薬局事情を知ることになる。そんなとき、数年ぶりに再会した友人がイタリア～ドイツの薬局視察旅行の話を持ちかけてきた。これもマゼンタ色の恩恵か？かくして9月に渡独する予定です。（クララ）

編集後記を書くのも今回が最後となる。7月からは他の職務で薬剤師会の活動することになるだろう。思い返せば、この委員会が私が県薬活動に深く関わるきっかけとなっている。「あなたは文章が書けそうね」の一言で時の中村麗子委員長に引っ張られたのだった。以来11年になる。緊張する他の委員会に比べてこの委員会は、わいわいがやがや、仕事なのか遊びなのか判然としないまま、これまで楽しくやってきた。今では若い人たちが多数加わり、マンパワーが充実してきている。安心して彼らに後を託すことができる。今後も本誌が会員の皆様のお役に立ち、且つ、楽しく読んで頂けるであろうことが期待できる。（亀）

今年度会報1・2月号と3・4月号の表紙は似ていると思いませんか？撮影地も写真撮影者も全く異なるのに、同じような印象を持った委員が数人いて、編集会議で会報の「表紙」について話が盛り上がりすぎてしまいました。「会報」がB5サイズから「A4」サイズに変わり、表紙を会員の作品で飾るようになったのはちょうど10年前の平成17年6月号からです。あの頃は「表紙」候補が複数あって、どれにするか決めるのも委員会の大事な仕事でしたが・・・（ここだけの話ですが、委員会が決めた表紙とは別の表紙がいつも採用されるので、いつのまにか委員会の議題から消えて無くなってしまったのですが・・・）今や全国版となった「会報の表紙」ともなると何でも良い、というわけにはいかないの、事務局広報担当のペーター君は相当苦労していたようです。というわけで、今回思い切って「表紙」のコンセプトをもう少し柔軟に幅広く対応しようという事になりました。「外国の薬局」シリーズが第一候補です。先日講演をして下さったアッセンハイマー慶子先生の「ドイツの薬局」が表紙を飾るのも、もう間もなくです。（ピアナ）

「うりずん」という言葉がある。季節を表す沖縄の言葉で、雨の恵みで草花が元気になる雨の多い今の時期と私は思っていた。しかし本当は、春分から梅雨入りの時期の2～4月頃をさすようだ。まあ色んな解釈があるとしておこう。うりずんが終わると太陽がまぶしい季節が来る。もう夏は目の前だ。（みつなり）

アッセンハイマー慶子先生のドイツの薬局・薬剤師に関するお話が聞いてからというものの、頭の中はドイツでいっぱい。次の旅行先にするぞ！と意気込んでいる。特に「薬局の日」の様子が見たい。風船を配ったり、人形劇を呼ぶなんてお祭りのようだ。このアイデアを沖縄で取り入れたい。視察旅行の土産はヴァイツェンかアイスワインかシュトレンか。早くも一人で盛り上がっている。(いさ吉)

ここ最近、あちこちで若手薬剤師の活動が盛んになってきている。その中でも、開局と病薬との交流が目立つようになり、これこそ青年部会としての最も重要なミッションであり、大変嬉しく思いワクワクしている。先月、糸満で働いている複数の若手薬剤師の先生方から相談があると誘われた。その内容とは、近隣で働いている複数の若手（開局・病院薬剤師）を集い、独自での地域活動を承認してほしいとのことだった。『各地区の若手で自由に活動してもらい、各地区組織と青年部会は平等の立場として横のラインで繋がってコラボしていく』という自分の構想に近づける可能性が出てきた！これにより、先輩薬剤師の先生方との交流も容易に作りやすくなり、今後の薬剤師会の発展に繋がっていけばと切に思う…。実に楽しみだ～！！(ごり)

先日、青年部主催のフォーラムに参加しました。薬剤師と政治について、と題した本フォーラムはいつも目先のことばかりな自分を考えさせてくれるよい機会になったと感じています。詳しくは参加報告があるかと思うのでそちらで。今回はその会場となったシーメンズクラブで感じたことを…。初めて行ったシーメンズクラブは米軍人御用達(?)のようなレストランで、店員の方は基本、外人の方が主です。フォーラムが終わり、タクシーを待っている間、大先輩のS先生と少しだけ一緒に飲んでいたのですが、店員さんと話をする滑らかな英語に脱帽。聞けば若いころに実地で言葉を学ぶため本レストランの会員になっていたとか…。全く英語が話せない自分にとってはとんでもない話ですが、現在のNOVAやスピードランニングなどの英語学習も大元はそういうものか、と感じた瞬間でもありました。S先生、今度飲むときは下町居酒屋で沖縄方言から教えてください！(松)

患者さんの使用済みインスリン等の針の廃棄方法に関して、皆さまはどのような対応をしていますか？私の勤務する病院では、患者さんの持ち込んだ使用済みの針の管理方法や廃棄方法が統一されておらず、清掃スタッフへの針刺し事故がおこったこともあります。様々な施設の取り組みを参考に、改善していきたいと考えていますので、是非、アドバイスをお願いいたします！！(三郎)



沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第276号 平成27年6月13日発行

◇次号は、平成27年8月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 神村武之

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 金城印刷



誌上ギャラリー（会員作品）お気軽にご投稿下さい。